

学校安全総合支援事業（文部科学省委託事業）

2019年度学校防災アドバイザー派遣事業 報告書



【高校のLHRでの防災授業】



【防災授業参観】



【防災マップづくり】



【避難経路や避難場所の検討】



【引き渡し訓練】



【高校生と避難住民が話合う様子】

令和2年2月 香川県教育委員会

はじめに

令和2年1月、政府の地震調査委員会は、平成25年5月に公表した「南海トラフの地震活動の長期評価（第二版）」（地震調査研究推進本部地震調査委員会、2013）に基づいて、南海トラフ沿いで将来発生する地震を対象に津波評価を行いました。30年以内に3m以上の大津波が来る確率を、「26%以上（非常に高い）」「6～26%未満（高い）」「0～6%未満」の3段階で評価しており、地方自治体や事業者などにおいて、南海トラフにおける多様な地震に対する津波防災対策に活用されることが期待されています。

各学校（園）においても、学校（園）の災害環境に応じた対策や検討が求められ、より一層の防災教育の充実が急務となっており、①危機管理マニュアル等の継続的な検証及び見直しによる防災体制の整備、②実効性のある避難訓練の実施による地域の関係機関等との連絡・協力体制の構築・整備、③災害発生時における発達段階に応じた児童生徒等一人ひとりの的確な状況判断能力や社会の一員としての適切な行動・態度を育成する防災教育の充実が特に重要となっています。

このような状況を踏まえ、県教育委員会では平成24年度から、防災に関する有識者、各学校（園）種別代表者、保護者代表者等で構成する本事業の推進委員会を設置し、各学校（園）等の防災体制整備や防災教育のさらなる充実に向けた取組みについて検討してきました。また、希望する学校（園）等に防災の専門家を派遣し、要望に応じて危機管理マニュアルや防災教育、より実効性のある避難訓練に対する助言等を実施してきました。このアドバイザーとして、香川大学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構、香川県防災士会、日本技術士会四国本部、高松地方気象台の皆様方にご協力をいただいております。

また、県内公立高校生が、災害時のボランティア活動に関する基本的な理解を深めるとともに、防災体験や救護体験等を通して、災害時ボランティアリーダーの養成とともに支援者としての視点を身に付けることを目的とした「高校生を対象とした災害時ボランティアリーダー養成講習会」を開催しており、今年度は17校から45名の参加者がありました。

本報告書は、今年度に本事業を活用した23校（園）の取組みや、災害時の支援活動に貢献できる力を身に付けるための防災教育の取組みをまとめたもので、ここには、学校（園）における防災体制整備や防災教育の充実に向けた貴重な情報が盛り込まれています。各学校（園）におかれましては、それぞれの実態に応じて本書を御活用いただき、各学校（園）の取組みの一助としていただきますようお願いいたします。

結びに、本報告書の作成にあたり貴重な実践資料を御提供いただきました学校（園）、本事業の推進に御尽力いただきました推進委員会、学校防災アドバイザー、関係機関、関係団体、教育委員会の皆様方に心から御礼を申し上げます。

令和2年2月

香川県教育委員会事務局
保健体育課長 宮滝 寛己

目 次

I 2019年度 学校防災アドバイザー派遣事業

1	2019年度 学校防災アドバイザー派遣事業実施要領	1
	・学校防災アドバイザー活用希望調査	3
	・学校防災アドバイザー派遣申請書	4
	・危機管理マニュアル作成 チェック表	5
	・学校防災アドバイザー派遣事業報告書	6
	・学校防災アドバイザー派遣事業アンケート	7
2	2019年度 学校防災アドバイザー派遣事業推進委員会設置要綱	8
3	2019年度 学校防災アドバイザー派遣事業推進委員会名簿	9
4	2019年度 学校防災アドバイザー派遣計画表	10
5	2019年度 学校防災アドバイザー派遣事業の経緯	12
6	本事業のまとめ(2019年度)	13
7	2019年度 学校防災アドバイザー派遣事業推進委員会の主な意見	21

II 各学校(園)の取組み

1	防災計画や危機管理マニュアル等への助言	
	・三木町立白山幼稚園	23
	・丸亀市立城坤幼稚園	24
	・三豊市立仁尾中学校	25
	・香川県立善通寺第一高等学校	26
2	学校と保護者、地域、関係機関等と連携した避難訓練や防災教育等への助言	
	・観音寺市立大野原幼稚園	29
	・三木町立白山幼稚園	32
	・三木町立ししの子幼稚園・保育所	35
	・高松市立栗林小学校	38
	・坂出市立東部小学校	46
	・観音寺市立大野原小学校	50
	・三豊市立上高瀬小学校	54
	・香川県立飯山高等学校	56
	・香川県立小豆島中央高等学校	60
	・香川県立善通寺第一高等学校	63

・香川県立高瀬高等学校	6 5
・香川県立善通寺養護学校	6 7
・香川県立香川東部養護学校	6 9
・香川県立香川丸亀養護学校	7 6

3 教職員の研修会等への助言

・高松市立春日幼稚園	7 9
・坂出市立坂出中央幼稚園	8 1
・高松市立国分寺北部幼稚園	8 2
・高松市立大野小学校	8 4
・香川大学教育学部附属坂出中学校	8 8
・香川県立飯山高等学校	9 1
・香川県立多度津高等学校	9 3
・香川県立香川中部養護学校	9 4

(参考) 高校生を対象とした災害時ボランティアリーダー養成講習会

1 高校生を対象とした災害時ボランティアリーダー養成講習会実施要項	1 0 5
2 当日の様子	1 0 6
3 アンケート集計結果	1 0 7

I 2019年度 学校防災アドバイザー派遣事業

2019年度 学校防災アドバイザー派遣事業実施要領

1 趣旨

南海トラフ地震が今後30年以内に70～80%の確率で発生するとされている中、各学校（園）においては、危機管理マニュアル等の継続的な検証・見直しによる防災体制の整備、実効性のある避難訓練の実施による地域の関係機関等との連絡・協力体制の構築・整備が求められている。また、災害発生時において、発達段階に応じて児童生徒等一人ひとりが状況を的確に判断し、学校（園）や社会の一員として適切に行動することができる能力や態度を育成する、防災教育の充実がますます重要となってきた。

そこで、本事業は、所在地が津波浸水予想区域に含まれる学校（園）、災害環境や課題が共通する学校（園）、防災をテーマとした研修会、研究団体等に本事業の活用を希望する学校（園）等に防災の専門家を派遣し、危機管理マニュアルや防災教育、より実効性のある避難訓練に対する助言等を行うことによって、各学校（園）等の防災体制の整備や防災教育の一層の充実を図ることをねらいとして実施するものである。

2 事業内容

香川県教育委員会が、防災に関する有識者、各学校（園）種別代表者、保護者代表者等で構成する推進委員会の助言のもとに講師を派遣する。

- (1) 派遣期間 2019年6月24日～2019年12月25日
- (2) 派遣校（園）等数 公立学校（園）、国立・私立学校（園） 30校（園）程度
- (3) 派遣回数及び時間 各学校（園）等に2回まで派遣、1回につき2時間程度
- (4) 主な派遣講師 香川大学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構職員、香川県防災士会所属防災士、日本技術士会四国本部所属技術士、高松地方気象台職員
※ 講師の旅費等はすべて県教育委員会で負担する。

(5) 主な助言内容

- ① 学校防災計画や危機管理マニュアル等への助言
- ② 様々な想定や緊急地震速報受信システムの活用、地域の防災関係機関（保護者、地元消防署、危機管理部局、自主防災組織等）と連携した実効性のある避難訓練等への助言
- ③ 小学生向け防災副読本の活用、防災マップ作り、災害発生時のボランティア活動等、防災教育への助言
- ④ その他、本事業の趣旨に沿って学校（園）等と相談

(6) 主な留意事項

地域間や学校間における取組みを共有する本事業の目的から、以下の2点を留意する。

- ① 事前に隣接する学校（園）や地域の防災関係機関等（保護者、地元消防署、危機管理部局、自主防災組織、教育委員会等）に周知・連絡を行い、事業当日に可能な範囲でオブザーバーとして参加をしていただくこと。
- ② 事業当日、参加している関係者との情報共有を図ること。

3 事業活用の申請・決定等

(1) 申請手続き

本事業の活用を希望する学校（園）等は、「学校防災アドバイザー活用希望調査（別紙様式

1)」を作成し、2019年5月20日(月)までに、各公立幼・小・中・高等学校(園)等は所管の市町(学校組合)教育委員会教育長あて、県立学校及び国立学校(園)は県教育委員会保健体育課長あて、私立学校(園)は総務学事課長あてに、**電子メール**で提出する。

(2) 派遣校(園)等の決定

本事業第1回推進委員会(6月上旬に開催予定)において、下記の条件等をもとに派遣校(園)を決定し、各公立幼・小・中・高等学校(園)等は所管の教育委員会、私立学校(園)は総務学事課を通じて、県立学校及び国立学校(園)は各学校長あてに、文書で通知する。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">① 地域内で防災関係機関等及び災害環境がよく似た隣接する複数の学校(園)等と連携した取組みを実施しようとする学校(園)② 所在地が津波浸水予想区域や土砂災害警戒区域に含まれる学校(園)③ 防災をテーマとした研修会、研究団体等④ 所管の教育委員会からモデル的な学校として推薦された学校(園) |
|---|

(3) 派遣決定後の手続き

派遣校(園)等は、派遣決定の文書が届いた後、事業実施3週間前までに、「学校防災アドバイザー派遣申請書」(別紙様式2)、事前チェック表(別紙様式3)、危機管理マニュアル(各学校(園)作成のもの) **それぞれ3部**を、**直接県教育委員会保健体育課担当に紙媒体**で提出する。

4 事業終了後の提出物等

(1) 学校防災アドバイザー派遣事業報告書(別紙様式4)

事業がすべて終了後、2週間以内に「学校防災アドバイザー派遣事業報告書(別紙様式4)」1部、事業の様子がわかる写真2~3枚(事業報告書内への挿入可)及び、事業当日の参考資料A4版1枚程度を、**直接県教育委員会保健体育課担当に電子媒体**で提出する。

※ 報告書は、県教育委員会が作成する「ホームページ」及び「事業報告書冊子」等での公開を予定していますので、作成に当たり、個人情報保護や著作権(作品の掲載、引用等)に十分ご注意ください。

※ 報告書の作成に当たっては、学校(園)等の課題に対するアドバイザーの具体的な助言例や、それに対する改善例をできるだけ記載すること。

(2) 学校防災アドバイザー派遣事業アンケート(別紙様式5)

事業がすべて終了後、2週間以内に「学校防災アドバイザー派遣事業アンケート(別紙様式5)」1部を、**直接県教育委員会保健体育課担当に電子メール**で提出する。

5 その他

派遣決定後の手続き及び事業終了後の提出物等に係る様式(別紙様式2~5)については、派遣校(園)等の決定通知とともに送付する。

(参考)平成30年度学校防災アドバイザー派遣事業報告書(県教委保健体育課HPで公開中)

<https://www.pref.kagawa.lg.jp/kenkyoui/hotai/pdf/security/30schoolbousaiadviserreport.pdf>

学校防災アドバイザー活用希望調査

【別紙様式1 (学校圏専用)】

学校所在の市町名	学校(園)等名	活用希望の有無	県(平成25年3月公表)や市町ハザードマップ等による所在地の津波による浸水の有無	県や市町ハザードマップ等による所在地の土砂による災害の有無	本事業の活用の有無							実施要領2(5)の主な助言内容の中から希望する番号	本事業の活用希望理由(簡潔に)	今年度の活用希望回数	第1希望		第2希望		第3希望		地域の防災関係機関等の参加者数(見込み含む)	
					平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度				実施予定日	実施予定時間	実施予定日	実施予定時間	実施予定日	実施予定時間		実施予定日
〇〇市	〇〇校(園)等	有	無	有	無	有	有	有	有	有	有	無	②	例:学校の置かれている災害リスクや地域の自主防災組織等との連携の仕方が分からないので、第一歩を踏み出すために希望しました。 例:1回目は職員を対象とした研修、2回目は実際にを行う防災避難訓練に対する助言をお願いします。	2回	9月3日	13:25~14:10	10月3日	14:00~15:30	12月3日	9:20~10:20	見込合計 (内訳) 保護者 50名 消防署 1名 危機管理部署 1名 自主防災組織 5名 隣接の学校(園) 3名 その他 0名
保体市	安全小学校	無														月 日	: ~ :	月 日	: ~ :	月 日	: ~ :	見込合計 (内訳) 保護者 名 消防署 名 危機管理部署 名 自主防災組織 名 隣接の学校(園) 名 その他 名

活用希望がある場合の記入例
(必要事項をすべて入力してください)

活用希望がない場合の記入例
(市町名・学校名入力と、活用の有無欄)

こちらに入力して提出してください。

香川県教育委員会事務局
保 健 体 育 課 長 殿

学校(園)名
学校(園)長名

公印
省略

2019年度 学校防災アドバイザー派遣申請書

次のとおり、学校防災アドバイザーの派遣を申請します。

学校(園)等の名称			
耐震化の有無			
派遣内容(1回目)			
日 時	年 月 日 () : ~ :		
場 所			
対 象 者 参加予定人数	幼児児童生徒 約 クラス数	名 教 職 員 約 クラス (特別支援学級	名 クラス)
外部より当日参加可能な防災関係者	参加予定合計 保護者 消防署	名 隣接する学校(園) 名 自主防災組織 名 その他 ()	名 名 名
アドバイザーに助言してもらいたい内容とその時間配分をできるだけ具体的に			
派遣内容(2回目)			
日 時	年 月 日 () : ~ :		
場 所			
対 象 者 参加予定人数	幼児児童生徒 約 クラス数	名 教 職 員 約 クラス (特別支援学級	名 クラス)
外部より当日参加可能な防災関係者	参加予定合計 保護者 消防署	名 隣接する学校(園) 名 自主防災組織 名 その他 ()	名 名 名
アドバイザーに助言してもらいたい内容とその時間配分をできるだけ具体的に			
連 絡 先	(学校所在地) 〒 (担当・氏名) (電話等) TEL () -		

(別紙様式3)

危機管理マニュアル作成 チェック表

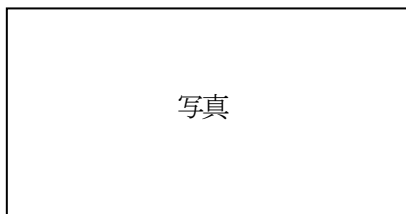
学校園名【 _____ 】

	点 検 項 目	該当する:1 該当しない:0
作成内容	○学校の立地する地理的な条件に合っているか	
	○自治体等が作成しているハザードマップや過去の災害に対応したものか	
	○ハザードマップの災害規模を超えることを想定したものになっているか	
	○校舎等の耐震化に合ったものになっているか	
	○教室等の危険箇所の把握に合ったものになっているか	
	○園児児童生徒等数、教職員数、支援を必要とする児童生徒等に合っているか	
	○園児児童生徒等の年齢や発達段階に合っているか	
	○園児児童生徒等の通学方法に合っているか	
	○想定される様々な時間帯(授業中、登下校等)での発生に対応したものであるか	
	○想定される様々な場所(教室、体育館、運動場等)での発生に対応したものであるか	
	○様々な場面(停電時、津波警報発令時)に対応したものであるか	
	○校内・外の避難場所を複数確保してあるか	
	○帰宅困難な園児児童生徒等に対応したものであるか	
	○事前対応・発生時対応・事後対応のフローチャートで整理され、わかりやすいか	
	○事前の対応として備え・点検・体制・指導の四つで構成されているか	
	○二次災害を考慮したものになっているか	
	○保護者への緊急連絡体制、引き渡し対応について示されているか	
	○関係機関への緊急連絡体制について示されているか	
	○園児児童生徒等の心のケアに関して示されているか	
作成方法	○全ての教職員が関わるよう分担して作成されているか	
	○全ての教職員が危機管理意識の統一が図られているか	
	○保護者や地域、自治体と協議し共通理解や役割分担が図られているか	
	○マニュアルを元に実際に避難訓練等を実施しているか	
	○避難訓練等を振り返り、成果や課題を明らかにした記録が保管されているか	
	○評価で明らかになった課題を元に、防災マニュアルの見直しをしているか	
その他		

2019年度 学校防災アドバイザー派遣事業報告書

学校（園）等の名称	
派遣内容	
日時	年 月 日（ ） : ~ :
場所	
対象者 参加人数	幼児児童生徒 約 名 教職員 約 名 クラス数 クラス (特別支援学級 クラス)
外部より当日参加した 防災関係者	参加者合計 名 隣接する学校（園） 名 保護者 名 自主防災組織 名 消防署 名 その他（ ） 名
内容・日程等	
取組における成果	
今後の課題	

注) 当日の写真、資料等を添付してください。



(タイトル)



(タイトル)

(別紙様式5)

2019年度 学校防災アドバイザー派遣事業アンケート

問1 学校(園)名

問2 本事業の活用は今回が何回目となりますか。
注) 同一年度に2回以上活用した場合も、1回に数える

問3 防災アドバイザーの助言及び成果について、以下の項目を4段階で評価してください。
※ただし、貴校(園)の本事業活用の要望に該当する項目のみ回答をお願いします。(今回の助言内容に直接関係しない項目は空欄のまま提出してください。)

(4:大いに当てはまる 3:当てはまる 2:当てはまらない 1:全く当てはまらない)

- ① 助言内容はわかりやすかった。
- ② 助言内容は学校(園)の要望に沿ったものであった。
- ③ 学校(園)等の災害環境の把握につながった。
- ④ 危機管理マニュアル等の見直しにつながった。
- ⑤ 実効性のある避難訓練の見直しにつながった。
- ⑥ 地域の関係機関等との連絡・協力体制の構築につながった。
- ⑦ 発達段階に応じた防災教育の充実につながった。
- ⑧ 教職員の防災意識の向上につながった。
- ⑨ 児童生徒等の防災意識の向上につながった。
- ⑩ 保護者等の防災意識の向上につながった。

問4 上記①～⑩以外の成果について具体的に書いてください。

問5 防災アドバイザーの助言等について、ご意見、ご要望、ご感想などがあればお書きください。

2019年度 学校防災アドバイザー派遣事業推進委員会設置要綱

(目的)

第1条 各学校(園)等の防災体制の整備や防災教育のさらなる充実を図るため、「学校防災アドバイザー派遣事業推進委員会」(以下「委員会」という。)を設置し、各学校(園)等における防災体制の整備や防災教育の実施状況及び在り方等に助言するとともに、学校防災アドバイザーの派遣校(園)の決定及び派遣に係る検証等を行うものとする。

(業務)

第2条 委員会は、次の業務を行う。

- (1) 学校防災アドバイザーの派遣校(園)の決定
- (2) 学校防災アドバイザー派遣に係る助言
- (3) 学校防災アドバイザー派遣事業による、学校(園)と地域の防災関係機関等との連絡・協力体制の構築に係る助言
- (4) 学校防災アドバイザー派遣事業報告による事業の検証

(組織)

第3条 委員会の委員は、防災に関する有識者(香川大学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構、防災士、技術士、危機管理課、消防局等代表)、幼・小・中・高・特別支援学校代表、保護者代表、関係行政機関の職員のうちから、香川県教育委員会教育長が委嘱または任命する。

(任期)

第4条 委員の任期は、2019年6月6日から2020年2月29日までとする。
ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第5条 委員会に委員長1名を置く。

- 2 委員長は、委員の互選により選出する。また、副委員長若干名を置き、委員長が指名する。
- 3 委員長は、会務を総理する。
- 4 委員長に事故あるときは、副委員長がその職務を代理する。

(会議)

第6条 委員会の会議は、委員長が招集し、委員長が議長となる。

- 2 委員会の決議は、委員の過半数が出席し、その過半数をもって決する。可否同数のときは議長の裁決するところによる。

(庶務)

第7条 委員会の庶務は、香川県教育委員会事務局保健体育課において処理する。

(その他)

第8条 この要綱で定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が別に定める。

附則

- 1 この要綱は、2019年6月6日から施行し、2020年2月29日をもって廃止する。
- 2 第6条の規定にかかわらず、1回目の会議は教育長が招集する。

2019年度学校防災アドバイザー派遣事業推進委員会名簿

白木 渡	香川大学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構	副機構長
矢本 賢	香川県防災士会	副会長
武山 正人	日本技術士会四国本部	特別顧問
石川 恵市	香川県危機管理総局危機管理課長	
東 秀紀	高松市消防局予防課長	
田尾 和代	香川県国公立幼稚園・こども園長会	(三豊市立豊中幼稚園長)
末澤 康彦	香川県小学校長会	(丸亀市立城西小学校長)
久保 博紀	香川県中学校長会	(綾川町立綾南中学校長)
糸目 真也	香川県高等学校長協会	(香川県立高松桜井高等学校長)
三好由香利	香川県特別支援学校長会	(香川県立香川中部養護学校長)
山田 士郎	香川県PTA連絡協議会	副会長
堀場 規朗	香川県教育委員会事務局東部教育事務所主任指導主事	
山田 康子	香川県教育委員会事務局西部教育事務所主任指導主事	
宮滝 寛己	香川県教育委員会事務局保健体育課長	

(敬称略)

2019年度学校防災アドバイザー

香川大学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構

香川県防災士会

日本技術士会四国本部

高松地方気象台

2019年度 学校防災アドバイザー派遣計画表

番号	学校所在の市町名	学校(園)等名	県(平成26年3月公表)や市町ハザードマップ等による所在地の津波による浸水の有無	県や市町ハザードマップ等による所在地の土砂による災害の有無	本事業の活用の有無							実施要項(5)の主な取組内容の中から希望する番号	本事業の活用希望理由(簡潔に)	今年度の活用希望回数	第1希望		地域の防災関係機関等の参加者数(見込み含む)
					平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度				実施予定日	実施予定時間	
21	三木町	白山幼稚園	無	無	無	無	無	無	無	無	無	②	防災計画をどのように見直しらよいか、また、今行っている避難訓練の方法でよいかかわりなく、ご意見やご指摘をいただきたいと思ひました。1回目は、職員を対象にした研修、2回目は、避難訓練(保護者)への引き渡しに対する助言をお願いします。	2回	9月18日	13:30~15:30	見込合計23名 (内訳)保護者23名
22	善通寺市	善通寺第一高等学校	無	無	無	無	無	無	無	無	無	②	立地において、災害に対して比較的安全であり、また、避難所指定もされていないことから、職員及び生徒の防災に対する意識が低いと思われる。地域の災害管理を知り、校内の防災対策、危機管理マニュアルの見直しを行って、防災教育や実効性のある避難訓練に結びたい。また、2回とも防災委員(7名)で地域の災害管理や、校内の防災対策、もし避難者が学校へ来た時の対応など助言をいただきたい。	2回	9月20日	13:15~15:15	
23	善通寺市	善通寺養護学校	無	無	無	無	無	無	無	無	無	②	避難時の教職員の連携について詳しく勉強したいので希望しました。また、保護者も防災についての研修がほしいとあるため、より意識を高めるために保護者向けの研修もお願いしたいと思います。1回目は夏休みに教職員を対象とした研修、2回目は保護者を対象とした研修をお願いします。30年度の保護者交流会では香川大学危機管理先達教育センター副センター長・特命教授 松本孝直氏に防災研修をしていただきます。大変好評でもっとお話を聞きたいという意見が多いので、できれば松本先生に来ていただければとお願いいたします。	2回	9月22日	11:20~12:10	見込合計約50名 (内訳)保護者約50名 (本校職員100名、隣接の病院職員若干名)
24	丸亀市	香川丸亀養護学校	無	有	無	無	有	無	有	有	有	②	これまで様々なケースを考えて避難訓練を実施してきました。今回は給食後、昼食付けや放課後の授業準備等をしている教職員が手薄な状況で地震が発生したとの想定で、その対応について防災研修をしていただきます。また、地域連携についても相談したいと考えています。	1回	9月30日	12:45~14:30	
25	三木町	ししの子幼稚園	無	無	無	無	無	無	無	無	有	②	本園の実際に行う防災訓練及び引き渡し訓練に対する助言をいただきたい。	1回	10月3日	14:00~16:00	見込合計110名 (内訳)保護者110名
26	観音寺市	大野原幼稚園	無	有	無	無	無	無	無	無	無	②	大規模園(幼児数443名)の実態に合った最新の避難方法の正否や、平常保育時と休日保育時などの状況に合わせた職員の連携の仕方などを教えていただきたい。1回目は、職員を対象にした研修、2回目は実際に防災避難訓練に対する助言をお願いします。	2回	11月8日	13:20~15:00	見込合計3名 (内訳)隣接の学校(園)3名
27	善通寺市	善通寺第一高等学校	無	無	無	無	無	無	無	無	無	①	立地において、災害に対して比較的安全であり、また、避難所指定もされていないことから、職員及び生徒の防災に対する意識が低いと思われる。地域の災害管理を知り、校内の防災対策、危機管理マニュアルの見直しを行って、防災教育や実効性のある避難訓練に結びたい。また、2回とも防災委員(7名)で地域の災害管理や、校内の防災対策、もし避難者が学校へ来た時の対応など助言をいただきたい。	2回	12月6日	14:30~16:30	
28	さぬき市	香川東部養護学校	無	無	無	無	無	無	無	無	無	②	第2回 保護者会を実施した形で今年度の親子防災教室に対するアドバイスと保護者研修の内容について	2回	12月15日	10:20~12:20	見込合計6名 (内訳)消防署6名
29	丸亀市	飯山高等学校	無	無	無	無	無	無	無	有	有	④	本校による防災や避難訓練のあり方について、9月以降のLHRを利用して生徒自らが考える機会を提供したい。それに向けて、アクティブ・ラーニングを用いた指導案を作成したいと考えています。また、12月の防災訓練において、専門家による助言をいただきたい。	2回	12月18日	12:10~13:00	
30	三豊市	高瀬高等学校	無	無	無	無	無	無	有	有	有	②	避難所運営の避難訓練を見ていただき、改善点や感想などをいただきたいです。	1回	12月23日	12:10~13:00	見込合計55名 (内訳)危機管理事務局5名 自主防災組織50名
31	小豆島町	小豆島中央高等学校	有	有	無	無	無	無	無	無	無	②	本校は関係3年目で計画やマニュアル、防災訓練などがこれまでにいかに進捗しています。そのため、助言をいただきたい今後の活動の基礎となるものを作りたいと思ひました。1回目は保健・安全管理部の職員を中心とした研修、2回目は実際に行う防災避難訓練に対する助言をお願いします。	2回	12月24日	9:20~10:00	
23校(園)			7校(園)	7校(園)	2校	2校	4校	2校	5校	7校	7校(園)	①・・・4、②・・・16、③・・・3、④・・・8	31回				

- ① 学校防災計画や危機管理マニュアル等への助言
 ② 様々な想定や緊急地震速報受信システムの活用、地域の防災関係機関(保護者、地元消防署、危機管理事務局、自主防災組織等)と連携した実効性のある避難訓練等への助言
 ③ 小学生向け防災訓練本の活用、防災マップ作り、災害発生時のボランティア活動等、防災教育への助言
 ④ その他、本事業の趣旨に沿って学校(園)等と相談

2019年度 学校防災アドバイザー派遣事業の経緯

○学校安全総合支援事業（文部科学省委託要項から抜粋）

学校種・地域の特性に応じた学校安全推進体制の構築を図るため、下記の事業を実施する。

- (1) モデル地域を設定し、学校安全の推進体制を県内に普及するための支援事業の実施
- (2) モデル地域の拠点校を中心に地域学校間で連携し、各校中核教員を通じて、各学校の取組み等を共有する事業の実施
- (3) 学校安全計画の改善、見直しなど、学校安全の取組みの推進・支援事業の実施

○学校防災アドバイザー派遣事業の趣旨（文部科学省委託事業を受け、平成24年度から実施）

外部の専門家を学校防災アドバイザーとして学校に派遣し、学校間・地域住民・保護者・関係機関との連携強化や危険等発生時対処要領等の作成・検証に関する指導・助言などを行い、組織的な学校の安全管理体制の構築・強化を行うことにより、学校を含めた地域全体としての安全水準の向上を図る。

1 第1回推進委員会

(1) 日時 2019年6月6日（木）15:00～16:30

(2) 場所 香川県社会福祉総合センター6階 和室研修室

(3) 内容

① 委員紹介

② 事業説明

ア 学校防災アドバイザー派遣事業推進委員会設置要綱について

イ 学校防災アドバイザー派遣事業実施要領について

③ 委員長、副委員長選出

④ 協議

ア 学校防災アドバイザー派遣事業の希望状況と派遣校（園）の決定について

イ 学校防災アドバイザー派遣に係る助言内容及び学校（園）と地域の防災関係機関等との連携構築について

ウ 避難所運営マニュアルについて

2 学校防災アドバイザー事前打合せ会

(1) 日時 2019年6月7日（金）18:30～20:00

(2) 場所 香川大学創造工学部6号館2階 6201講義室

(3) 主な内容

① 学校防災アドバイザー派遣事業実施要領について

② 派遣計画等について

・ 原則的として、推進機構・技術士会のグループ、防災士会のグループ、気象台のグループから、それぞれ1名が可能な範囲でメインのアドバイザーを担当する。

・ 保健体育課からは可能な範囲で同行する。

③ 実施方針、助言内容について

④ アドバイザー研修について

ア アドバイザーの姿勢と留意点（香川大学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構）

イ アドバイザー実践報告事例について（日本技術士会四国本部）

ウ アドバイザー実践報告事例について（香川県防災士会）

3 学校防災アドバイザー派遣

2019年6月24日（月）～2019年12月下旬

4 第2回推進委員会

(1) 日時 2020年1月28日（火）15:00～16:30

(2) 場所 香川県社会福祉総合センター6階 第1研修室

(3) 内容

① 本事業の成果と課題について

② 本事業の取組みの成果の普及について

③ 本事業の継続的な運用について

※「高校生を対象とした災害時ボランティアリーダー養成講習会」

2019年7月22日（月）13:00～16:30 香川大学創造工学部

本事業のまとめ(2019年度)

1 活用状況

○派遣校(園)回数 23校(園) 31回

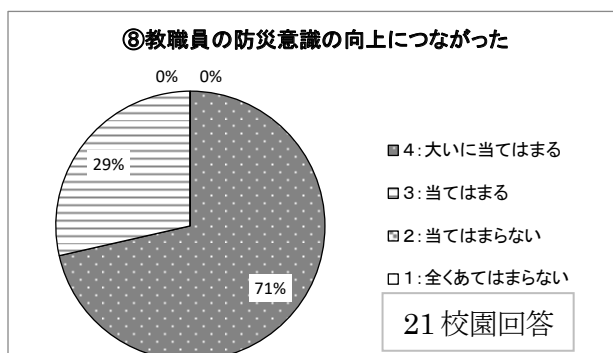
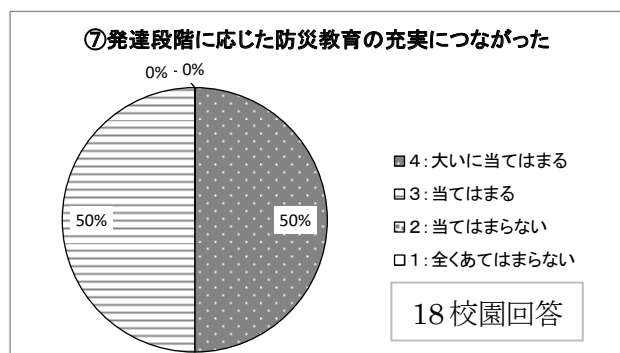
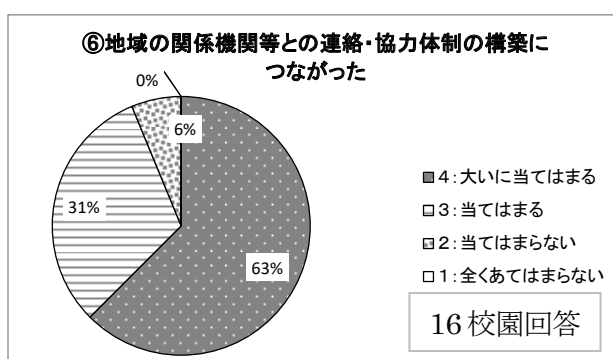
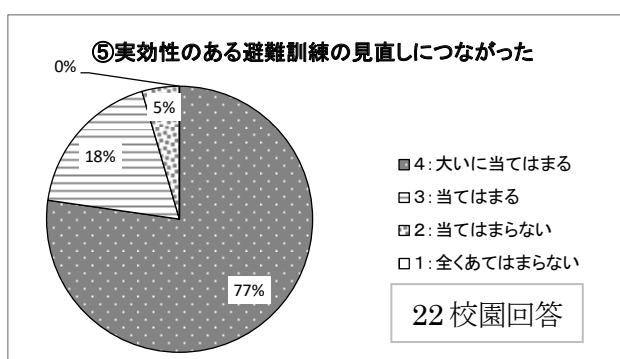
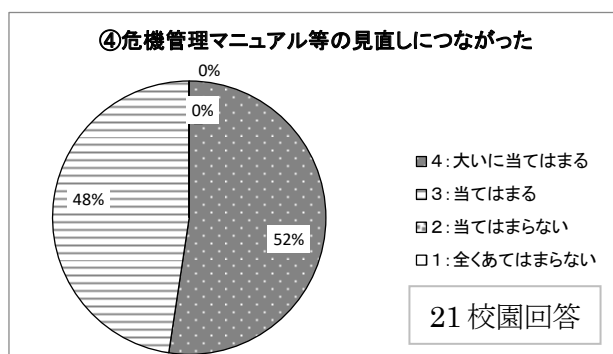
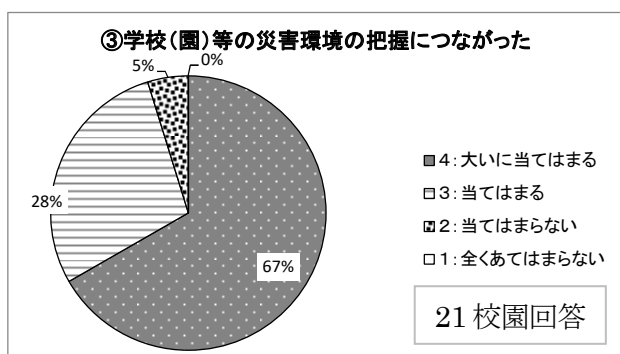
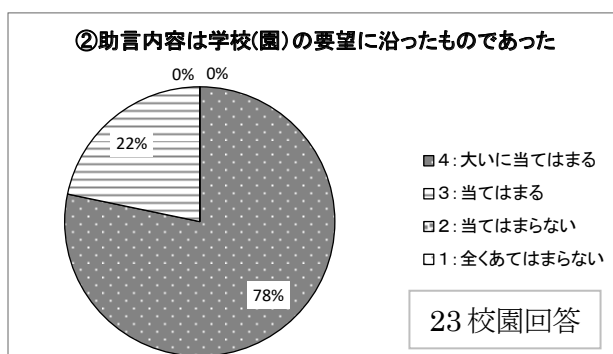
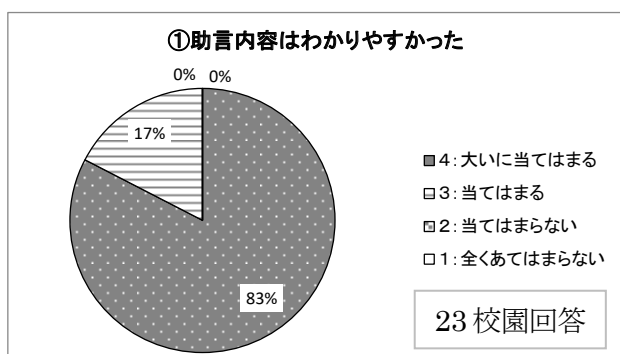
○23校(園)の内訳

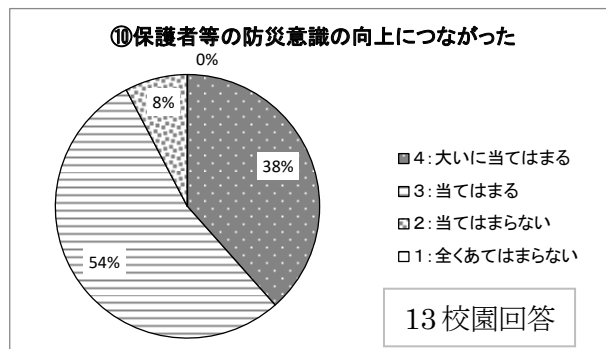
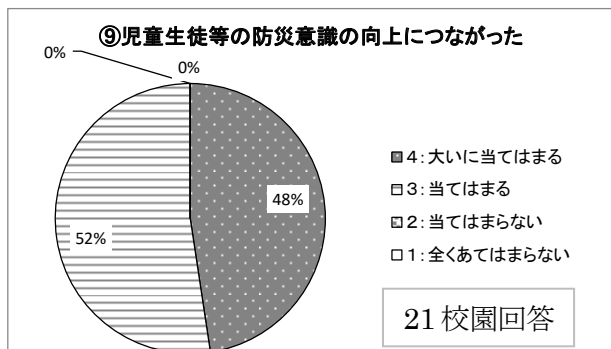
8年目:2校、5年目:1校、4年目:2校、

3年目:2校、2年目:1園、1年目:15校(園)

幼稚園:7園、小学校:5校、中学校:2校、高等学校:5校、特別支援学校:4校

2 アンケート集計結果(学校(園)が該当する項目のみ回答)





3 各学校（園）の具体的な成果（学校（園）へのアンケートから一部抜粋）

【学校（園）等の災害環境の把握につながった】

- 学校巡回により、校内の様々な施設面の課題をご指摘いただき、施設の改修等については、時間と予算を要するものですが、専門家の方々による改めてのご指摘でしたので、大変参考になりました。

【危機管理マニュアル等の見直しにつながった】

- 最終避難場所として考えている小学校までの経路をアドバイザーの方に見ていただくことで、ブロック塀が多いことや、ため池が決壊すると道が冠水する場合があることなど、いろいろなことに気が付くことができました。これらの危険性を想定しながら、小学校までの経路を何か所か考えておく必要性を感じました。また、今後小学校と連携を図りながら、具体的な話し合いを進めていくきっかけにもなりました。
- 避難場所について迷いがあつたが、助言をいただいたことで、これまで考えに及ばなかった場所が候補地になったり、浸水がいかに危険であるか気づいたりすることができ、大変有意義な内容であった。
- 情報のないなかで、教職員の判断で避難経路を確認し、避難となると逃げ惑うことになりかねないと指摘いただき、避難指示を出す際の根拠となる情報を収集することの大切さを認識できた。その際も、普段からの報告ラインを活用することでスムーズな報告につながることも指摘いただいた。
- 「引き取りカード」の改善点や記入例を具体的に教えていただき、すぐに改善することができそうです。

【実効性のある避難訓練の見直しにつながった】

- 防災士から消火栓のホースの長さを実際に確認することや、防災アドバイザーから大きな地震の場合放送設備は使えなくなる可能性が高く、その場合の対応をしておくこと等の助言があり、今後の防災訓練を改善するポイントが分かり大きな成果であった。

【地域の関係機関等との連絡・協力体制の構築につながった】

- 今回初めて、公民館分館長や社会福祉協議会長、ボランティア団体の方々に訓練の様子を見ていただいたり、指導・助言の場に来ていただいたりした。防災アドバイザーの方にそうした地域との連携が大切だにご指導をいただき、今後、さらに充実させていきたいと思いました。
- 本校は高等学校が複数校隣接しており、発災した際にどのように連携するのか、今後

地域全体で考える必要性や、生徒及び教職員の防災意識を高める必要性を強く感じた。

【発達段階に応じた防災教育の充実につながった】

- ・ 本幼稚園の防災教育の取組や避難場所について、具体的に教えていただき、大変参考になった。

【教職員の防災意識の向上につながった】

- ・ 南海トラフ地震に遭遇する確率が高いということを再確認し、職場における防災のみならず、職員自身の住居地での防災についてや職員の家族同士の安否確認の手段などについても考えておく必要があると感じた。
- ・ 周りを頼らず、自分ならどうするか？子どもたちを不安にさせないために、場を和ます工夫やとっさの判断の必要性など教師の役割について学ばせていただきました。

【児童生徒等の防災意識の向上につながった】

- ・ 前回実施した地域の安全点検とつないだ活動であったため、児童は明確な目的意識をもって取り組むことができた。アドバイザーの方々も前回から引き続きかかわっていただいたことから、成果と課題を明確に示してくださった。今回の活動についてだけでなく、今後の見通しをもつことができるアドバイスをいただいたので、そのアドバイスを共有して、学習を進めていく。

4 本事業を初めて活用した学校（園）と継続して活用した学校（園）の成果の比較

※4段階【初活用】29 (30) R1年度 【継続活用】29 (30) R1年度

① 助言内容はわかりやすかった。	3.8 (3.7)	3.9	4.0 (3.7)	3.8
② 助言内容は学校（園）の要望に沿ったものであった。	3.7 (3.8)	3.7	3.9 (3.6)	3.9
③ 学校（園）等の災害環境の把握につながった。	4.0 (3.7)	3.6	3.9 (3.9)	3.7
④ 危機管理マニュアル等の見直しにつながった。	3.7 (3.6)	3.7	3.5 (3.5)	3.1
⑤ 実効性のある避難訓練の見直しにつながった。	3.4 (3.7)	3.7	3.8 (3.5)	3.9
⑥ 地域の関係機関等との連絡・協力体制の構築につながった。	3.2 (3.3)	3.5	3.5 (3.3)	3.7
⑦ 発達段階に応じた防災教育の充実につながった。	3.8 (3.3)	3.5	3.2 (3.8)	3.5
⑧ 教職員の防災意識の向上につながった。	3.9 (3.8)	3.8	3.7 (3.4)	3.6
⑨ 児童生徒等の防災意識の向上につながった。	3.6 (3.4)	3.5	3.4 (3.2)	3.4
⑩ 保護者等の防災意識の向上につながった。	2.7 (3.0)	3.1	3.0 (3.0)	3.6

前年度比向上

5 防災アドバイザーの助言等への意見、要望等（学校（園）へのアンケートから一部抜粋）

【初活用】

- ・ 現状ではだめだという課題意識はあったが、「ではどうすれば？」という疑問で終わっていたので、たいへんよい機会になり、参考になった。
- ・ 防災計画を立てていますが、毎年どこをどのように見直せばよいかわからない現状がありました。今回、適切なアドバイスをいただいたことで、避難の方法や保護者への引

き渡しの仕方、避難場所までの経路についてなど、たくさん見直すことができました。また、他園の避難計画書や園周辺のハザードマップ、引き渡し訓練に関する資料など、提供してくださり大変参考になりました。

- ・ 悩んでいることに答えていただき、幼児が安心するような関わりや、もしもの時に役に立つ工夫など、今後生きるアドバイスとなりました。まだまだ、教師自身が学ばなければならないことばかりですが、ものの置き方や効率的な避難方法などを工夫していきたいと思います。実際に被災した方の声は、心に響きました。知っているだけでは何も変わらない、できることを今日からしていきたいと思います。
- ・ 児童と一緒に地域の安全点検や防災マップ作りにかかわっていただいたことが、子どもたちが気軽に質問したり、アドバイスを聞いたりすることにつながり、より深く物事を考える環境づくりをしてくださったことがありがたかった。大学教授や県の防災士だけでなく、地域の自主防災組織の方も参加してくださったので、自分たちの地域について真剣に考えようとする意識が高まった。
- ・ 一緒に施設を回っていただき細かく指導していただいたり、改善策なども丁寧に教えていただいたので、今後すぐに改善できるものから取り掛かりたい。また、避難訓練においてもいろいろなやり方があり、放送があつてからの20秒の間にできることを一人一人がしっかりと事前に考えておくことの大切さを教えていただいた。また、職場以外で災害にあった場合の連絡の取り方なども考えるきっかけをいただいた。
- ・ ソフト面、ハード面、両方に関して、防災について、本校はまだまだ課題が多いのですが、とても丁寧にご助言やご提案をいただきました。時間を気にされることなく、こちらからの質問事項にもお答えいただき、大変ありがたく思いました。第2回目のアドバイザー派遣事業の利用も計画していますが、そちらの案件についてもアドバイスいただきましたので、早速、次回の企画（親子防災教室）に反映していきたいと思います。また、おいでいただいた防災士の方が本校のご近所にお住まいであったり、本校がお世話になっている消防署の関係者の方であったこともあり、地域の防災士さんとして、心強く感じ、今後ご相談していきたいと思います。
- ・ 職員研修も、保護者への講話も、事前に相談にのってもらったり、資料を用意していただいたりと、とても助かりました。2回とも防災士さんが二人ずつ来てくださり、複数の方に助言していただけたのも良かったです。また学校内の見学では、地震のときに危険な場所を丁寧にチェックしていただき、ロッカーや車椅子の固定方法などを具体的に教えてくださり、とても参考になりました。少しずつ改善していこうと考えています。
- ・ 本園の立地状況から、様々な災害が予測され、とても不安でしたが、様々な見地からいろいろと具体的に教えていただき、大変、勉強になりました。

【継続活用】

- ・ 今年度は、避難訓練の他に、防災授業を取り入れた。その際、防災アドバイザーからより専門的なご意見・ご指導を頂いたことで、効果的な授業の実施につながった。また、

実際に避難訓練の様子を見て頂いたり、本校の生徒ができる防災について、具体的に助言を頂いたので、生徒・教員共々防災意識の向上に役立った。

- ・ 本校の実態に即した助言をいただき、大変ありがたい。備蓄品の保管場所が不足していることに苦慮していることを相談すれば、最寄りの福祉施設に置かせてもらうということを考えることを助言いただき、なるほどと感心するとともに、そのことで地域連携につながるし、日頃の中学部や高等部の交流が生かされることになる。意見や助言を参考にして、スモールステップで防災教育（避難訓練）に取り組んでいきたい。
- ・ 防災アドバイザーの助言は、単に訓練自体のアドバイスにとどまらず、我々が気が付いていない訓練のあり方や想定における細かな状況についてアドバイスが頂けるので非常に有難い。また、有事の時に対応できる必要な体制の見直しや検討をする機会となっている。
- ・ （本校は校舎の建て替え時期があり、旧校舎、仮校舎、本校舎での訓練の実施、及び体育館や運動場等への避難場所の変更など、）継続的に見ていただいているので、その年の本校の実態にあった助言をいただいている。
- ・ 事前の打ち合わせを丁寧にしていただき、いろいろな場面を想定して、本番を迎えることができました。

6 本事業の特色ある活用事例（学校（園）の報告書から一部抜粋）

○学校と保護者、地域、関係機関等と連携した実効性のある避難訓練・防災教育

【坂出市立東部小学校：1回目】（p 46～p 49）

- ・ 昨年度の4年生が作成した防災マップを見直し、さらに実効性のある防災マップ作りに取り組んでいる。

校区内通学路の安全点検に向け、事前に香川大学教授や防災士の方と連絡を取ったり当日の安全点検やマップ作りを実施したりしたことについて、アドバイスを受けた。

- ・ 6月25日の校区内通学路の安全点検をしたことをもとに、防災マップ作りをし、各グループが発表して、専門家からアドバイスを受けた。

【香川県立飯山高等学校：3回目】（p 56～p 59）

- ・ 全学年生徒対象に防災授業の実施にむけ、6月より検討を開始した。防災アドバイザー（香川大学、香川県防災士会等）からご指導・ご意見を頂き、指導案やシミュレーション、自衛防災組織等を含めた資料を準備した。

- ・ ご指導・ご助言頂いた内容

有事の際に自分で正しく判断できると共に、柔軟な対応ができる能力を生徒に身に付けさせる必要がある。そのために、日頃から学校や家庭で防災について話し合う機会を持つことが大切である。

当初は3場面についてシミュレーション学習を行う予定にしていたが、思考を深め、お互いの意見を十分に交換することが50分間では難しいと考えられる。したがって、2場面について学習する方が良いのではないかと。

生徒が実際の場面を想起しやすいように、わかりやすい資料を作成する必要がある。学年により防災授業の内容を変え、段階的に学びを深められるようにしてはどうか。教員の進行力も必要なので、あらかじめ打合せ等の時間を持つ必要がある。

【香川県立高瀬高等学校：3回目】（p 65～p 66）

- ・ 休み時間に地震が発生した際の安全行動について学べた。
- ・ 避難所運営について生徒が深く学べた。今年はタブレットを使用し、避難所全体のルールや避難者カード、備蓄物資の一覧などをスライドで示した。
- ・ プリント「避難所にもっていくもの」を配布し、生徒たちが避難所に何を持っていくか、話し合いをすることができた。また、地域の方とも話し合いができ、交流をすることができた。

【香川県立香川東部養護学校：1回目】（p 69～p 75）

- ・ 親子防災教室の当日のプログラム
 - ①「地震その時10のポイント」（東京消防庁作成）のビデオを見る。
 - ②非常持ち出し袋（さぬき市の危機管理課より借用）の中に何が入っているかを確認。実際に数人の児童生徒、保護者に持ってもらって重さを体験。
 - ③間仕切りテント（さぬき市危機管理課より借用）、簡易トイレ、カプセルテント（ともに本校管理）の利用体験。
 - ④学校防災アドバイザーからの講話。

【三木町立ししの子幼稚園・保育所：2回目】（p 35～p 37）

昨年度新設された施設であり、初めて保護者への引き渡し訓練を実施した。

《助言》

- ・ 「引き渡しカード」に記入されていない人が引き取りに来た時は、電話で保護者に確認する等、一度、落ち着く必要がある。
- ・ 引き取りに来た保護者は、靴を履いての訓練を実施していく。
- ・ 「かくれんぼゲーム」等を取り入れ、生活の中で隠れる状況を作っていく。

《次年度に向けて》

- ・ 「引き渡しカード」の引き取り者の欄を、引き取り可能な人、全員が記入できるよう変更。又、受け取りのサイン欄も加える。
- ・ 薬等、避難時に持ちだすものをもう一度検討する。

○防災に関する教職員研修の開催

【坂出市立坂出中央幼稚園：1回目】（p 81）

- ・ 第1避難場所である隣接小学校の4階教室について、実際に足を運び、安全面や留意点などについて話し合った。学校関係者評価委員である小学校校長先生も交えて話し合えたことで、避難時に小学校からも配慮いただけることとなった。
- ・ 第2避難場所について、相談に乗っていただいた。候補地数ヶ所について、防災マップと照らし合わせながら、地域を歩いて検討したことで、これまで視野になかった避難場所を提案していただけた。派遣事業後、連絡をとり、第2避難場所として連携をとることができた。

7 次年度に向けて

(1) 本事業の成果と課題について

昨年度推進委員会の意見をもとに、A「助言内容の明確化」及びB「地域の関係機関等との連絡・協力体制の構築」について手立てを行った。

Aについて、本年度よりヒアリングシート（次頁参照）による電話での聞き取りを実施した。過去には担当アドバイザーがそれぞれ学校（園）へ連絡したため学校（園）の負担となった経緯から、本年度は元小学校校長先生の経験がある代表者1名が聞き取りを行い、電子メールにて本事業のアドバイザー間で情報共有を行った。その結果、昨年度継続活用校の成果は10項目で1項目の向上に対し、本年度は7項目で向上した。また、昨年度初活用校の成果では10項目で4項目の向上に対し、本年度は6項目で向上した。特に「①助言内容がわかりやすかった」や「②助言内容は学校（園）の要望に沿ったものであった」が3.8と高い評価であったことから、ヒアリングシートによる電話での聞き取りは効果があったと考えている。

Bについて、本年度より申請書に防災関係機関や保護者等の関係者の参加を明記する欄を設け、活用校（園）に参加や連携を意識づけた。事業報告書から14回に参加報告があり、参加者は、自主防災組織、消防署、保護者、隣接する学校（園）の児童生徒等、PTA会長、学校評議員と様々であった。「⑥地域の関係機関等との連絡・協力体制の構築」の回答が、昨年度3.3に対し本年度は3.6へ、「⑩保護者等の防災意識の向上」の回答が、昨年度3.0に対し本年度は3.3へと向上していることから、次年度以降も多くの関係者の参加を募り、地域の関係機関等との連絡・協力体制の構築につなげていきたいと考えている。

(2) 本事業の取組み成果の普及について

今年度から国立・私立学校（園）を本事業対象に含めており、本事業報告書を県内すべての学校（園）及び関係機関等へ配付するとともに、保健体育課ホームページへの掲載や研修会等における取組み紹介を通して、成果の普及に努めていきたい。

(3) 本事業の効果的な運用について

アドバイザーは、本年度のヒアリングシートによる聞き取りのように、学校（園）の要望や取組みを理解した上で専門的な立場からの助言を行うこと、同じアドバイザーが複数年継続して同じ学校（園）を担当すること、事業後も継続して学校（園）の相談にのっている事例などがあげられる。

また、近年、学校（園）は、学校が避難所になった際の運営や決まり事、水防法や土砂災害防止法の改正により避難確保計画を学校防災計画への追記等、学校（園）によって様々な悩みや課題を抱えており、学校（園）によりそった支援や各市町の関係機関等との連携につながるような相談を実施するなど、本事業内容の運用を検討していきたい。

学校防災アドバイザー派遣にかかる事前ヒアリングシート（案）

- 1 要請校・園の名称
- 2 実施日時
- 3 連絡窓口となる担当者名 連絡先
- 4 実施時間 活動時間とアドバイスする時間
(アドバイスできる時間) ※「アドバイザーの人数と役割分担」

- 5 学校・園の参加者（役職名）と人数

6 助言内容の確認 【予想される内容】

- (1) 防災訓練の実施へのアドバイス
- (2) 学校施設の危険箇所の点検と指導
- (3) 避難経路・避難場所についてのアドバイス
- (4) 学校防災計画・危機管理マニュアルへのアドバイス
- (5) 避難所運営マニュアル作成へのアドバイス
- (6) 教職員・保護者の研修の指導（講話・HUG・DIG等の指導）
- (7) 地域の防災組織との連携へのアドバイス
- (8) その他

※「要請されている内容を確認して、県教委・大学の担当者・技術士会の担当者・防災士会担当者に連絡する。」

- 7 事前打ち合わせの必要の有無

※（学校・園の希望はないことが予想される）

- 8 学校・園が期待する成果

派遣するアドバイザー名	(担当分野)
県教委	
大学	～の専門家
技術士会	～の専門家
防災士会	～地域の防災士 or 専門分野

2019年度 学校防災アドバイザー派遣事業推進委員会の主な意見

第2回学校防災アドバイザー派遣事業推進委員会議事録から抜粋

- 昨年の課題への対策として行った「ヒアリングシートを活用した電話による事前の聞き取り」や「地域や関係機関との連携を推進するために申請書の修正」は、事後アンケート結果から一定の成果が見られた。
- 事前に電話での聞き取りを行うことで、学校（園）の課題や求めている内容が明確になり、アドバイザーが的確に助言できた結果として調査項目①②の数値向上につながった。
- 継続活用校における調査項目④（「危機管理マニュアルの見直しにつながった」）の数値が3.1と低く検討が必要ではないか。例えば、事業報告書に「事業の成果を危機管理マニュアルに反映しましたか」「事業の成果を踏まえ危機管理マニュアルの修正や加筆等を行いましたか」を明記するなど、本事業の成果の反映を促す表示を検討してはどうか。
- 調査項目③（「学校（園）の災害環境の把握につながった」）が3年間低下傾向を示しており気になった。アドバイザーと学校（園）のマッチングがうまくいっていないのか、それとも災害環境という言葉の捉えがアドバイザーや学校（園）で異なっているのか。
- 調査項目⑦（「発達段階に応じた防災教育の充実につながった」）に対し、8年間の成果等を踏まえ、発達段階に応じた効果的な教材等について、推進委員会で話し合い、もう少し具体例を学校（園）に示すことを検討してはどうか。
- 成果や課題を考える際、今までのように単独で調査項目の変化をみて検討するだけでなく、今後は関連する調査項目を複合的な視点で分析し検討する必要があると考えている。
- 継続活用する学校（園）は年間計画の中にこの事業を位置づけ効果を上げている。初活用の学校（園）が継続的に活用するための支援や手立てを検討することが、今後本事業を普及するヒントになるのではないか。また、8年間本事業を継続する中で、県内幼稚園や小学校等においてどの程度が活用しカバーできているのか。本事業を活用していない学校（園）や市町教育委員会に本事業の活用を後押しするような工夫はできないのだろうか。
- 良い事業の成果を共有する場が必要である。幼稚園や中学校など同校種で行う横連携、地域における幼稚園・小学校・中学校・高等学校の校種間で行う縦連携をいかに進めるか。
- 報告書の作成・配付やホームページの掲載に加え、本事業の必要性は感じているが活用できていない学校（園）に本事業の成果を届ける工夫をお願いしたい。例えば、平成29年度防災教室講習会において栗林小学校が行った実践報告の紹介、内閣府主催のチャレンジプランや兵庫県主催の防災甲子園等で地域と連携した取組みで優秀賞となった県外中学・高等学校の事例を紹介するなどが考えられる。
- 学校（園）が「報告書を活用しよう」や「本事業に参加しよう」と思える工夫を検討してはどうか。例えば、「専門家と一緒に通学路の点検や避難訓練を考えてみませんか」など、わかりやすく学校（園）のニーズを掘り起すようなキャッチコピーや本事業の成果を簡単にまとめた一枚チラシを添付するなど、工夫を期待します。

Ⅱ 各学校（園）の取組み

1 防災計画や危機管理マニュアル等への助言

2019年度 学校防災アドバイザー派遣事業報告書

学校（園）等の名称	三木町立白山幼稚園
派遣内容	学校防災計画や危機管理マニュアルへの助言
日時	令和元年8月7日（水）9：30～12：30
場所	三木町立白山幼稚園
対象者 参加人数	教職員 8名 ※今回は教職員のみで園内研修を行いました。
外部より当日参加した 防災関係者	参加者合計 0名 隣接する学校（園） 0名 保護者 0名 自主防災組織 0名 消防署 0名 その他（ ） 0名
内容・日程等	9：30～11：30・防災計画の見直し（危機管理マニュアル作成チェック表と照らし合わせながら） ・避難場所や避難経路について ・園内外の危険個所と対処方法について 11：30～12：30・次回（9/18）の地震時における保護者への引き渡し訓練に向けての助言（引き渡しカードの見直し、フローチャートの作り方等）
取組における成果	○危機管理マニュアル作成チェック表を一つずつ確認していくことで、本園の課題が明確になった。 ○園内外の見回りをアドバイザーの方に一緒にしていただくことで、危険場所に気付いたり、改善点を具体的に知ることができたりした。 （園内）・本棚やブラウン管テレビ、オルガンなどの固定の仕方 （園外）・園舎前の道路横に水路があるため、ため池が決壊したときは道路が冠水する危険性があること ・園周辺に古いブロック塀があり崩れる危険性があることなど ※このことを踏まえながら、最終避難場所を考える必要がある。
今後の課題	○次回（9/18）、地震時における引き渡し訓練までに行う改善点 ・引き渡しカードの見直し ・地震に対する事前対応・発生時の対応・事後対応のフローチャートで整理する。



研修の様子

2019年度 学校防災アドバイザー派遣事業報告書

学校（園）等の名称	丸亀市立城坤幼稚園
派遣内容	学校防災計画や危機管理マニュアル等への助言
日時	令和元年8月23日（金）14：00～16：00
場所	丸亀市立城坤幼稚園 遊戯室
対象者 参加人数	教職員 8名 （園長 教頭 担任5名 担任補助）
外部より当日参加した 防災関係者	参加者 合計3名 アドバイザー：香川大学 1名 香川県防災士会 1名 オブザーバー：香川県防災士会 1名
内容・日程等	14：00～14：15 園からの説明 14：15～15：00 園内及び園周辺の建物や避難経路の危険箇所の把握 15：00～16：00 協議 ご指導
取組における成果	○避難訓練について 訓練時に地震速報（緊急アラーム）の積極的な活用を行い、子どもも音に慣れておくことが、緊急時の敏速な対応につながる。実際に揺れが起こるまでの20秒間に各自何ができるか、平日頃からディスカッションをしておく。 ○施設内外の安全について ガラスの飛散防止や扉の開閉防止等施設巡回の中で具体的に危険箇所を指摘していただいたので、もう一度見直し、必要に応じて改善していきたい。 ○防災意識やスキルの向上 勤務時間外に災害が起こったときの対応や職員各自の家族との安否確認の手段など、あらゆることを想定して、いつ何時災害が起こっても対応可能なように備えの意識を持つことの必要性を痛感した。
今後の課題	○上記の問題点や課題の改善を行い、全職員共通理解の下、危機管理マニュアルの改訂を行う。 ○災害時の避難が長期化した場合の備蓄や保護者への受け渡し時の対応等も具体的に検討しておく。



協議・指導を受ける



施設巡回

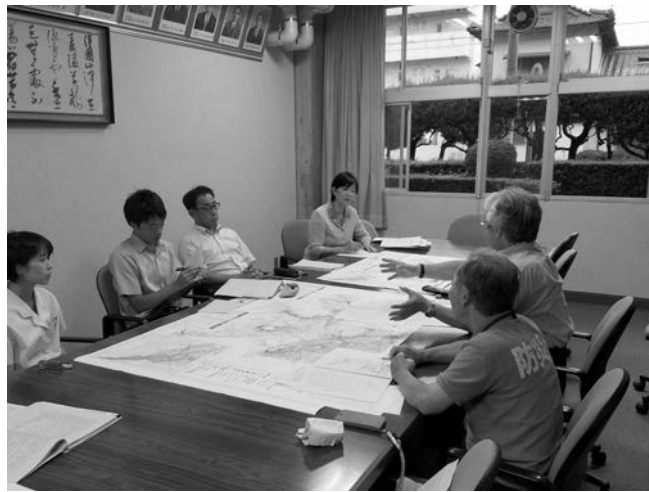
2019年度 学校防災アドバイザー派遣事業報告書

学校（園）等の名称	三豊市立仁尾中学校
派遣内容	大規模地震・津波を想定した避難経路の決定等についての助言
日時	令和元年8月27日（火）10:00～12:00
場所	仁尾中学校校長室
対象者	幼児児童生徒 約 名 教職員 2名
参加人数	クラス数 クラス（特別支援学級 クラス）
外部より当日参加した防災関係者	参加者合計 5名 隣接する学校（園） 名 保護者 名 自主防災組織 名 消防署 名 その他（ ） 名
内容・日程等	南海トラフ地震等大規模地震が起きた場合の対応について、現在のマニュアルでは実効性が低いと考えられ、新たなマニュアル作りのための専門的な知見を得る。
取組における成果	<p>当日は、県から4名、市の危機管理課からも1名の参加を得て、本校校舎及び立地等の状況を踏まえ、災害時（特に大規模地震）の初期行動と、その後の行動の在り方について、専門的な立場から多くの知見をいただいた。以下は、その主な成果である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 校舎が埋め立て地という立地のため液状化が予想されるが、その程度。 ○ 大規模地震の場合の余震等の危険を考慮した行動。 ○ 運動場への避難後の行動（敷地外への移動）の具体。 ○ 敷地外への移動の際に通る橋等の安全性の確認方法について。 ○ 市の防災対応の現状について 等。
今後の課題	<p>初期行動の後、敷地外へ移動する場合に通る主要な橋等（3つ）の安全性についての情報を元に、移動経路を複数設定し、それに優先順位をつける。また、それに基づいた実効性の高い対応マニュアルを新たに作成するとともに、避難訓練について再考する。</p> <p>仁尾町内の関係機関（支所、小学校等）に働きかけ、具体的対応について協議する。</p>

2019年度 学校防災アドバイザー派遣事業報告書

学校（園）等の名称	香川県立善通寺第一高等学校
派遣内容	学校防災計画や危機管理マニュアル等への助言
日時	令和元年9月20日（金） 13:15～15:15
場所	応接室
対象者	幼児児童生徒 約 名 教職員 7名
参加人数	クラス数 クラス（特別支援学級 クラス）
内容・日程等	13:15～15:15 協議 「学校防災計画書や危機管理マニュアル等への助言」
取組における成果	<p>○始めに、アドバイザーから善通寺市ハザードマップをしめしていただき、その上で協議が始まった。協議により多くの課題に気付くことができた。その成果は以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指定避難所の指定を受けていないが、周辺住民が避難しにくと思う。どう備えればいいのか。 → 生徒が在校中の発災の場合には生徒の避難場所もある。学校の第一目標の「学校再開」を意識し、どの施設、区画は住民に使ってもらってもいいのかを学校側で事前に決めておく。また、避難所の運営は避難してきた住民自身であり、学校教員は避難所スタッフではないということを住民に理解してもらおう。 ・防災係としてマニュアル改訂に向けどう勉強すればいいのか。 → 想像力を働かせ、計画書の内容が実施出来るか訓練を行い、課題を発見し、対策を立てるといったPDCA サイクルを徹底する。 ・備蓄品の内容や量が適切なのか。周辺住民が避難してきたらどう対応するか。 → 学校の備蓄品をあてにしなくてもいいよう、自らが備えて備蓄品持参で避難してくることを住民に周知し徹底する。 ・生徒に対して効果的な訓練、危機感を高めるためにはどんな話をしたらいいのか。 → 避難の際にも、火災の場合、地震の場合には避難経路がどうなっているか、避難後にはどのような生活が待っているかをイメージさせる。そこから課題に気づかせ、対策を考えさせ、その対策を行動につなげさせる。運動場に避難して終わりにしない。 ・大阪北部の地震の際、本部を立ち上げないといけなかったが担当教職員は参集しなかった。 → 他の学校では、緊急地震速報を受信するために、教員が携帯電話を教室にも持参するよう変更したところがある。 ・各係のうち、全員参集できないなら、どの係が重要か。 → 発災からの時間経過で変わってくる。火災なら消火係の役割が大きいいし、避難係は避難が完了すれば、他の仕事にあたる。求められる仕事は、時間経過により変化していく。計画書を作るのがゴールではない。計画書をつくる過程で発災時の状況をイメージし、課題を見つけ備えることが大事。各係ごとにリーダーを決め、やるべき事の議論、やれるかどうかの訓練を。

<p>今 後 の 課 題</p>	<p>○緊急対応マニュアルの改訂に向けて、教職員の危機感を高める取り組みと共通理解を図る必要がある。また、実効性のあるものにするため、教職員の居住地や家庭の状況を踏まえた体制作りも必要である。</p> <p>○防災訓練や避難訓練の見直しを行い、教職員と生徒がさまざまなイメージを働かせ実効性のある訓練にする必要がある。</p> <p>○地域の住民へのアプローチのため、市の危機管理部局との協力が重要である。</p>
------------------	---



(協 議 の 様 子)

2 学校と保護者、地域、関係機関等と連携した避難訓練や 防災教育等への助言

2019年度 学校防災アドバイザー派遣事業報告書

学校（園）等の名称	観音寺市立大野原幼稚園
派遣内容	職員を対象とした防災研修（大野原保育所との合同研修）
日時	令和元年7月8日（月） 15:00～16:30
場所	大野原幼稚園 会議室
対象者 参加人数	幼児児童生徒 約 名 教職員 18名 クラス数 クラス（特別支援学級 クラス）
外部より当日参加した 防災関係者	参加者合計 2名 隣接する園（大野原保育所） 2名 保護者 名 自主防災組織 名 消防署 名 その他（ ） 名
内容・日程等	防災アドバイザーによる指導助言・研修 ・危機管理マニュアルについて ・職員との質疑応答
取組における成果	<ul style="list-style-type: none"> ・職員ほぼ全員でこの会に参加したことで防災意識が向上したと思う。 ・園外保育や登降園のスクールバス乗車時、プールに入っているときなどに地震が起こった場合どうするのか、日頃から感じている疑問や不安なことなど、積極的にアドバイザーに質問した。様々な場合を想定し話をすることで、自分は何ができるのか考え声に出して動くことや、各自がその時にできる最善を尽くすことの大切さを再確認できた。また、原案のない地震において常に最悪のことを考えておくことの重要性を痛感した。 ・口に入れることで安心できるものとして氷砂糖や飴などある。新聞紙もプライバシーや暖が確保できる。その他、新聞紙の利用方法として、避難場所で使えるスリッパの作り方を教えてもらった。一緒につくることで周りの人たちとコミュニケーションが図れ、リラックスする効果もある。ぜひ活用したい。
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・揺れを感じてからの訓練だけでなく、緊急地震速報が流れたと想定した避難訓練も取り入れていく。 ・市のホームページのため池ハザードマップから、園周辺や通園路の浸水域について調べ、避難場所や避難経路の見直しをする。 ・保護者は、地震への意識はあるが、研修会などの参加は少ない。地震体験車の利用等、働き掛けていく。



（研修の様子）



（アドバイザーの指導）



（新聞紙でのスリッパづくり）

2019年度 学校防災アドバイザー派遣事業報告書

学校（園）等の名称	観音寺市立大野原幼稚園
派遣内容	地震避難訓練における指導助言
日時	令和元年11月8日（金）13:20～15:00
場所	大野原幼稚園 保育室 園庭 うめ組保育室
対象者	幼児児童生徒 約 241名 教職員 約 25名
参加人数	クラス数 11クラス（特別支援学級 クラス）
外部より当日参加した防災関係者	参加者合計 0名 保護者 名 自主防災組織 名 消防署 名 その他（ ） 名
内容・日程等	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急地震速報～避難訓練 ・地震避難訓練における各学年からの反省 ・指導・助言
取組における成果	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急地震速報を利用して地震の発生を知らせたことで、揺れ始めるまでの10秒～20秒の間に安全な場所へ移動するよう声を掛けることができるので、次回は、試したい。 ・避難する場所は「落ちてこない」「倒れてこない」「移動してこない」という覚えやすいポイントを学んだ。 ・掲揚台の棒は途中で継いでいるため、折れる可能性がある。特に、電柱など電線でつながっているものは、1か所が倒れ始めると続けて倒れることも考えられる。集合場所や避難経路は危険性のない場所を選んで行きたい。 ・人工芝の裏を裸足で歩いた時と、前回作り方を教えていただいた新聞紙のスリッパを履いて歩いた時との違いを全員で体感した。新聞紙と思えない程、足裏への圧が分散されていることに驚いた。もしもの時に活用できるよう覚えておく。
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・各クラスの教師がそれぞれ電気を消すのではなく、大元でまとめて消すと時短になる。短時間に多くのことをするための工夫として取り入れたい。 ・揺れが治まった後、どう動くかはその場にいる教師の判断で行わなくてはならない。出張など不在の教師がいる時などを想定し、いろいろなパターンでの教師間の連携を重ねていきたい。 ・速報が流れるとシーンと静まっていたが「大丈夫だよ」「先生はここにいるよ」など、訓練の時から教師が声を出すことで、幼児は教師の声を聞き安心すると助言していただいた。次回から実践していきたい。



(アドバイザーとの話し合い)



(新聞紙スリッパを履いて人工芝を体感中)

防災訓練計画書（地震）

実施日	令和元年11月8日（金）13:20～			
ねらい	3歳児 ○ 先生の指示を聞き、一緒に逃げる。 4歳児 ○ 教師の指示を聞き、静かに避難する。 5歳児 ○ どこにいても教師の指示を聞き、静かに素早く避難する。			
時刻	内容（○…幼児 ☆…教師）	3歳児の様子	4歳児の様子	5歳児の様子
13:20	<p><u>（3・4歳児）保育室でいる状態で</u> <u>（5歳児）保育室やテラス、廊下で</u> <u>いる状態で</u></p> <p>* 全学年予告なし ☆ 地震速報10秒間（園長） ☆ ダンゴムシのポーズをするよう声を掛ける。</p> <p>○ 地震速報を聞いたら教師の近くや机の下、上に何もないうちに集まり、ダンゴムシのポーズを素早くとる。 ○ ダンゴムシのポーズで静かに動かず待つ。</p>			
	<p>☆ 揺れがおさまった合図（園長） ☆ 窓やドアを開けて避難経路を確保する。 ☆ 防災ずきんを保育室の床にばらまく。 ☆ テラスの靴を取りに行き、保育室にまく。 ○ 防災ずきんを被り、靴を立て履く。 ○ テラスにいる幼児はそのまま避難し、後で教師が持ってきた防災ずきんを被る。 ☆ 照明・空気清浄機・エアコン・扇風機などを消す。 ○ 園長補佐がいるところまで静かに素早く避難する。 ☆ 人数確認をし、学年主任に報告する。</p>			
〈反省・課題〉				



（避難訓練・保育室を出て）



（避難訓練・集合場所へ）



（避難訓練・先生からの話）

2019年度 学校防災アドバイザー派遣事業報告書

学校（園）等の名称	三木町立白山幼稚園		
派遣内容	防災関係機関と連携した実効性のある避難訓練などへの助言		
日時	令和元年9月18日（水）13:30～15:30		
場所	三木町立白山幼稚園		
対象者	幼児 25名	教職員 9名	
参加人数	クラス数 3クラス	（特別支援学級 0クラス）	
外部より当日参加した 防災関係者	参加者合計	16名	隣接する学校（園） 0名
	保護者	16名	自主防災組織 0名
	消防署	0名	その他（ ） 0名
内容・日程等	13:30～14:40 避難訓練と保護者への引き渡し		
	14:50～15:30 今後の課題と改善点について		
取組における成果	<p>○前回（8/7）に助言をいただいた『地震における事前対応、発生時の対応、事後対応をフローチャートで整理すること』を、職員間で話し合いながら進めていくことで、避難に対する共通理解ができた。</p> <p>○実施に引き渡し訓練後、一人一人が気付いたことを話し合う中で、今後の課題を共通理解することができた。</p> <p>（ブルーシートを園舎の外に常備しておく。〈待機場所に敷いたり、雨や風よけになる〉エビペンを持って出る。避難袋や救急箱は、持ち出しやすい場所に移動する。車で来る保護者は、エンジンを止めないほうが良いなど）</p> <p>○教職員が、自分の身を守ることを忘れないようにすることが一番大切であることを学んだ。</p>		
今後の課題	<p>○引き渡し場所の表示をしていたが、保護者から見えにくい場所だったので、目線より高くなるように掲示する。</p> <p>○小学校と連携を図りながら、小学校に避難した場合の待機場所を明確にする。</p> <p>○他園の防災計画と比べながら、園の実態にあった防災計画になるように見直していく。</p> <p>○園付けの防災頭巾を検討していく。</p>		




地震時における引き渡し訓練の様子



引き渡し訓練後の
職員研修

- 1 ねらい ①地震が発生した時、どのように行動すればよいか知る。(3、4歳児)
②地震が発生した時、指示をよく聞いて安全に素早く行動する。(5歳児)
- 2 日時 9月18日(水) 13:30~14:40
- 3 想定 地震(震度6弱、余震なし) 降園前の集まりのとき
- 4 内容

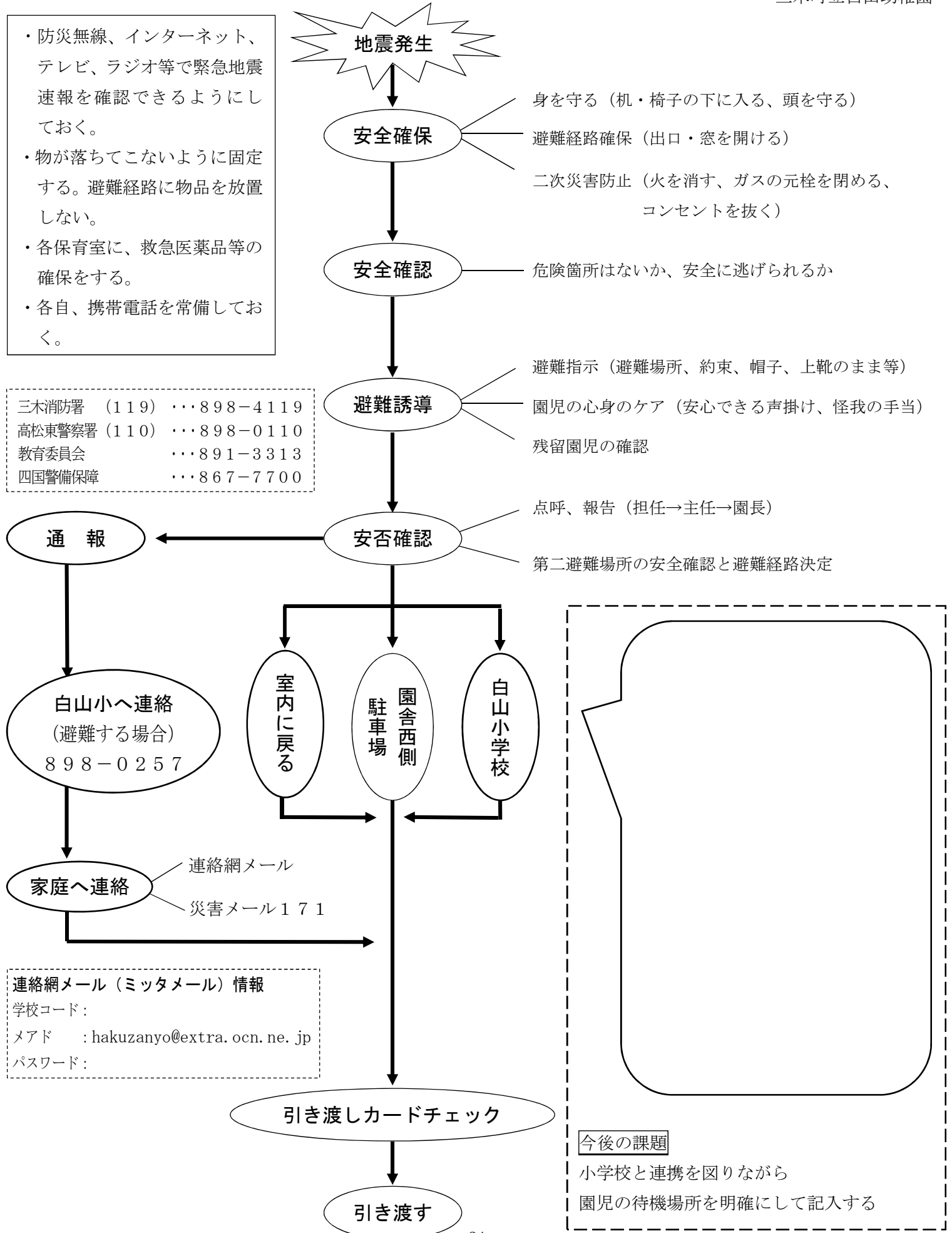
	幼児・教師の活動	教師の援助
13:30	<p>園児:各クラスで、避難訓練の話聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「おはしも」の約束を守って安全に避難する ・揺れている間は、ダンゴムシのポーズをする ・クラス帽子をかぶって、上靴のまま避難する 	<p>○前回した避難訓練のことを振り返りながら、地震時の注意事項について再確認ができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放送や先生の話をよく聞く ・上靴のままで逃げる ・荷物は持たない ・『おはしも』の約束を守って逃げる
13:45	<p style="text-align: center;"> 地震発生</p> <p>○地震の合図・放送を聞く。(ベルが鳴る) 園長：「避難訓練です。避難訓練です。地震です。子ども達は先生のそばに集まって、頭を押さえて机の下にもぐりましょう」2回繰り返す。 担任：「先生がいるから大丈夫。慌てずに静かに」など、言葉かけをする。※子どもの安全確認をしながら 園児：担任の指示で保育室内の安全な場所へ移動し、机の下に入る。 担任：避難経路の確保をする。出入り口の確保、電気を消し、コンセントを抜く。</p> <p>○揺れが収まると、避難行動をとる。 園長：「揺れが収まりました。先生と一緒に運動場の真ん中に集まりましょう」 担任：人数確認をし、名簿を持ち、ドアを開けて、幼児の先頭に立ち、運動場に向かう。</p> <p>○全員が園庭真ん中に集まる。 ☆園内見回り[安西] 担任：人数確認をする。 ☆最終確認[園長] 「〇〇組、出席〇名、欠席〇名、全員揃いました」と主任に報告、全員が揃ったら、どちらの方向に逃げたらよいか確認する。</p> <p>○避難場所に移す。(駐車場) ・年少児と年長児が手をつなぎ、順番に移動する。その後、年中児が移動する。 担任：避難場所に着いたら、もう一度人数確認をして主任に報告する。 ☆報告確認[野村] ・園児は、駐車場で待機する</p>	<p>○聞き慣れない音や雰囲気不安を感じるので、まず安心できるように言葉かけをする。 ○担任から離れないように声をかけ、あわてないように、安全に、確実に、全員が避難するようにする。 ○特に不安になりやすい幼児は、担任の身近に置く。</p> <p>○宮前Tは保育室、トイレなどを見回り、残留児がいないか確認する。</p> <p>○一番早く、運動場に出た職員が、子どもの先頭に立ち、誘導する。 ○幼児の身体に触れ、安心させながら、素早く人数確認をする。</p> <p>○避難場所まで、安全に静かに速く歩いて移動するように注意する。 ○引き取り訓練を実施していることを子どもに伝え、家まで安全に帰ることを説明する ○駐車場の前が道路なので、安全に待てるように配慮する。 ○引き取り場所の表示をする。 ○引き取り者を確実に確認し、子どもを保護者に渡せるようにする ○駐車場が混雑しないように、職員が誘導する</p>
13:55	<p>○保護者に引き取りのメールを送信する(園長、久住)</p> <p>○引き取りに来た保護者を確認し、幼児は降園する</p>	
14:40		

地震発生時緊急対応マニュアル

三木町立白山幼稚園

- ・防災無線、インターネット、テレビ、ラジオ等で緊急地震速報を確認できるようにしておく。
- ・物が落ちてこないように固定する。避難経路に物品を放置しない。
- ・各保育室に、救急医薬品等の確保をする。
- ・各自、携帯電話を常備しておく。

- 三木消防署 (119) …898-4119
- 高松東警察署 (110) …898-0110
- 教育委員会 …891-3313
- 四国警備保障 …867-7700



2019年度 学校防災アドバイザー派遣事業報告書

学校（園）等の名称	三木町立ししの子幼稚園・保育所
派遣内容	避難訓練計画書を基に引き渡し訓練
日時	令和元年10月3日（木）14：00～16：00
場所	三木町立ししの子幼稚園
対象者 参加人数	幼児児童生徒 約 130名 教職員 約 27名 クラス数 8クラス（特別支援学級 1クラス）
外部より当日参加した 防災関係者	参加者合計 93名 隣接する学校（園） 0名 保護者 93名 自主防災組織 0名 消防署 0名 その他（ ） 0名
内容・日程等	14：00～ 地震発生・避難訓練実施 14：05～ 園児避難・引き渡し訓練 14：30～ 避難訓練実施後の助言指導
取組における成果	<p>《助言》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『引き渡しカード』に記入されていない人が引き取りに来た時は、電話で保護者に確認する等、一度、落ち着く必要がある。 ・遊戯室に避難後も緊張感を出すために、余震の音や防災ラジオを流し、訓練が続いている状況を意図的に作っていく。 ・ピアノの固定具を確認しておく。 ・『かくれんぼゲーム』等を取り入れ、生活の中で隠れる状況を作っていく。 ・引き取りに来た保護者は、靴を履いての訓練を実施していく。 <p>《次年度に向けて》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『引き渡しカード』の引き取り者の欄を、引き取り可能な人、全員が記入できるよう変更。又、受け取りのサイン欄も加える。 ・菓等、避難時に持ちだすものをもう一度検討する。
今後の課題	・保護者への『引き取りメール』をどのタイミングで送信すればよいのか、又、保護者の防災意識を上げていくための具体策を検討していきたい。



遊戯室へ避難した様子



話し合いの様子

引き渡し訓練(地震を想定して)

三木町立ししの子幼稚園・保育所

1 日時 令和元年10月3日(木)

事前連絡 四国警備保障 867-7700 (園長)

2 訓練内容

13:45 地震発生アナウンス(園長)

近隣へ

「ししの子幼稚園・保育所では、14:00から避難訓練を行います」(2回)

園児へ

「ししの子幼稚園・保育所のみなさんへお知らせします。この後、地震の避難訓練をします。地震のお知らせがあっても慌てないで、先生の言うことをよく聞いて動きましょう」(2回)

14:00 地震発生…【各保育室で、お帰りの時間に地震発生の想定】

速報音、本震(ガタガタ音55秒間)

「訓練、訓練、地震です。地震です。強く揺れています。繰り返します。訓練、訓練、地震です。地震です。強く揺れています。」

頭を守って座りましょう。近くに机がある人は机の下に入りましょう」

※教職員及び園児は頭部保護を実施。(硬固は物の下及びアヒルのポーズ)

メール配信(川窪) 年少児14:00

年中児14:05

年長児14:10

保育所14:15

※送信確認してください

避難誘導のアナウンス (園長)

「揺れが収まりました。先生方は、被害状況・子ども達の安否確認をしてください。」

※園長から被害状況確認指示→職員

(保育所側…高重、幼稚園側…濱崎[園内]・梅下[ウッドデッキ]、遊戯室…安藤)→園長に報告

「ウッドデッキ側のガラスが割れています。先生のお話を聞いて廊下から遊戯室に集まって下さい。」

避難方法

○ 園児避難…遊戯室の真ん中

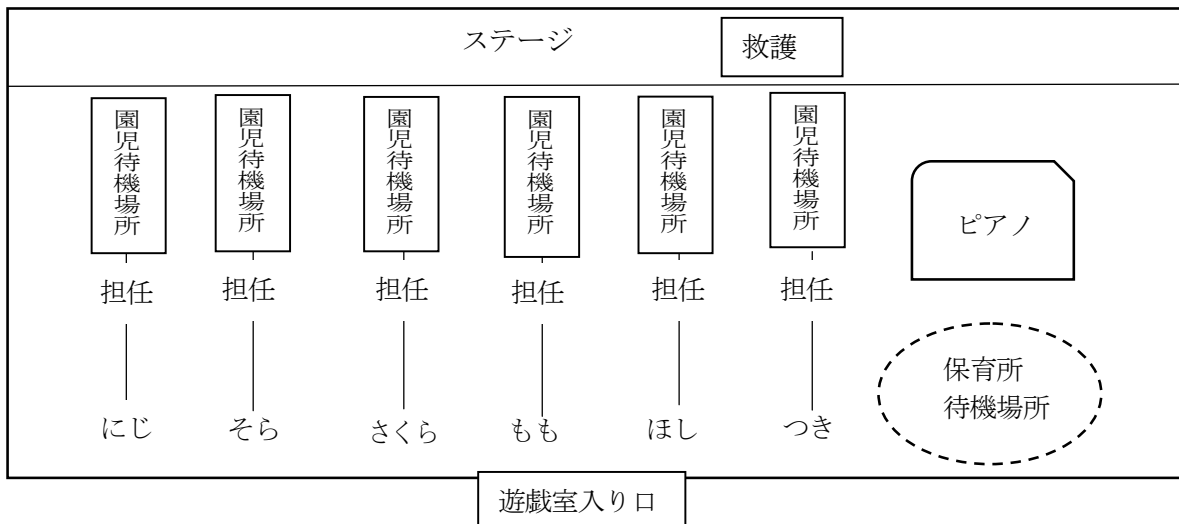
・各クラス出入口(廊下側)より避難誘導する

・防災頭巾をかぶって、北向きに西からにじ→そら→さくら→もも→ほし→つき→いちご→さくらんぼの順番で並ぶ

〔 3、4、5歳児：保育室で防災頭巾を配る
0、1、2歳児：担任が防災頭巾を持ち出し配る 〕

・人数確認、ケガの報告(幼稚園：安藤→園長)(保育所：高重→園長)

・各クラス 子ども達は南向き(出入口の方向)で待つ(担任が先頭)



引き渡し訓練

「今から引き渡し訓練をします。担任の先生は、保護者が来たら落ちついて園児の引き渡しを行ってください。」(園長)

※長子のクラスの担任は、兄弟組を迎えに行く

※担任は立って保護者を待つ

※保護者が引き取りに来たら、各クラス担任の前へ1列になって並んでもらう。

保護者に「〇〇組〇〇〇〇の母(関係)〇〇〇〇です。」と名乗ってもらい
(子どもの名前) (引き取り者の名前)

担任は「〇〇〇〇さんの母(関係)〇〇〇〇さんですね。引き渡し時刻は〇〇時〇〇分です。」と引き渡しカードに名前を記入し、子どもを引き渡す

※引き渡しカードにふせん等付けておいて、素早く確認ができるようにしておく(兄弟分は長子のクラスに入れておく。保育所の兄弟は別)

※引き渡し後、親子で各自の保育室に戻り、荷物等、持ち帰るよう伝える。

○引き渡し完了の報告(幼稚園：雉鳥→園長)(保育所：高重→園長)

3 園児への指導

- ・防災頭巾の置き場所を確認する ・自分でかぶれるようにする
- ・お家の人が迎えに来るまで脱がない ・放送を聞く ・身体を守る ・しゃべらない ・押さない
- ・並び方 ・歩き方など ・「お・は・し・も」の徹底

4 役割分担

- ・ CD・・・・・・(濱崎) ※CDをとめる
- ・ 地震発生放送・・(園長)
- ・ 避難誘導・・・・年 少 (溝渕・飯野・赤松・多田・松家) いちご組(天野・筒井委)
- 年 中 (白井さ・綱内・吉本・樽谷) さくらんぼ組(森貞・竹内・久保)
- 年 長 (雉鳥・荻田・植松・楠本)
- ・ 非常持ち出し袋の搬出・・・・年長(雉鳥) 年中(白井さ) 年少(溝渕) 預かり部屋(馬場)
- 筆記用具と一緒に 職員室(※全園児の引き渡しカード)(濱崎) →雉鳥へ渡す
- 入れておく。 いちご組(天野) さくらんぼ組(森貞)
- ・ 駐車場(南門付近)・・(安藤) ※南京錠持っておく(今回は前もって開けておく)
- ・ 防災ラジオ・・・・・・(濱崎)
- ・ AED、マイク・・・・(梅下)
- ・ 救 護・・・・・・(西丸・梅下)
- ・ 記 録・・・・・・(雉鳥・多田) 記録写真(多田・馬場)
- ※ 見回り・・保育室(各担任)、遊戯室(安藤)、預かり部屋(馬場)、子育て支援室(西丸) 倉庫(安藤)
- 絵本の部屋(樽谷・楠本)、つき組横トイレ(綱内・安藤)、そら組横トイレ(荻田・楠本)
- 屋外倉庫・屋外トイレ(楠本) 職員室・書庫(濱崎)、保健室(西丸)
- 会議室・もも組横トイレ(飯野)、湯沸室(濱崎)、更衣室(馬場)
- りんご組(高重)、調乳室(高重)、乳児トイレ(竹内)、教材室(筒井委)
- ・ 遊戯室入口・・(濱崎)
- ☆引き渡し後 反省会…園長、安藤、高重、雉鳥(進行)、吉本、多田(記録)

5 確認

- ・ 出入口の確保 ・人数確認、ケガの報告
- ・ 用具はそのまま、上靴で遊戯室へ避難する(職員は帽子をかぶる)
- ※ 各クラスで、防災頭巾をかぶる練習をしておく
- ※ 事前に各クラスで、地震に関する絵本や紙芝居を読んでおく。

6 備考

- ・ 事前に遊戯室にクラス表示を貼っておく(表示と担任の位置を確認しておく)
- ・ 「引き渡しカード」にふせんを付け、すぐにチェックできるようにしておく(兄弟組は事前に長子に渡しておく)
- ・ 各学年の非常持ち出し袋に筆記用具を入れておく。
- ・ 引き渡し後、預かりを利用するかどうか確認する。

保護者参加人数

そら	15
にじ	14
つき	18
ほし	17
もも	12+ (兄弟組3)
さくら	12+ (兄弟組3)
いちご	3+ (兄弟組4)
さくらんぼ	2+ (兄弟組4)
家庭数	計93 (107)

2019年度 学校防災アドバイザー派遣事業報告書

学校（園）等の名称	高松市立栗林小学校
派遣内容	防災学習授業参観の実施内容等への助言
日時	令和元年6月22（土） 8：15 ～ 11：40
場所	1 防災に関する授業（各教室） 2 防災に関する体験活動（屋外、体育館、1・2年各教室）
対象者数 参加人数	・児童 1,223名 ・クラス数 42クラス（特別支援学級5クラス） ・教職員 60名 ・保護者 約600名
外部より当日参加した 防災関係者	・消防署 18名、消防団南部分団7名、女性消防団3名、自主防災13名、 女性防火クラブ6名
内容・日程等	8:20～8:30 全校放送（防災学習の意義、心構え・ゲストティーチャーの紹介） 8:45～9:45 1校時（1・3・5年生…防災についての授業、2・4・6年生…体験活動） 10:05～11:05 2校時（2・4・6年生…防災についての授業、1・3・5年生…体験活動）
取組における成果	<p>低学年の授業「もし、じしんがおきたら？（学校編）」では、学校にいる時に地震が起きた場合、どんな危険が生じるか、そこで、自分の命を守るためにどのような行動を取ればよいかについて具体的な例をもとに実感をもって学ぶことができた。非常食・非常携帯持ち出し袋の体験では、アルファ米や乾パンを実際に調理し食べた。また、新聞スリッパやごみ袋防寒着を作成した。中学年の体験活動で行ったバケツリレーや水消火器訓練では、災害時に自分でできることを知り、体験することで、災害時における共助の一つとして主体的な行動をすることの重要性を学んだ。煙体験では、身をかがめて通行することの大切さを学んだ。高学年においては、5年生授業「自分にできる防災対策を考えよう」で、災害時に自分は何ができるか考える学習を行った。また、6年生は「阪神大震災に学ぼう（暮らし編）」で、震災時、どんなことが起き、どんなことをしたかを学んだ。体験活動では、AEDや担架を中心に、体験を通して学ぶことで「共助」の意識をもつことができた。</p> <p>今年度で8回目となる防災学習授業参観だったが、これまで積み重ねてきた資料等を修正しながら活用し、学習指導内容を練ったおかげで昨年以上に充実した学習となった。指導する教員の指導技術も年々上達している。</p> <p>また、高松北消防署の方より、専門的な見地から指導・助言いただいたこと、そして、高松市消防南部分団、校区自主防災組織連絡会、校区女性防火クラブの方々と、計画段階から協力し、学校外の機関や団体と連携を深められたことも、学校と地域が一体となって防災体制をより整える点で大きな成果だった。</p> <p>防災アドバイザーの方々からは、地域の防災を学校と連携することで活性化させているよさや大地震に備えることの大切さを改めて感じる事ができた。</p>
今後の課題	<p>保護者が体験活動に参加できるように呼びかけを行い、家庭での防災対策についても意識を高めていただくようにする。</p> <p>体験活動や授業について検討し、学年や社会の流れに応じたものに改善を進めていきたい。</p>

防災学習写真



水消火器体験



バケツリレー体験



煙体験



AED体験



担架で人を運ぶ体験



防災についての授業

令和元年度 防災学習授業参観の日程

1 日 時 令和元年6月22日(土)
 2 服 装 登校時から体操服と赤白帽
 3 日 程 等

時間 校時等	8:10~8:20 朝の会	8:20~8:30 朝の活動(10分)	8:45~9:45 1校時(60分)	10:05~11:05 2校時(60分)	11:15~12:50 帰りの会等	12:50~13:30 下校開始11:45
1年	8:10~8:20 朝の会 【各教室】	8:20~8:30 全校放送を行う。 1 校長先生のお話 2 防災担当のお話 (日程・注意点等) 3 教頭先生からお世話 になる地域の方々の 紹介	授業参観 『もし、じんががおきたら?』 (学校編)	体験・見学学習【各教室】 『非常食・非常携帯』 ・アルファ米(4人に1個:計53個) ・乾パン(各クラス2缶:計12缶) ・非常持ち出し袋(各クラス1個:計6個) 授業参観 『もし、じんががおきたら?』 (学校編)	非常食体験 女性防火クラブ(6名)	
2年	8:30~ 関連車両 校内へ ※7台		体験・見学学習【各教室】 『非常時に必要な物を知ろう』 ・新聞スリッパ(体感コーナーあり) ・ごみ袋防寒着		11:15~11:45 ふり返り 12:50 メール配信	
3年		○消防署(18名) ○消防団南部分団 (7名) ○女性消防団(3名) ○自主防災(13名) ○女性防火77(6名) ○防災アドバイザー ・防災士 ・保健体育課	授業参観 『急な天気の変化から身を守ろう』 (自然災害編Ⅱ)	体験・見学学習【校内各所】 『防災訓練に取り組もう』 ・パケツリレー【運動場】【雨1F南外通路】 ・水消火器【運動場】【雨1Fエントランス】 ・煙体験【運動場】(雨 合羽作り)	11:45~12:25 ヘアランチ 12:25~12:50 片付け 下校の用意 下靴を取りに行く 帰りの会	12:55 校内放送 12:55 引き取り訓練 ~13:30 引き取り訓練終了
4年			体験・見学学習【校内各所】 『防災訓練に取り組もう』 ・パケツリレー【運動場】【雨1F南外通路】 ・水消火器【運動場】【雨1Fエントランス】 ・煙体験【運動場】(雨 合羽作り)	授業参観 『急な天気の変化から身を守ろう』 (自然災害編Ⅱ)	3・4年生活動補助 (自主防災・消防団 ・パケツリレー(高松市消防団南部分団5名) ・水消火器(高松市消防団南部分団2名) (自主防災6名) ・煙体験(消防署3名)	
5年	前日に搬入・準備 ・水タンク (組み立て、ホースの準備) 当日朝、水を入れる。(自主防災) ・体育館にAEDを置くブルーシ ートを6枚しく。(教職員)		『自分にできる 防災対策を考えよう』	体験・見学学習【体育館】 『救助訓練に取り組もう』 ・担架 ・練習用AED	5・6年生活動補助 AED(消防6名)〈女性消防団3名〉 担架(消防1名)〈自主防災6名〉	
6年			体験・見学学習【体育館】 『救助訓練に取り組もう』 ・担架 ・練習用AED	授業参観 『阪神淡路大震災に学ぼう』 (震災時の暮らし編)		
くりの子			交流先の授業・体験学習に参加	交流先の授業・体験学習に参加		

※ 実施中に緊急避難を要する事態になった場合は、安全に児童を体育館に誘導する。



さいがいにそなえて

2ねん くみ()

めあて

さいがいにそなえることの大せつさについて考えよう。

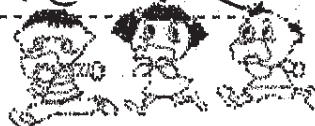
★ 地しんの 後に やく立つ スリッパや ぼうかんぎを
作ってみて 思ったこと。

ちくちくのところがくつ下だといいたか、
たけどスリッパをはくといいたくなかったです。
カッパはさいごあたまを入れるところ小さいか、
たけどどうでもとおすところはできました。
だから地しんにそなえたいです。

★ 今日の 学しゅうで、分かったことや 思ったことを
書きましょう。

いろいろな場しょにきけんがあるんだ
なと思いました。しんぶんしとかみみでス
リッパがかんたんに作れるんだと分か
てゴミぶくろでカッパを作れるんだと

おうちのひとから 思いました。



みちがいにあるもので、さいごいにやくにたつものがつくれてよかった。
家でもさいごいについて、よくしなしたい。

④ 急な天気の変化から身を守る方法を知り、これからの自分の行動を考える。

☆DVDを見て・・・

どうして、ひがいにあってしまったのかな？

(まだ) 公園 (かみなり・たつまき) ちんぞく (帰る) 帰る
 ひがいに 帰る
 ① ちんぞく、本 (ずがある) ない (か)
 下にいた。 ← はんだん (か) きた。



どんな行動をしていたらよかったのだろうか？

家にいたじてんで気をつけていたから
 よかった。 ちんぞくの時にひな人する場
 所を たて した。 (秋ばな) いろいろな
 ちんぞく (か) いろいろ (か) いろいろ (か)
 たて (か) ものも (か) 自転車 (か) にひな人する。

ちんぞく (か) いろいろ (か) いろいろ (か)
 (か) (か) (か) (か) (か)

(まだ) じゆくへ行く (か) ちゆう (か) ぞう水 (か) (か) だん (か)
 せき (か) 川の (か) 水 (か) が (か) だん (か) いて (か) いる (か) の (か) に
 ひな人 (か) し (か) な (か) かつ (か) た (か) 道 (か) 道 (か) ろ (か) が (か) 川 (か) 川 (か) み (か) い
 にな (か) っ (か) て (か) い (か) て (か) も (か) 道 (か) 道 (か) ろ (か) を (か) わ (か) た (か) っ (か) た (か) 。
 川の (か) 新 (か) く (か) → あ (か) ぶ (か) な (か) い (か)



川のなみんがぶ

川 (か) み (か) たい (か) にな (か) った (か) 道 (か) 道 (か) ろ (か) を (か) わ (か) た (か) っ (か) た (か) 。
 川の (か) ち (か) な (か) く (か) に (か) い (か) かつ (か) っ (か) た (か) 。
 さ (か) け (か) だ (か) と (か) 思 (か) っ (か) た (か) っ (か) て (か) ん (か) で (か) り (か) ぬ (か)
 する。 天 (か) 気 (か) は (か) ぼ (か) う (か) を (か) か (か) に (か) ん

⑤ 自分はいろいろバツと思わず、水にぬれたい物にひな人する。

☆今日学んだことから、これから気をつけていきたいことを書きましょう。

ちんぞく (か) を (か) つ (か) けて (か) い (か) な (か) く (か) て (か) も (か) か (か) み (か) な (か) が (か) お (か) ち (か) る (か) 事 (か) を (か) は (か) じ (か) っ (か) て
 知 (か) り (か) ました。 自 (か) 分 (か) は (か) たい (か) い (か) う (か) だ (か) と (か) 思 (か) わ (か) ず (か) ちんぞく (か) ひな人 (か) する (か) 事 (か) が
 大切 (か) だ (か) な (か) と (か) 思 (か) っ (か) ました。

自分でできる防災対策を考えよう

5年 組()

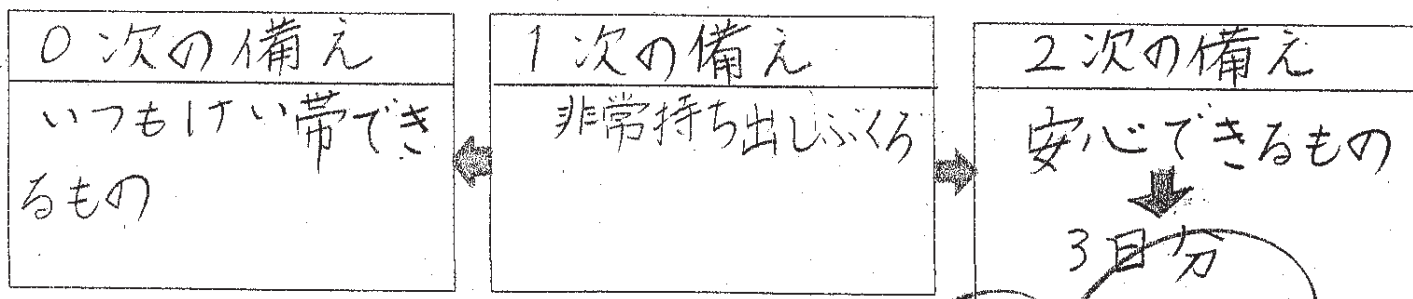
⑧ 災害に備えて準備しておくといよいものは何かを考えよう。

1 必要だと思うものを書きましょう。(自分の考え)

品目	必要な理由	品目	必要な理由
水	のどがかわくから	タオル	あせなどをふく
食料	おなかがすくから	ラップ	さっぱりようにつかぬ
かみそり	暗くなるから	新聞紙	あったかいスリッパをつくれる
スリッパ	ガラスなどおかないから	ビニールふくろ	ものをいれる
ラジオ	じょうほうけん	リュックサック	手足がかわくから

お金 コンビニでんわなどを
つかうから
2 友だちの話を聞いて分かったことを記録しましょう。

3 非常時に備える3ステップ



4 今日の学習を通して分かったこと・感想

わたしはこの学習をとおしてもっと自分の命は自分で守るを心がけておきたいと思いました。自分が助かっているのは共助にもかまうことが出来るのでまずは自分で守るようになりたいです。そしてこの頃のしゃんも大切だということも分かったのも家は帰るお母さんがどんなそなえをして、そしてお父さんをしていのかを聞いておきたいです。

5年

栗っこ防災クイズ ～どこまで知っているかな？～

- ① あなたが外にいる時に大地震だいじしんが起きた場合、一番正しい避難場所ひなんばしょは？
A:コンビニエンスストア B:ガソリンスタンド C:交番 (A) B
- ② あなたが家にいると時に大地震が起きた場合、最初にとる行動で正しいのは？
A:ドアや窓を開ける B:ガスの元栓を締める C:机の下に隠れる (C)
- ③ NTTの災害用伝言ダイヤルの番号は？
A:171 B:177 C:119 (B) A
- ④ あなたがスーパーマーケットにいる時、大地震が来た場合にとる行動で正しいのは？
A:買い物かごをかぶってうずくまる B:コンクリートの柱の下に避難する
C:非常口から逃げる (B) A
- ⑤ エレベーターの中にいる時に地震が発生しました。どうしますか。
A:すべての階のボタンを押す B:そのまま乗っている C:開くボタンを押し続ける (A)
- ⑥ 学校からの帰り道に地震が発生しました。どうしますか。
A:ブロックべいの横に隠れる B:走って家に帰る C:ブロックべいからはなれる (C)
- ⑦ 地震発生後、柱に足が挟まれて長時間身動きできず苦しんでいる人がいます。あなたがとるべき行動で正しいのは？
A:柱を持ち上げ、助け出す B:そのままにして救助隊の到着を待つ
C:挟まれている足をマッサージする (B)
- ⑧ 山や海に出でかけている時、グラっときたら、どうしたらよいでしょう？
A:海のそばにいる時は、すぐに高いところに行く。
B:海で泳いでるときは、うきわなどにつかまり様子を見る
C:山にいる時は、川を見つけて川沿いを通って、山を下りる。 (A)
- ⑨ 避難する時の服装は、どれが正しい？
A:身軽なうす着 B:長袖・長ズボン C:おしゃれな服 (B)
- ⑩ 家族で地震のために備えて、知っておくことで一番大切なものは？
A:避難のための集合場所 B:電話番号 C:誕生日 (A)

正解 7もん

70点

過酷な避難生活 6年組名前()

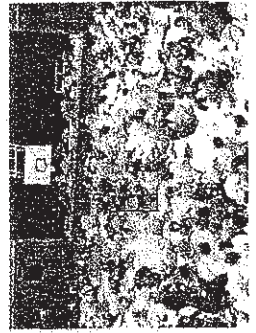
阪神・淡路大震災のとき、

避難所での集団生活の困難をどのように乗り越えてきたのだろうか。

☆ 自分の家がこわれた、ライフラインが止まった、余震がこわい……避難所へ

避難所での生活で困ること

- ・ まともに寝れない、救え人物資が配~~り~~不~~均~~雑
- ・ 食べ物や水がない、する。
- ・ 病気がうつるかも ↓ 薬が足りない。



☆ 場合によっては、何ヶ月も避難所で生活をしなければいけないかも……

過酷な避難生活をどうやって乗り越えようとしたのか、資料から読みとろう。

- ・ 使用時間、禁止事項を決めて、快適にするせう、呼びかけ、協力
 - ・ 共用物品を節約した、物資を大切にす。
 - ・ 清掃を行い、きれいに使えるようにした、健康
- 友本の貸し出し、友当番制、友の三才体操、健康友亦三才、フ音囀

学習を通して、感じたこと、気づいたことを書きましよう。

~~私は今ふつうに生活アミーになることがとてもありがた
 ことなると感じました。災害で不自由な生活をしてい
 る人はとても大変なうでした。私かもし災害にあたら、冷静
 に自分ア行動アするもやにしたいと書きました。~~

2019年度 学校防災アドバイザー派遣事業報告書

学校（園）等の名称	坂出市立東部小学校
派遣内容	防災マップ作り（校区内通学路の安全点検）
日時	令和元年6月25日（火） 9：30～12：00
場所	1. 防災マップ点検（坂出市立東部小学校校区内通学路） 2. 防災マップ作り（坂出市立東部小学校各教室）
対象者 参加人数	児童 69名 教職員 4名 クラス数 3クラス
外部より当日参加した 防災関係者	参加者合計 25名 隣接する学校（園） 0名 保護者 0名 自主防災組織 20名 消防署 0名 その他 5名（香川大学教授 2名 香川県防災士会 2名 香川県教育委員会 1名）
内容・日程等	9:30～11:00 校区内通学路における安全点検 11:00～12:00 点検したことを活かした防災マップ作り
取組における成果	<p>昨年度の4年生が作成した防災マップを見直し、さらに実効性のある防災マップ作りに取り組んでいる。</p> <p>6月25日の校区内通学路の安全点検に向けて、事前に香川大学教授や防災士の方と連絡を取ったり、当日の安全点検やマップ作りを実施したりしたことについて、次のアドバイスを受けた。</p> <p>① グループ内で役割分担を行う。 （リーダー、副リーダー、写真係、記録リーダー係、保健係）</p> <p>② 記録がとても重要であるため、全員が記録係になり、2人でペアを作り、1人は「みつける人」、もう1人は「記録する人」になり、発見したことを互いに声をかけ合って記録した。</p> <p>点検する視点は次の4点である。</p> <p>i) ブロック塀等、倒れてきそうなもの（下敷きになる危険） ii) 落ちてきそうなもの（上の方を見る） iii) 道路、マンホール、消火栓（下の方を見る） iv) 溝、水路（落ちる、流される危険）</p> <p>③ 道路や水路の深さ、幅等を確認するために2m位の棒に10cm刻みに印を入れ、点検に持参するようにアドバイスを受けた。しかし、4年生の児童にとって2mの棒は運びにくかったため、1mの竹棒に印を入れて、各グループに配布した。</p> <p>④ 危険な箇所だけを見つけるのではなく、防災のために工夫されている箇所についても確認するように声かけをする。</p>
今後の課題	今回の安全点検で収集した情報を安全マップに分かりやすくまとめ、実際の災害時にあわてず冷静にすばやく適切な対応ができるよう、防災マップの活用法について考えていく。



【防災士の方からのお話】



【水路の幅や深さを確認】



【危険箇所について話し合い】



【危険箇所を写真に記録】



【ブロック塀の高さを確認】



【探検後の防災マップの見直し】

2019年度 学校防災アドバイザー派遣事業報告書

学校（園）等の名称	坂出市立東部小学校
派遣内容	防災マップ発表会
日時	令和元年8月30日（金） 9：20～11：40
場所	防災マップ発表会（坂出市立東部小学校イングリッシュルーム）
対象者	児童 69名 教職員 4名
参加人数	クラス数 3クラス
外部より当日参加した防災関係者	参加者合計 25名 隣接する学校（園） 0名 保護者 0名 自主防災組織 20名 消防署 0名 その他 7名（香川大学教授 2名 香川県防災士会 5名）
内容・日程等	9:20～11:40 防災ポスター発表会
取組における成果	<p>6月25日の校区内通学路の安全点検をしたことをもとに、防災マップ作りをし、各グループが発表して、以下のアドバイスを受けた。</p> <p>① 防災マップには次のような記載があるとよい。 i) 水路 ii) ブロック塀 iii) 目印になる建物 iv) 記号の凡例 v) マーカーで長さを示す</p> <p>② 作成したものを地域の方にも見ていただき、学習していることをアピールしていくことが大切である。また、地域の方からのご意見をいただき、地域の特徴から防災を考えていくことも有効である。</p> <p>③ 子どもの視点は、大人と違っていることから、新しい発見があり、興味深い内容が見られた。</p> <p>④ 危険な個所には、危険な理由があるので、その理由を色々な目線で見えて記録することで、問題の解消につながり、役に立つ取組が具体的になってくる。</p> <p>⑤ 今回の学習で学んだことを活かして、自分の通学路や自宅周辺の状況についても、考える態度を養っていく。</p> <p>⑥ 今年の学習を次年度以降の次の学年へ引き継ぎ、同じ場所であっても状況は変化することを念頭に置いて学習を進めていく。</p>
今後の課題	今回のいただいたアドバイスをもとに防災マップをさらに見直し、地域の方をはじめ、多くの方々にとって分かりやすく活用しやすい防災マップの作成に役立てたい。



【作成したマップの発表①】



【作成したマップの発表②】



【発表を聞いて意見交流】



【マップ作成のポイント】



【防災マップの見直し①】



【防災マップの見直し②】

2019年度 学校防災アドバイザー派遣事業報告書

学校（園）等の名称	観音寺市立大野原小学校
派遣内容	避難訓練や学校防災計画についての指導・助言
日時	令和元年9月4日（水）13:15～14:30
場所	校舎内、運動場、体育館
対象者 参加人数	幼児児童生徒 541名 教職員 43名 クラス数 21クラス（特別支援学級 3クラス）
内容・日程等	13:15～ 地震を想定した避難訓練 13:30～ 全体指導（避難訓練後の講評等） 14:00～ 学校防災計画や避難訓練への指導・助言
取組における成果	<p>事前学習として、学校にいる時に地震が起きた場合、どんな危険が生じるか、そこで、自分の命を守るためにどのような行動をすればよいかについて、発達段階に応じたワークシートを活用しながら具体的に学んだ。</p> <p>また、避難訓練を休み時間に実施したことで、児童自身が教室、運動場や階段等である場合はどうすればよいかを考え、「安全行動の1-2-3」をとることができた。</p> <p>防災アドバイザーの方々からは、地震速報から地震までのわずか数秒間の初期行動が大切であること、災害は想定どおりにはならないため、いろいろなことをイメージしながら自分で考えて行動することが重要であること、混乱した中でも確実な人員点呼が必要であること等の指導・助言をいただいた。児童や教員の危機意識を醸成するとともに、危機管理マニュアルを全員で見直し、共通理解を図るためのよい機会となった。</p>
今後の課題	<p>より実効性のある防災学習、避難訓練を行うために、児童に何を学ばせるのか、どう指導するのか等のねらいを明確にしておく必要がある。家庭での防災意識を高めるための啓発も積極的に行っていかなければならない。</p> <p>また、地域と連携を図った防災学習等を計画・実施するなど、学校と家庭、地域が一体となった防災体制をより整えていくようにしたい。</p>



【運動場での安全行動（真ん中に集まり、小さくしゃがむ）】



【教室での安全行動
（机の下にもぐり、頭と体を守る）】



【廊下での安全行動
（その場にしゃがんで、揺れがおさまるのを待つ）】



【「おはしも」を守って避難
（頭を守り、静かに避難する）】



【防災アドバイザーによる講評】

令和元年度 第1回避難訓練（地震）実施計画

1 目的

- (1) 地震等の災害発生時に、自分で考え、これまでの訓練を生かして安全に行動する能力の向上を図る。
- (2) 児童の避難誘導等の訓練によって、緊急時に対応できるようにする。
- (3) 防災アドバイザーの指導・助言をもとに、地震等の災害についての意識の高揚を図る。

2 日時 令和元年9月4日（水） 13:10～14:00

3 実施内容

(1) 事前指導（前日までに） ※別紙プリント参照

- 地震等の避難訓練の意義と内容を説明する。（各学級で）
 - ・ 南海トラフ地震に備え、大きな被害を受けないように日頃から訓練しておく。
 - ・ 日頃から訓練等による防災意識を高め、いざという時にすぐに行動できるようにしておく。
- 緊急地震速報ブザー音が聞こえたら、すぐに安全行動をとるように指導しておく。
- 安全行動の1-2-3「ドロップ、カバー、ホールド・オン」を徹底する。



- 地震に伴う二次災害としての火事も起こりうることを知らせる。
- 避難経路の確認しておく。（教育実践ハンドブック P124参照）
- 避難場所と並び方を周知しておく。
- 避難中の約束を指導しておく。

押さない・走らない・しゃべらない・もどらない】「おはしも」

(2) 避難訓練（当日）

①校内放送 13:12

緊急地震速報ブザー音

「地震が発生しました。

安全な場所を探しましょう。

じょうぶなもののそばでじっとしててください。

上から落ちてくるものに注意してください。

地震が続いています。」

※
（※印を2～3回繰り返す）

※静かに安全行動をとらせる。

※教師は、児童が避難できるように、入り口をあける。

②校内放送 13 : 13

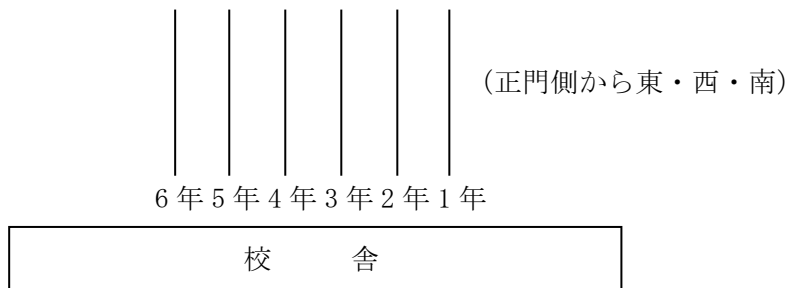
「揺れがおさまりました。担当の先生は、今すぐ避難経路の安全確認を行ってください。
児童の皆さんは、避難経路の指示があるまでそのまま待機してください。」

- ※ 低学年玄関 ・・・近藤と
- ※ ちびっこ広場 ・・・伊丹
- ※ 1階管理棟廊下、西通用口 ・・・山下
- ※ 2階丸階段 ・・・宝田
- ※ 中央階段 ・・・藤田
- ※ 中央北階段 ・・・道下
- ※ 西非常階段 ・・・長尾

③避難訓練 13 : 14～13 : 25

「児童の皆さんは先生の指示に従って、運動場の中央に避難してください。」

- 児童への指示 ・手早く身辺整理 ・いすを机の下に入れる ・窓を閉めない
 ・手などで頭を守る ・黙って2列に並ぶ ・廊下、階段は歩く
- 避難開始（教育実践ハンドブック P1 2 4 参照）
- 残留者の有無の確認（学年団で各階トイレ等の担当を決めておく）
 - ※ラーセン・・・中山
 - ※トレセン・・・岡田
- 運動場中央に集合（正門側から6東、6西・・・1南）
 - ・校舎側に向いて、各学級2列で並ぶ
 - ・担任は先頭で人数確認をして報告する 1～3年 担任→山下→校長
 4～6年 担任→合田→校長
 - ・引き渡しカードを持ち出す 近藤と→学年主任→担任



(3) 全体会

①校長先生の話（訓練講評）

②学校防災アドバイザーの指導・助言

- ※全体会終了後、教室に戻って振り返りをする。その際、上靴は持ち帰り、教室で汚れをとる。
- ※訓練を振り返るとともに、災害時に対応できるよう、再度、指導する。

(4) 実施後

訓練時の職員の分担や配置、子どもたちの様子等について気づいた点や、今後指導したり備えたりしなければならない点等についてまとめる。（後日、用紙を配付する）

2019年度 学校防災アドバイザー派遣事業報告書

学校（園）等の名称	三豊市立上高瀬小学校
派遣内容	地震避難訓練における指導・助言
日時	令和元年9月11日（水）13:15～14:00
場所	三豊市立上高瀬小学校校舎・運動場他
対象者 参加人数	児童生徒 213名 教職員 27名 クラス数 12 クラス（特別支援学級 3 クラス）
外部より当日参加した 防災関係者	参加者合計 80名 隣接する学校（園）上高瀬幼稚園 園児66名 名教職員9名 その他（公民館分館長等地域住民） 5名
内容・日程等	13:15 地震避難訓練 13:35 教職員代表への指導・助言
取組における成果	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練では、地震発生時の行動から避難場所への避難等、児童は速やかに行動することができていた。訓練後の児童への話では、頭を守ることの大切さと、そのためにも、机の下に入った時に脚をしっかりと持つことの必要性を確認していただいた。 ・訓練後の避難経路点検の結果、今後はより安全であると指導をいただいた中庭の方に避難するようにする。また、階段を降りる際、どの学級がどちら側を通る等も決めておくようにする。さらに、緊急地震速報後に地震の音を流し、その後、各担任が避難誘導を進める等、停電を想定しての訓練の方法も指導していただいた。
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・停電を想定して、メガホンやトランシーバー等を使っての避難誘導ができるようにしていく必要がある。 ・避難の際に、何を使って頭部を守るようにするのか、検討をしていかなければならない。 ・休み時間や児童がけがをした場合など、様々な状況を設定しての避難訓練も行っていきたい。



（地震発生時の避難の様子）



（防災アドバイザーからの講評）

【事業当日の参考資料】

令和元年度 地震避難訓練実施計画

- 1 目的 地震発生時における避難の基本的態度や方法を身に付けさせるとともに、安全に避難できる経路を確認する。
- 2 日時 令和元年9月11日(水) 13:15～13:35

3 訓練内容と方法

(1) 事前指導

今回の訓練について、あらかじめ担任が話しておく。(日程、行動、心がまえ等)

(2) 訓練について

- ① 13時15分～ 地震発生の想定 速報音を放送で流す。

速報音に続いて、校内放送

「訓練地震警報。訓練地震警報。ただ今大地震発生。教室にいる人は机の下に避難して下さい。ガラス窓や壁の近くにいる人はそこから離れてしゃがみなさい。外にいる人はしゃがみなさい。」

- ② 13時17分～ 児童の避難(おさない・はしらない・しずかに・もどらない)

「ゆれが治まりました。先生方は、被害状況・児童の様子を確認してください。全校児童は近くの先生の指示のもとに小運動場へ避難して下さい。」

役割分担できる学級は、予め、確認する職員と避難誘導する職員を決めておく。

職員は、廊下、階段等を目視で確認する。異常があれば、職員室に知らせる。

避難を誘導する。

【最終確認者】南館1F()、2F()、中庭()

本館3F()、2F()、1F()、体育館()

【持ち出し】緊急連絡簿:()、救急箱:()、メガホン:()

※ 避難場所 校舎

朝礼台

1	2	3	4	5	6	幼
年	年	年	年	年	年	稚
						園

- ③ 13時20分～ 人員点呼と報告

担任は学級の人数を確認

教頭に報告『〇年〇組〇〇名全員無事避難を終わりました。』→校長に報告

- ④ 13時22分～ 防災アドバイザーによる講評

- ⑤ 13時32分～ 最後に校長の話で、避難訓練終了

- (3) 13時35分～ 防災アドバイザーより指導・助言(校長室)

校長、教頭、地域の方

(1階の経路を見ていただきながら校長室へ)

※ 備考

- 雨天の場合は避難場所を体育館にする。

※ 留意点

- 静かに放送を聞かせる。

- 静かに教室から出て整列させる。あるいは、整列しながら進ませる。(上靴のまま。担任は児童の退出を確認)

- 静かに早く避難する。(運動場へ出るまで走らない。)

- 担任の誘導で避難場所へ移動する。(上靴のまま)

※ 地域の方には、校舎を出てから小運動場への避難を支援していただく。

2019年度 学校防災アドバイザー派遣事業報告書

学校（園）等の名称	香川県立飯山高等学校
派遣内容	防災LHR実施に向けての教員指導
日時	令和元年7月10日（水）10:30～11:30
場所	応接室
対象者	幼児児童生徒 約 名 教職員 約 3 名
参加人数	クラス数 クラス（特別支援学級 クラス）
外部より当日参加した防災関係者	参加者合計 4 名 隣接する学校（園） 名 保護者 名 自主防災組織 名 消防署 名 その他（ ） 名
内容・日程等	今年度初めて、全学年生徒対象に防災LHRを実施することとし、6月より検討を開始した。7月10日に防災アドバイザー（香川大学、香川県防災士会等）からご指導・ご意見を頂き、指導案やシミュレーション、自衛防災組織等を含めた資料を準備した。9月に各クラスで担任・副担任の進行のもと、防災LHR（主に場面1・2）を実施した。その後、生徒の学びを感想文として提出させた。担任からの感想や意見も集め、今後の参考資料とした。
取組における成果	<p>1 ご指導・ご助言頂いた内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有事の際に自分で正しく判断できると共に、柔軟な対応ができる能力を生徒に身に付けさせる必要がある。そのために、日頃から学校や家庭で防災について話し合う機会を持つことが大切である。 ・当初は3場面についてシミュレーション学習を行う予定にしていたが、思考を深め、お互いの意見を十分に交換することが50分間では難しいと考えられる。したがって、2場面について学習する方が良いのではないかと。 ・生徒が実際の場면을想起しやすいように、わかりやすい資料を作成する必要がある。 ・学年によって防災LHRの内容を変え、段階的に学びを深められるようにしてはどうか。 ・教員の進行力も必要なので、あらかじめ打合せ等の時間を持つ必要がある。 <p>2 指導案、参考資料等の修正後、防災LHR実施</p> <p>令和元年9月10日（火）12:10～13:00に別紙の指導案、参考資料等を用いて全校生徒を対象に防災LHRを実施した。</p> <p>※各クラスの担任・副担任には、あらかじめ留意事項、事前準備、「安全に関する資質・能力について（第2次学校安全の推進に関する計画）」について説明を行なった。</p>

	<p>3 防災 LHR 実施後の生徒の感想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な災害場面について話し合い、今までいかに自分が何も考えずに避難訓練を受けていたかに気づいた。 ・災害時は、誰もが混乱し、正しい判断ができない場合もある。他の人の意見に流されず、その状況に応じて自分自身で判断することや、その時のために普段から様々な状況を想像して自分の考えを持っておくことの大切さに気づいた。 ・負傷者がいる場合、自分一人で助けられない場合もあるので、他の人と協力して救助することや、一旦避難場所に行き、報告後に必要な人数や物品を確保してから救助に行くという方法もあることがわかった。また、カーテンを使って簡易担架を作る等、柔軟に考えてその場にあるものを有効活用したい。 ・意見交換により、自分以外の考えや新たな気づきを得ることができた。 ・何よりも大切なのは命である。しかし、複数の命を救う必要がある場面で、何を、誰を優先させるかを瞬時に判断することが求められる。正しく判断できるように、状況を観察する能力を身に付けたい。 ・自分が負傷した時は、靴底を金属にぶつけて大きな音を出す、あきらめずに大きな声を出し続ける、携帯電話等を活用する、這ってでも逃げる、取りあえず危険の少ない場所に逃げて救助を待つ、無駄な体力の消耗を防ぐ等の意見が出た。 ・自分の命だけでなく、他人の命も守れるような人になりたい。 ・授業などで学んだ救命救急法やトリアージの方法を参考に、行動したい。
<p>今 後 の 課 題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時をイメージして生徒同士で意見を交換する機会を、今後も確保する。 ・学年別、年度別で様々なシミュレーションを用いる。 ・効果的に実施できるように検討を続けていく。 ・避難訓練の際にも、防災 LHR での学びが活かされるような取組みを行う。 ・生徒が効果的に防災学習できるように、教員の防災意識の向上にも努める。

令和元年度 防災 LHR 指導案（全学年）

1. 日 時 令和元年 9 月 10 日（火）4 限目
2. 場 所 各 HR 教室
3. 主 題 「災害時にあなた自身がとる行動」
4. 主題設定の理由

毎年 2 回の防災訓練で、避難訓練、学年に分かれてのシューター、消火器、地震体験車を使用しての訓練を実施している。しかし、実際に火災が起こる原因や火元はさまざまであり、訓練で想定した避難経路が必ず使えるとは限らない。また、要救護者がいたり、自分自身が負傷してしまったりした場合の対処法となると、臨機応変な対応が出来る能力が必要となる。また、「南海トラフ大地震」はいつ起こってもおかしくないとされているが、火災と余震などが同時に起こる可能性も高い。有事の際に一緒に協力する仲間たちと共にあらゆる場面を想起し、対処法を考える機会を持つことは、防災に対処する能力を育てることに繋がる。さらに、本校には自衛防災組織があり、有事の際には活動する予定になっているため、その役割と機能を把握する機会を持つ必要がある。

5. 本時の目標
 - (1) 状況に応じた避難方法・避難場所について考えられる。
 - (2) 連携した要救護者の対応について、考えられる。
 - (3) 自衛防災組織の理解、各自の役割と機能を把握する。
6. 準備物
 - (1) 参考資料 1（ワークシート）、2（平成 31 年度自衛防災組織）
 - (2) 記録用紙（各班 1 枚）
 - (3) 感想用紙
7. 授業の展開

時間	学習内容	学習活動	指導上の留意点
導入 (5 分)	<ul style="list-style-type: none"> ・防災とは ・本時の目標 	<ul style="list-style-type: none"> ・今まで行った避難訓練等を振り返る。 ・主題設定の内容についての説明を受け、本時の活動の意義・目的を把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に、5～6 班のグループに分かれて机を合わせておくこと、司会・記録・発表者を決めておくことを説明しておく。
展開 (40 分)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 状況に応じた避難方法、避難場所について <場面 A> 避難経路に建物の倒壊や火災が発生する。 2. 要救護者の対応 <場面 B> 避難途中にケガで動けない要救護者を発見した。 3. 自分が要救護者になった場合の対応について <場面 C> 避難途中に階段から転落し、右足を骨折してしまった。 4. 自衛防災組織について 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワーク ・2 グループ発表 ・グループワーク ・2 グループ発表 ・グループワーク ・2 グループ発表 ・説明を聞き、自衛防災組織や各自の役割と機能につい 	<ul style="list-style-type: none"> ・参考資料 1 の場面 A を教員が読み、共通理解を促す。 ・正しい状況把握、判断方法（1人で判断するのか等）、安全な避難方法、避難経路の変更などについて考えるように促す。 ・参考資料 1 の場面 B を教員が読み、共通理解を促す。 ・救護する方法、人数、体格差、使いそうな物品や入手方法などについて考えるように促す。 ※場面 3 は適宜問題提起として活用してもよい。 ・参考資料 1 の場面 C を教員が読み、共通理解を促す。 ・助けを呼ぶ方法、どの方法で避難させてもらいたいのか、助けを呼んでも気づいてもらえなかった時はどうするかなどについて考えるように促す。 ・参考資料 2（自衛防災組織）を配布し、各班、任務、職員、

	※クラスの生徒の防災班は、教室に掲示されている。	て理解する。 ☆クラス掲示を確認する。 <u>☆有事の際には、必ず一旦避難場所に集合し、指示を受けてから各班の集合場所に向かうことを理解する。</u>	生徒、集合場所について説明する。 ☆有事の際には、各班の集合場所に直行せず、一旦避難するように説明する。
まとめ (5分)	・本時のまとめ ・感想文について	・感想文を書き、翌朝のSHRに提出する。	

8. 評価

- 1) 感想を書かせ、翌日までに提出させる。
- 2) 担任は、各クラスの生徒の理解度を把握・評価し、適宜補足説明を行う。
- 3) 防災係に各クラス感想文2～3枚を提出する。

<参考資料1におけるシミュレーション場面>

◎場面A：その時、あなたは3階の教室（各クラスでよく使う教室）にいました。突然地震速報が流れ、強い揺れ（震度7）に襲われました。シェイクアウトをしていると揺れがおさまり、避難指示の放送があったので、全校生徒一斉に避難し始めました。避難している最中にも震度4の余震が起こっています。避難しようとしている先の経路に建物の倒壊と火災発生がみえました。その先には指定された避難場所があるので、友人は「一気に通り抜けよう」と言いました。あなたは、どう判断し、どのような行動に出ますか？

◎場面B：あなたは避難している途中で、倒れている生徒を見つけました。どうやら右足を骨折し、自力では動けないようです。あなたは、どう判断し、どのような行動に出ますか？

◎場面C：あなたは、3階から階段を降りて避難していました。慌ていたので階段から転落し、右足を骨折してしまいました。痛くて身動きがとれません。遠くに避難している生徒が数人見えます。あなたは、どう判断し、どのような行動に出ますか？



各グループでの意見交換



代表生徒の発表

2019年度 学校防災アドバイザー派遣事業報告書

学校（園）等の名称	香川県立小豆島中央高等学校
派遣内容	危機管理マニュアル、避難経路等の見直しへの助言
日時	2019年7月22日（月） 10:00 ～ 11:30
場所	香川県立小豆島中央高等学校 小会議室、校舎全体
対象者数 参加人数	教職員 3名（保健・安全管理部） 香川大学危機管理先端教育センター教授 1名 香川県防災士会 防災士 3名
外部より当日参加した 防災関係者	参加者合計 2名（保護者）
内容・日程等	10:00-11:00 打ち合わせ、校舎見学 11:00-11:30 協議会
取組における成果	<ul style="list-style-type: none"> ・一緒に校内を見ながら、気づけてない部分や危険箇所、改善点など具体的に助言をいただけた。 ・PTAの方も参加してくださり、熱心に質問等をしていただいた。一緒に助言を聞くことで今後の課題について連携して考える機会になった。 ・避難訓練について防火扉を閉めた状態で実施したり、あえて訓練時に障害物を置いたり、雨天時の避難場所を変えたりするという方法は私たちでは思いつかず、とても参考になった。 ・避難訓練では発達段階に応じて実施できるようにという助言をいただいた。特に小豆島は若者が少ないので、いざという時に本校生が支援者になれるように支援側に回る訓練が必要ということを教えていただいた。 ・新しい学校なので、専門の方と一緒に見させてもらうことで、教職員も保護者の方も色々なことに気づくことができ、多くの課題を見つけることができた。また、その際にすべてを解決しようとするのではなく1つ1つでできることからというアドバイスをいただき、防災担当も励みになった。
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい学校で教職員も知らない校内設備が多いので、緊急時にきちんと使えるように把握する。（防火扉、防火シャッターなど） ・廊下の掃除用具庫やロッカー等は防災対策が必要。 ・保護者だけでなく、地域との連携をしていく。

2019年度 学校防災アドバイザー派遣事業報告書

学校（園）等の名称	香川県立小豆島中央高等学校
派遣内容	避難防災訓練についての助言
日時	2019年12月24日（火） 9:00 ～ 10:30
場所	香川県立小豆島中央高等学校 校長室、小会議室、校内
対象者数	全日制教職員 53名 全日制生徒 476名 香川大学危機管理先端教育センター教授 1名 香川県防災士会 防災士 1名
外部より当日参加した防災関係者	参加者 なし
内容・日程等	9:00-9:20 打合せ、助言（校長室） 9:20-9:40 避難防災訓練 9:40-10:00 講師より講評（グラウンド） 10:00-10:30 助言（保健・安全管理部4名）
取組における成果	<ul style="list-style-type: none"> ・7月22日（第1回）の助言を生かし、今回の避難防災訓練では校舎内のシャッターや防火扉を閉めるなど、より実践に近い計画を立案した。しかし、訓練時に防火扉が閉まらなかった。あらためて今回の訓練で閉まらないことや、動かし方が分からなかったということに気づいたのでよかった。 ・生徒は速やかに避難できていた。また、講師の講評もきちんと聞くことができた。 ・靴の着脱や荷物の持参、避難経路など私たちが気づけなかった細かい点まで具体的にアドバイスや解決策を教えていただき、参考になった。 ・講師の方に事前に本校生徒にとったアンケート結果（文化祭前に実施）を渡した。アンケートに生徒が本音を書いていたので褒めていただき、また生徒の実情に合わせたアドバイスもいただいた。 ・他の高校のこの事業での様子や訓練の話をしていただき、保健・安全管理部員が刺激を受け、次回の訓練に向けてより意識が高まった。 ・災害時や防災対策へのスマートフォンの活用については高校生にも取り入れやすく、とても勉強になった。教職員にもぜひ周知したい。
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・校舎の階段で人が詰まっていたので、避難経路の見直しや、誘導職員の配置場所などに改善が必要である。 ・火災表示盤の場所表記をいつも教職員や生徒が読んでいる名称に変えた方が分かりやすいと助言をいただいた。 ・防火扉や非常放送などの設備の確認を行い、全職員がいざという時誰でも対応できるように周知、共通理解を図る。 ・アンケート結果や今回ご指導いただいた内容をまとめ、2月の学校保健委員会で発表するなど、全校生や保護者にも報告できるようにする。

【事業当日の訓練の様子】



火災場所確認時



誘導教員の様子



生徒避難の様子



避難、集合時の様子



講師より講評の様子

2019年度 学校防災アドバイザー派遣事業報告書

学校（園）等の名称	香川県立善通寺第一高等学校
派遣内容	避難訓練の指導・助言及び、教職員への講義
日時	令和元年12月6日（金） 14:00～ 16:45
場所	校舎・グラウンド・視聴覚教室
対象者 参加人数	幼児児童生徒 約 名 教職員 約 50名 クラス数 クラス（特別支援学級 クラス）
内容・日程等	14:00～ 事前打合せ 14:45～15:15 「避難訓練」・危険回避行動・避難・点呼 ・アドバイザーによる講話 15:45～16:45 「教職員対象：アドバイザーによる講義」
取組における成果	○危険回避行動 ・具体的な地震想定を行うことで、教職員および生徒にイメージしやすくさせた。 ・全教職員が生徒の安全を確保するため、被災状況の情報収集や避難経路を確保・確認する行動をとることにより、防災及び発災後の意識の向上となった。 ○避難 ・生徒は通常の避難経路が通れないことで、防災意識の向上となった。 ○アドバイザーによる生徒への講話 ・善通寺市ハザードマップを例に、災害時のイメージを持つことが、危険回避へとつながることを生徒は理解した。 ○教職員対象の講義 ・「他人ごとでなく、私ごと」でイメージをすることの重要性と、指定避難所でも地域住民は学校に避難するなどの具体的な話をいただき、全教職員で地域との連携の重要性を共有することができた。
今後の課題	○いつ起きてもおかしくないと言われる南海トラフ地震をはじめ大規模災害に対する意識の向上を図るために、さまざまなイメージができる、防災学習や防災訓練を実施する必要がある。 ○職員研修の内容を、座学プラス実践に結び付く体験型研修、参加型研修など多岐に渡って研修できるようにして、PDCAをしっかりと実践する必要がある。 ○マニュアルについてもPDCAを行い、毎年、より実効性の高いものにする必要がある。



（ 危険回避行動の様子 ）



（ アドバイザーによる講義の様子 ）

【事業当日の参考資料】

令和元年度 第2回避難訓練 職員共通理解 12月6日(金)

(※改定マニュアルを想定して実施します。なお、未定の行動・業務等については★で示します。)

本部：★職員室

今回の地震(想定)

「南海沖地震：震度6弱、3から5分程度」・・・1分で実施

○14:45 (6限目終了時刻)

「避難訓練放送開始める(シェイクアウトの時に使用したもの)」

1分程度危険回避行動

授業担当者：生徒にシェイクアウトの時と同様、危険回避行動をとらせる。

(机の脚を対角で持つように指示・机がない場合は、頭を守る行動)

他の教職員：シェイクアウトの時と同様、危険回避行動をとる。

「地震がおさまりました。生徒は待機しなさい。」

授業担当者：生徒と共に教室で待機

他の教職員：★本部へ携帯電話を持って集合、集合時、被災の状況について情報収集

本部：地震情報収集 ★テレビ・ラジオ・インターネット・スマホ

★本部にて、業務の指示が出る。(各階段等での避難誘導)

「今から北グラウンドへ避難します。」

「先生方で北グラウンドまでの避難経路を確認したのち、生徒は先生の指示に従って避難するように。」

※教員間でコミュニケーションをとって、避難がスムーズになるようにしてください。

例)「1組から先に出ますね。」

「下の階で渋滞しているみたいなので、3階は少し教室で待機しましょう」

生徒確認名簿持ち出し：★吉田

生徒家庭連絡用名簿持出(生徒指導票)：★川平

避難(集合指揮・吉田)北グラウンド、デザイン棟に向いて1列で整列

点呼(学級代表)→学年主任(1年白川,2年村主,3年北窪)→岡本教頭に報告

○目標整列完了時刻 15:00

○その後、防災アドバイザーからの講話

○15:15 終了予定

・生徒は担任の先生からの指示に従い、清掃(15:30まで)⇒解散

2019年度 学校防災アドバイザー派遣事業報告書

学校（園）等の名称	香川県立高瀬高等学校
派遣内容	安全行動や避難行動、運営所
日時	令和元年12月23日（月） 12:00 ～ 13:00
場所	香川県立高瀬高等学校 第1体育館
対象者 参加人数	幼児児童生徒 約 430 名 教職員 約 40 名 クラス数 12 クラス（特別支援学級 クラス）
外部より当日参加した 防災関係者	参加者合計 33 名 隣接する学校（園） 名 保護者 名 自主防災組織 10 名 消防署 名 その他（地域住民） 23 名
内容・日程等	<ul style="list-style-type: none"> ・昼休み中に地震が起きた際の安全行動や避難行動 ・避難所開設の初動の動き ・模擬避難者の受付
取組における成果	<ul style="list-style-type: none"> ・休み時間に地震が発生した際の安全行動について学べた。 ・避難所運営について生徒が深く学べた。 <p>今年度はタブレットを使用し、避難所全体のルールや避難者カード、備蓄物資の一覧などをスライドで示した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プリント「避難所にもっていくもの」を配布し、生徒たちが避難所に何を持っていくか、話し合いをすることができた。また、地域の方とも話し合いができ、交流をすることができた。
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・避難者カードの記入例を用意する。書き方がわからず、受付に時間がかかった。高齢者の方には、文字が小さいというご意見もあった。老眼鏡などを用意することも検討する。 ・「自分の身を守る行動をとる」がわからない生徒・職員がいた。具体例を示す必要があった。 ・防災アドバイザーから、体育館の窓ガラスの破片が落ちてくる危険性をご指摘いただいたので、受付の場所を検討する必要がある。



（避難者受付の様子）

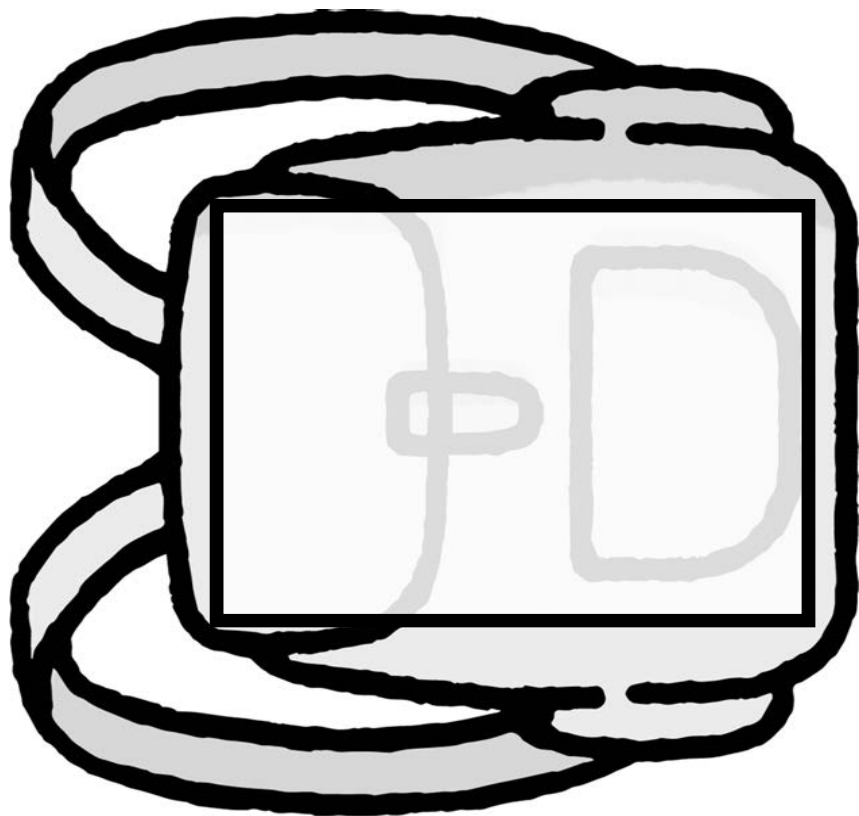
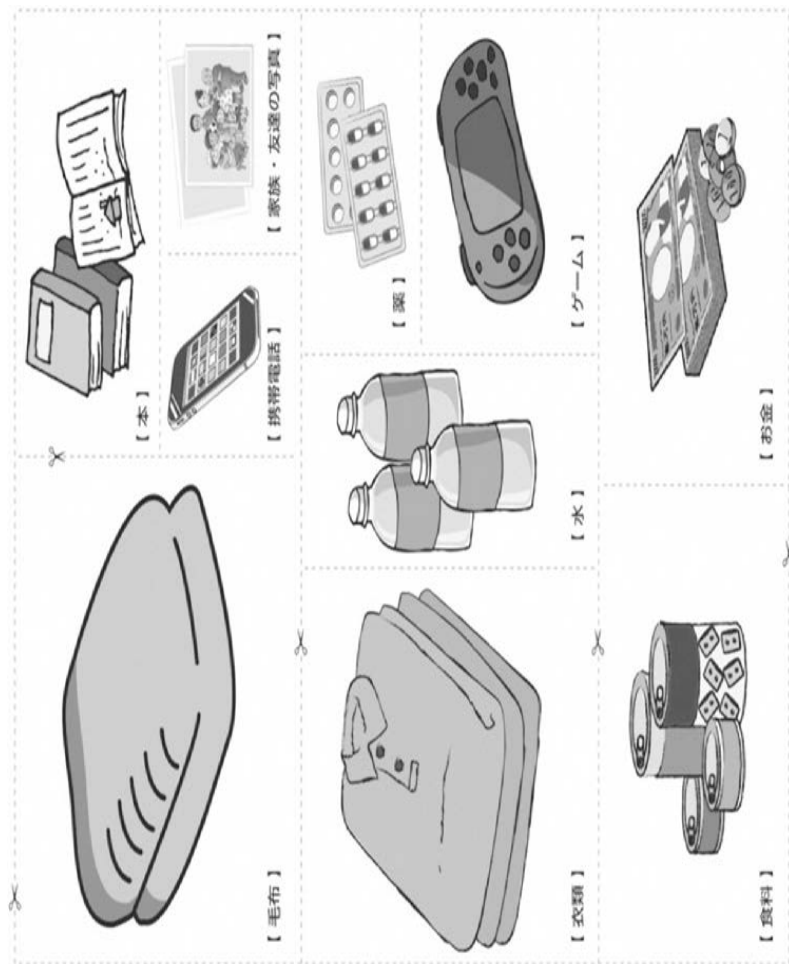


（地域住民との話し合う様子）

Q.次のリストから非常時に持ち出すリュックサックに入れるモノを選んでください。

(条件)

・所持品はリュックサックの枠内に収まるものしか持つてはいけません



2019年度 学校防災アドバイザー派遣事業報告書

学校（園）等の名称	香川県立善通寺養護学校
派遣内容	教職員を対象に、地震を想定した避難訓練と引き渡しについての助言
日時	令和元年8月27日（火） 11:00 ～ 15:00
場所	香川県立善通寺養護学校
対象者 参加人数	教職員 約80名 アドバイザー：香川大学 1名、防災士会 2名
内容・日程等	(11:00～11:45 停電対応研修見学) (11:45～12:30 校内施設見学) 13:30～14:00 地震を想定した避難訓練および助言 14:00～15:00 引き渡しについてグループ討議及び助言
取組における成果	<ul style="list-style-type: none"> ・四国電気保安協会の方の立ち会いで行った停電対応研修も見学していただくことになり、被災時に想定される問題（自家発電での持久時間、燃料の確保など）について、教えていただいた。 ・校内施設見学では、防災担当者2名と共に校舎内の危険箇所を丁寧にチェックしていただき、教室内のロッカーや廊下の車いす等の固定方法など、具体的な防災、減災についてのアドバイスをいただいた。 ・地震を想定した避難訓練では、教職員を学校全体に配置し、緊急地震速報を受信した後、想定される災害について考えながら避難場所へ移動するようにした。それらの意見を本部で掌握し、防災の視点から助言をいただくことで、本校の課題に気付くことができた。 ・引き渡しに関するマニュアル作りに向けて、小中高の各グループや保健、本部等のグループに分かれ、被災から引き取りまでに想定されることを話し合い、必要な対策について話し合うなかで、助言をいただいた。
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい校舎のため、建物自体の災害は少ないと考えられるが、教室内のロッカーや廊下の車いす等の固定が不十分である。置き場所や固定の状況を確認して転倒防止等に努める。



(研修の様子)

2019年度 学校防災アドバイザー派遣事業報告書

学校（園）等の名称	香川県立善通寺養護学校
派遣内容	保護者を対象とした防災に関する講話
日時	令和元年9月22日（日） 11:20～12:10
場所	香川県立善通寺養護学校 多目的室
対象者数 参加人数	保護者 44名 教職員 4名 アドバイザー：香川大学 1名、防災士会 2名 県教委保健体育課 1名
内容・日程等	11:20～12:00 防災アドバイザーの講話 12:00～12:10 質疑応答 12:10～ 突っ張り棒や皿を使った実験
取組における成果	<p>事前に保護者から知りたいことのアンケートをとり、その内容について講話をしていただいた。子どもを守るためには、保護者がけがをしないことを第一に優先すること、緊急地震速報が鳴ったらすぐに何をすべきか判断し行動すること、備蓄品としてどのようなものをどのくらい準備しておくかなど、具体的に話していただき、保護者はとても熱心に聴講していた。講話の後、地震に耐えるための突っ張り棒の位置や皿の重ね方などの実演もしていただき、具体的なイメージをもつことができた。</p> <p>講話後のアンケートでは、「大きな災害へ備えることの大切さを学んだ。」「子どもの命を守るためには、まずは自分自身の安全を確保することが大事だと分かった。」「他人ごととしてとらえるのではなく、自分自身のこととして具体的に想像して準備することが何より大切であると感じた。」などの感想が多く、保護者の防災意識を高める良い機会となった。</p>
今後の課題	<p>防災講座や防災コーナーの設置などにより、保護者の防災意識が少しずつ高まってきている。今年度は保護者の協力のもと、児童生徒一人一人に防災リュックを準備することができた。今後も、防災週間には校内に防災コーナーを設置したり、PTA新聞などで防災避難訓練の様子を伝えたりして、親子で防災について考えられるような機会を増やしていきたい。</p>



(防災アドバイザーの講話)



(地震に耐える皿の重ね方の実演)

2019年度 学校防災アドバイザー派遣事業報告書

学校（園）等の名称	香川県立香川東部養護学校
派遣内容	第2回目防災避難訓練時の指導と総評、学校施設のチェック
日時	令和元年9月12日（木） 9：30～11：30
場所	香川東部養護学校運動場、校長室、校内
対象者 参加人数	幼児児童生徒 約 135名 教職員 約 96名 クラス数 27クラス
外部より当日参加した 防災関係者	【参加者合計 9名】 アドバイザー：日本技術士会1名、香川防災士会1名（オブザーバー1名） 消防署 6名
内容・日程等	9：30～10：30 防災避難訓練 10：30～11：30 総評、学校施設見学
取組における成果	<p>当日、ご指摘いただいたことで改めて見直すことができ、確認することができた。</p> <p>【防災避難訓練の設定について】</p> <ul style="list-style-type: none"> 大地震があった時には火災も併発しているため、火災が同時発生していることを想定した訓練も必要である。その際、発火場所付近の職員が声を出して、発火場所を周囲に伝えていくことが重要である。 <p>【避難経路と状況について】</p> <ul style="list-style-type: none"> 避難経路の状況を伝えるなどして、周囲の安全も確認する。職員から児童生徒に対しては指示だけではなく、安心できるような声掛けがあっても良い。 2階から重い車椅子を下ろすことだけがベストではなく、逆に、2階で安全な状態を確保すれば、そちらの方が安全な場合がある。2階でもどこなら安全な場所かということ把握しておけば、全員が必ず1階へ避難しなければならないということはない。 <p>【非常用の備蓄品について】</p> <ul style="list-style-type: none"> 職員はマイフードを机の引き出しなどに用意しておく。児童生徒については、本人の嗜好に合わせた好きな食べ物やおもちゃなどを保護者と相談して置いておくことで、一定時間落ち着いて過ごすこともでき、心のケアにもつながる。
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> 車椅子を利用しているなど、様々な障害をもつ児童生徒が在籍するので、全員が安全に避難できる体制（対応マニュアル）や環境を整える。 児童生徒や職員が安全を確認して、それぞれがその場の状況に応じて、避難場所までの確に行動することができるように理解を深めていく。



【階段から車椅子の避難】



【起震車体験】



【避難訓練後の関係機関の講評】

令和元年度 第2回防災避難訓練実施計画

香川県立香川東部養護学校

- 1 目的 (1) 地震発生時に、指導者の指示のもと、友達と一緒に迅速かつ安全に避難する態度・能力を養う。
(2) 緊急地震速報が発令されたときの対応について、訓練を通して適切な避難の仕方を学習する。
(3) 起震車体験を取り入れることで、震災時の姿勢等を実際に体験し、震災時に気を付けることなどを確認し、落ち着いて行動ができるようにする。
- 2 日時 令和元年 9月12日 (木) 9:50~10:30
- 3 想定地震 高知県南部を震源とする最大震度7の大地震が発生
- 4 想定震度 さぬき市で震度6弱を観測
- 5 被害想定 (1) 人的被害 ・負傷者2名 (小、中) *避難途中に割れたガラス片で左足負傷、歩いて救助所に行って手当を受ける。
・心肺停止者1名 (高) *落下物で頭を強打、心肺停止状態になる。安全な場所に担架で搬送後、AEDで除細動を試みる。
※搬送には、生徒の代替として、消防署からお借りした人形を使用する。
- (2) 施設被害等 ・建物の壁、梁、柱などの部材にひび割れや亀裂、窓ガラス破損のおそれあり。
・自動ドアやエレベーターは停電のために不動状態、自動ドアは手動で開放可能。(※近くの職員で、前もって電源を切っておく。)
- 6 避難場所 一次避難場所：運動場中央付近 (※雨天時：体育館→救助所やその他も移動。)
- 7 訓練内容 (1) 緊急地震速報を利用した避難訓練・搬送訓練 (負傷者)・通報訓練 (119番通報)

時間	防 災 本 部	教職員・児童生徒の動きと留意事項	救護係・警備係・消火係等
1 分間	<p>西岡教頭</p> <p>緊急地震速報 (試験放送) ... [1分ぐらい]</p> <p>警報音① 「緊急地震速報の放送テストです。地震発生、震度4、30秒後。落ち着いて身を守ってください。」</p> <p>警報音② 「地震発生、震度4、20秒後。落ち着いて身を守ってください。」</p> <p>警報音③ 「地震発生、10、9、8... (カウントダウン) 落ち着いて身を守ってください。」</p> <p>警報音④ 「落ち着いて身を守ってください。」 数回</p> <p>★効果音を流す。</p>	<p>教職員 ★ 警報音①の時に 的確な指示・行動を!</p> <p>⇒安全確保 (3つの「ない」を確認すること!)</p> <p>⇒物が「落ちてこない・倒れてこない・移動してこない」空間に!</p> <p>一窓や壁際、ロッカーなどから離れるように指示</p> <p>⇒「机の下にもぐり・脚を持ち・頭部保護」</p> <p>○火気消火 (使っている火はすばやく消す)</p> <p>⇒「けっして無理はしないこと。火傷の恐れあり。」</p> <p>○揺れが収まったら...</p> <p>⇒児童生徒の状況把握ー必要に応じて、廊下やトイレも確認</p> <p>「ヘルメットをかぶる」</p> <p>○<u>出口確保</u></p> <p>⇒「窓やドアを開け、<u>出口確保</u>」+消灯、コンセントを抜く。 ←二次被害を起さないため</p>	

地震発生 (効果音あり)

安 全 確 保

〔防災本部設置／事務室〕

武田校長

- ・災害対策本部を設置する。
- ・本震が落ち着いた時点で、教頭に避難指示を出すように伝える。

菊田教頭<救護>

- ・保健室に直行し、安静にしている児童生徒がいなくなか確認した後、救護所設置を養護教諭と行う。

〔緊急校内放送／西岡教頭〕

西岡教頭

「揺れがおさまりました。

落下物や足元に十分注意して、
運動場に避難してください。
エレベーターは使用できません。
繰り返します・・・」

庶務係：山田ケ・連絡係：秦、谷口

- ・情報掲示板と拡声器を準備する。

西岡教頭<安否確認>

- ・特に、各部の児童生徒、職員の避難状況を把握し、部主事と連携して、今後の対応を判断する。

菊田教頭<救護>

- ・特に、負傷者等の状況を把握し、救護係（三浦）と連携して今後の対応を判断する。

児童生徒

【教室】

- ・机の下にもぐり、机の足の上の上部を持ち、頭を守る。
- （さるのポーズ）※4本足の机では、斜めに握るとよい。
- ・近くにあるヘルメットをかぶる。（職員も一緒にかぶる。）
- ・あわてて外へ飛び出さない。窓や壁際から離れる。

【廊下・階段】

- ・できるだけ中央で伏せ、蛍光灯やガラス等の落下物から身を守る。

（だんごむしのポーズ）

【体育館】

- ・中央部に集まり、頭部を保護し、姿勢を低くする。

（だんごむしのポーズ）

【運動場】

- ・落下物や倒壊の危険性のある物から離れ、運動場中央に避難する。
- （だんごむしのポーズ）

教職員 ★ 的確な指示を！

○避難行動

- 「押さない、走らない、しゃべらない、戻らない」（おはしも）
- ・児童生徒等の状況を速やかに掌握する。
- ・トイレ等普通教室以外の場所にいる児童生徒の所在の有無を確認する。
- ・ヘルメットをかぶり、上靴のまま、足元や周囲の状況を見ながら、低い姿勢で、落ち着いて避難するよう指示する。
- ・校舎の2階に車椅子を利用している児童生徒がいる場合は、協力して、そちらにも駆けつけ、1階に降ろすようにする。
- ・避難経路の安全を確認してから避難誘導を開始する。
- ・避難と同時に、教職員間で被災状況の情報交換を行う。
- ・落下物に注意して、頭を保護するよう指示する。
- ・児童生徒の不安緩和の対応をする。
- ・援助を要する児童生徒等への対応には、学級、部の枠を越えて十分配慮する。避難途中で負傷者を発見した場合は、避難しているグループが可能な限り、合流して協力する。

搬出係

《利國―教務主任》

- ・職員室の分掌、委員会ロッカー内にある引き渡し確認カード（学校保管用）のフアイルを持ち出す。

救護係

《三浦》

- ・救護所の設置

高等部1―1職員

- ・AEDを救護所に運ぶ。

警備係・応援職員

《中谷、横山、橋塚、原田》

- 1 児童生徒の避難誘導、安全確保終了後、避難場所前方に集合する。
- 2 西岡教頭の指示のもと、高等部の負傷者（人形）の場所へ行き、担架等を利用して救助活動の応援を行う。
- 3 救助活動終了後、西岡教頭に報告する。

避 難 誘 導

安 否 確 認 ・ 報 告

避 難 完 了

児童生徒

- ・ヘルメットをかぶるなど頭部を保護して、荷物を持たずに上履きのまま行動する。
- ・避難の途中で教室に戻ったり、集団・隊列から離れたりしない。
- ・教職員の指示をよく聞き、落ち着いて勝手な行動をとらない。

教職員 ☆ 明確な報告を！

- ・トイレや普通教室以外の児童生徒の有無についても報告する。
- ・壁など、破損部分に気が付いた場合は、合わせて報告する。
- ・運動場中央付近に、できるだけ固まり、静かに座って待つ。

■ 安否確認の報告順序

学級担任、授業担当者 → 部主事 → 教頭・校長

- ・教頭は、部主事より、各部の児童生徒、職員の安否情報の報告を受けながら、名簿や情報掲示板に記入する。

※学級担任あるいは授業担当者は、児童生徒、職員の安否情報を部主事に報告する。

< 異状がない場合 >

「〇年〇組、出席者〇名、全員異状なし。」

< 負傷者がいて、救助が必要な場合 >

「〇年〇組、出席者〇名、だれが、どこで、だれと救助を待っています。救助をお願いします。」

* 担架、AED等が必要かどうか伝える。

< 負傷者が救護所に搬送された場合 >

「〇年〇組、〇〇が負傷、救護所に搬送されました。」

< 訪問学級の生徒への連絡 >

担当者が校内にいる場合は、担当者より家庭に安否確認をする。
 (訪問中の場合は、担当者から部主事に訪問先の状況を連絡する。)
 ※運動場に避難後、運動場や校舎の状態によっては、安全に気を付けながら、二次避難所(本州段ボール工場跡地)に避難誘導する。

救護係

《三浦・菊田教頭》

- ・三浦：負傷者の状態を確認し、必要に応じて応急処置と指示を行う。
- ・菊田教頭：負傷者の状態記録、119番通報が必要な場合は、携帯電話で連絡する。

「訓練です」という文言を必ず最初に言う。

○火災・救急：

「訓練救急です。」

○住所：

「さぬき市長尾西475番地です。」

○学校名：

「香川東部養護学校です。」

○負傷者等：

「3名の内、1名が心肺停止状態です。」

《北岡、銭谷、高嶋、田中み》

- ・児童生徒の避難誘導、安全確保終了後、一次救護係に合流する。救護所にいる児童生徒の応急処置に当たる。
- ・消防署から持ってきていただいたAEDと人形を使用し、心肺蘇生法練習を行う。

【消火係】⇒警備係に合流

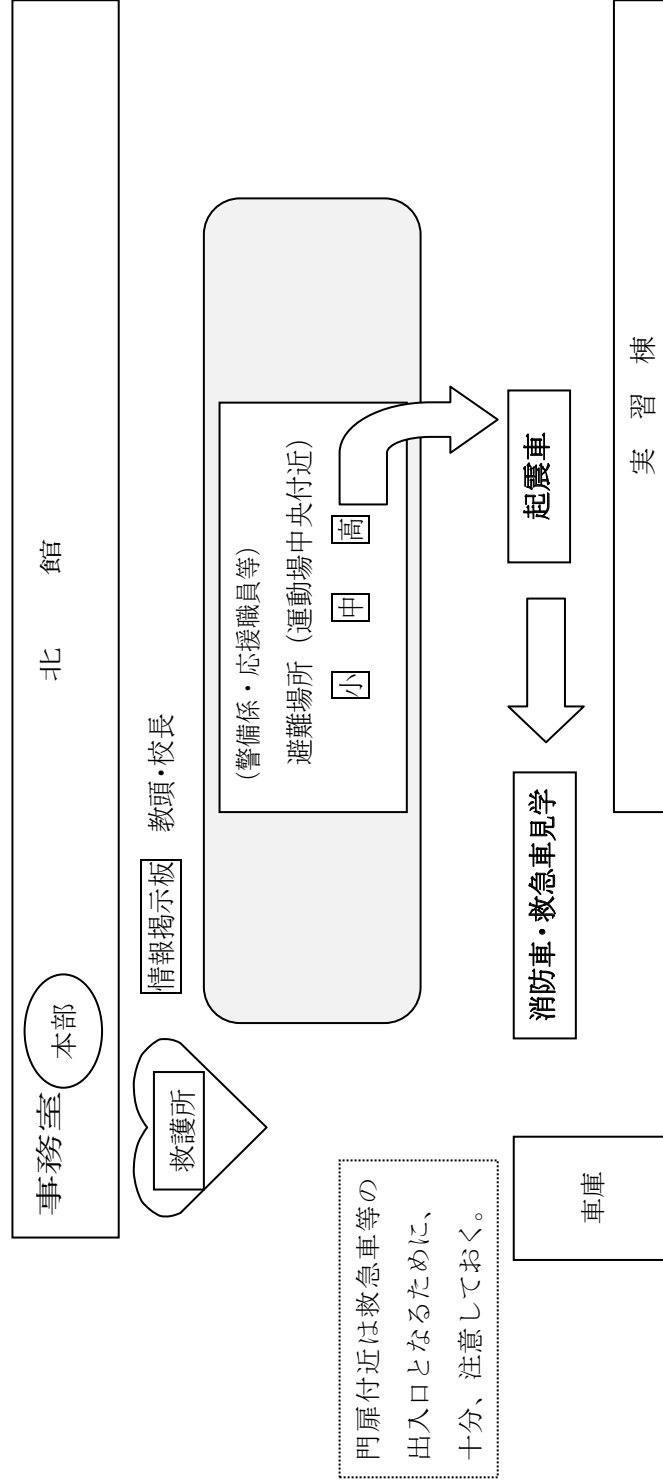
《三好ト、沼田、今井、中川》

- ・児童生徒の避難誘導、安全確保終了後、避難場所前方に集合。消火活動は行わない。

- (2) 校長による訓練の講評（進行／今井）
- (3) 寒川分署の方の紹介後、指導・講話
- (4) 児童生徒代表お礼の言葉（中学部生徒会長 岡本 環）
- (5) 起震車の体験

※起震車の体験の時間を確保するため、校長講評や寒川分署の方の指導・講話の中で地震時に気を付けること（お、は、し、も等）も触れていただくようにして、係による説明は極力簡単にする。（起震車体験の注意点等の説明は、起震車前に移動後、体験の直前に消防署の署員の方にお願います。）

- 8 準備物 情報掲示板（児童生徒名簿・職員名簿）、地震効果音、AED、拡声器、負傷等を示すゼッケン（カードを貼ったもの）、担架、AED用人形、搬送用人形
- 9 避難集合隊形等



10 その他

- (1) 学級担任は、事前にヘルメットの場所や周辺の状況を確認する（ヘルメットがかぶれるかどうかの確認や教室整備も含めて）とともに、避難経路や共助体制について、部会・学級内等で話し合っておく。訓練後には、避難時の児童生徒の様子等について話し合い、今後の防災教育について共通理解を図る。
- (2) 各係の職員は、事前に担当する業務内容について確認し合い、訓練後には、今後の課題等について検討する。
- (3) 起震車体験と並行して消防車、救急車見学も実施する。（①起震車体験→②消防車、救急車見学）—各部の状況や学級の実態によって、担任の方で判断してください。
- (4) 今年度、学校防災アドバイザー派遣事業に登録し、当日、学校防災アドバイザーの方が来校され、児童生徒の様子を把握していただくとともに、指導していただく。

2019年度 学校防災アドバイザー派遣事業報告書

学校（園）等の名称	香川県立香川東部養護学校
派遣内容	親子防災教室の指導と総評
日時	令和元年12月15日（日） 10:00～12:00
場所	香川東部養護学校体育館
対象者 参加人数	幼児児童生徒 約 135名 教職員 約90名 保護者 約80名 クラス数 27クラス
外部より当日参加した 防災関係者	【参加者合計 2名】 アドバイザー：日本技術士会1名、香川防災士会1名（当日、1名の方が欠席。）
内容・日程等	10:40～11:30 親子防災教室 11:40～12:00 防火防災担当職員（1名）と総評
取組における成果	<p>【当日のプログラム】</p> <p>①「地震その時10のポイント」（東京消防庁作成）のビデオを見る。</p> <p>②非常持ち出し袋（さぬき市の危機管理課より借用）の中に何が入っているかを確認。実際に数人の児童生徒、保護者に持ってもらって重さを体験。</p> <p>③間仕切りテント（さぬき市危機管理課より借用）、簡易トイレ、カプセルテント（ともに本校管理）の利用体験。</p> <p>④学校防災アドバイザーからの講話。</p> <p>【様子など】</p> <p>①4分余りのビデオだったが、大変真剣に視聴でき、ポイントの確認もできた。</p> <p>②実物やスクリーンに映るイラストを見て、一般的に非常持ち出し袋に入っている物を確認した。備蓄品が入ったリュックを実際に持って重さを確認したり、家庭によって、必要な物だけを小分けにしたりすることを学んだ。</p> <p>③避難所等で使われる間仕切りテントや簡易トイレに入った。間仕切りテントに入る体験では、一度に20人ほどの人が入ってしまうなど、意欲的に活動をすることができた。実際にテントなどを見て、良かったという声があった。</p> <p>④避難所に避難するなど、災害が起きた時には早めの避難の必要性のお話があった。一方で、「避難所に行ったとしても、すべての人が快適に過ごせるとは限らないので、家で安全に過ごせるような工夫をしておくことが大切である。」というお話に、考えさせられたという保護者からの意見も多数あった。</p>
今後の課題	・全校単位で実施したので、次回、こうした機会をもつ時には、時間配分のことも考えて、部ごとなど小さな単位で一人一人がより体験できるようにする。



非常持ち出し袋の中身の確認。



間仕切りテントを体験しました。



アドバイザーからお話を聞きました。

【事業当日の参考資料】

《保護者への配布資料》

- ・命を守るために家庭でできる防災訓練（香川県危機管理課発行資料）
- ・みんなで進める「減災」～備蓄を行い、災害に負けないようにしよう！～
(香川県危機管理課発行資料)
- ・「地震その時10のポイント」プリント（東京消防庁作成—配布に関しては、了承済み）
- ・防災に関するアンケート集計結果（全児童生徒分）
- ・実施後アンケート

《防災に関するコーナー展示》

- ・本校の校区（高松市、三木町、さぬき市、東かがわ市）のハザードマップ
- ・その他、それぞれの自治体の危機管理課等で収集してきた関連資料等
- ・子供用の防災服（高松市消防局予防課で借用）

2019年度 学校防災アドバイザー派遣事業報告書

学校（園）等の名称	香川県立香川丸亀養護学校
派遣内容	避難訓練の講評及び教職員が手薄な状況での対応等の助言
日時	令和元年9月30日（月）12：45 ～ 14：45
場所	本校校舎内及びその周辺
対象者 参加人数	幼児児童生徒 約 240名 教職員 約 131名 クラス数 41クラス（特別支援学級 1クラス）
外部より当日参加した 防災関係者	日程が天候に左右されることもあり、参加者は募らない。
内容・日程等	12：58～13：13 地震後に火災発生を想定した訓練 13：15～13：17 防災アドバイザーによる講評 13：25～14：45 防災アドバイザーと管理職との懇談
取組における成果	<ul style="list-style-type: none"> ・今回初めて、昼食後の児童生徒が授業準備等のために様々な状態にあるなかで、地震発生、続いて火災が発生し、防火扉が作動したという想定で避難訓練を実施した。児童生徒は、それぞれの場所で身を守る行動（両膝を着いてダンゴ虫のポーズ）をとり、すぐさまヘルメットの着用、緊急放送の指示で教職員が児童生徒を前後で挟み、廊下の真ん中を通り、「押さない、走らない、しゃべらない、もどらない」の四つの決まりを守って落ち着いて避難場所に指定した運動場へ避難できた。 ・地震及び火災発生後の担当者による情報収集が重要であり、それが本部の出す様々な指示の根拠となる。また、教職員自身も身を守る行動をとり怪我をしないことが児童生徒を安全に避難させることにつながると指導・助言をいただいた。 ・本事業を通じて、普段からの報告ラインを活用して情報収集していくことの再確認やホワイトボードを利用して経過記録を残していくこと、年1回、備蓄品を確認し不足品の購入すること、登下校時の災害に備えて、自主通学生に対する災害伝言ダイヤル講習を行うこと等の取組へとつながっている。
今後の課題	・地震が発生し、周辺道路が寸断、孤立した際の校内備蓄品の準備や地域住民の方々の方々の力をお借りできるように連携していく。



<身を守る行動>



<点呼・報告>



<事後指導>

令和元年度 第2回校内避難訓練実施計画

1 目的

- 〔児童生徒〕 (1) 放送や教職員の指示に従って落ち着いて、身を守る行動をとる。
(2) 特に単独行動している生徒は近くの教職員の指示に従って、身を守る行動をとる。
- 〔教職員〕 (1) マニュアルに基づいて、児童生徒の安全を守りながら避難させる。
(2) 自衛防災隊における各係の教職員の役割を確認して行動する。
(3) 自衛防災隊の係間の連携を図り、行方不明者(負傷者)に対して迅速に対処する。
また、状況に応じ全教職員が協力できる体制を整える。

2 日時 令和元年9月30日(月)～10月4日(金)のいつか (12:58～13:30)

3 想定 地震(震度5)後、火災発生(焼成室)

4 避難場所 運動場

5 実施要領 (当日の日程)

12:58～ 緊急地震速報・地震の効果音放送

13:00～ 緊急校内放送

「揺れは一旦おさまりました。児童生徒の皆さんは先生の指示に従って、余震に備え、ヘルメットを着用してください。」

13:02～ 火災報知器ベル・防火扉作動

13:04～ 緊急校内放送

「火事です、作業棟の東の端の焼成室から出火。先生の指示に従って運動場へ避難してください。」

13:05～ 避難場所での人員点呼、報告

消火係による初期消火及び誘導係による消防車等の誘導

保健係による避難者の体調不良等の対応

現在の様子が分かるようにホワイトボードへの記入及び周知(記入は今回なし)

- ◇注意事項
- ① 放送を最後までよく聞き、児童生徒は必ず指導者とともに行動するようにする。
 - ② 教室から離れた場所にいた教職員も、近くの児童生徒の誘導に協力する。
 - ③ 教室、廊下の窓と戸を開けておく(地震発生対応)。火災発生時に避難するときは閉める。
 - ④ 防災頭巾及び防災用ヘルメットをかぶり、ガスや煙に備えて、ハンカチやタオルで口や鼻を覆う。また、落下物に注意しながら、落ち着いて避難する。
 - ⑤ 防火扉の取り扱いに注意し、児童生徒が挟まれないように付近から遠ざける。
 - ⑥ 上履きのまま避難し、“押さない”“走らない”“しゃべらない”“もどらない”を徹底する。
 - ⑦ 単独行動していた児童生徒が避難できていない場合には、その旨を報告し、教頭の指示に従う。(決して単独で捜索に行かない。)

13:15～ 防災アドバイザーによる講評

13:17 避難訓練終了

6 事前・事後指導

- (1) 指導の時間 各部ごとに学年または学級で時間をとる。
- (2) 内容 防災用ヘルメットのかぶり方
地震発生時の身を守るための行動
避難経路について確認(複数コースを考える)
指導者が近くに居ない場合の安全な避難
注意事項の確認

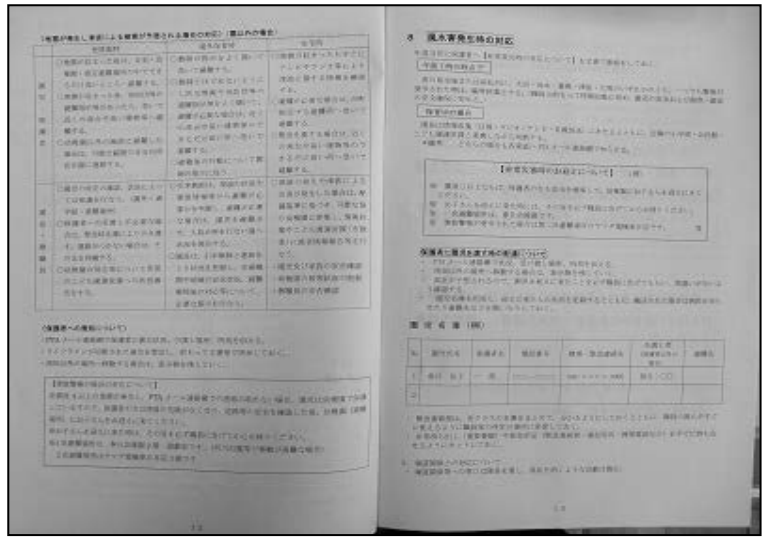
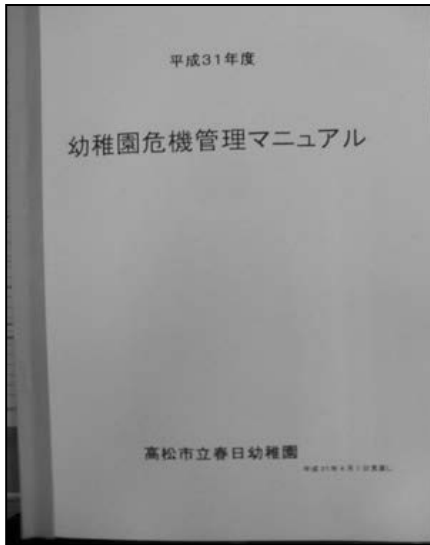
7 準備物 拡声器、担架、救急用品、ストップウォッチ、トランシーバー、ビブス、カメラ、携帯ラジオ、ホワイトボード、雑巾(各グループごとで準備)

3 教職員の研修会等への助言

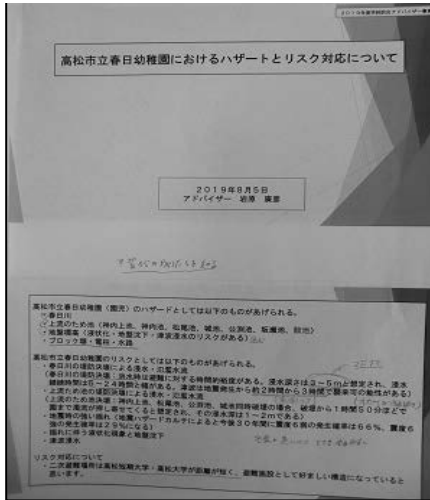
2019年度 学校防災アドバイザー派遣事業報告書

学校（園）等の名称	高松市立春日幼稚園
派遣内容	○ 春日幼稚園周辺のハザードとリスク対応について ○ 立地を考慮した二次避難場所について ○ 園舎の危険箇所と対応について
日時	令和元年8月5日（月）10:00～11:30
場所	高松市立春日幼稚園 保育室
対象者 参加人数	幼児児童生徒 約 名 教職員 6名 クラス数 クラス（特別支援学級 クラス）
外部より当日参加した 防災関係者	参加者合計 名 隣接する学校（園） 名 保護者 名 自主防災組織 名 消防署 名 その他（ ） 名
内容・日程等	10:00～ 講話（資料、視聴覚機器を通して） 11:15～ 園舎の危険箇所について（視察、指導助言）
取組における成果	<ul style="list-style-type: none"> ・本園は川に挟まれた低地に所在しており、津波の可能性を考慮して今回の事業を依頼した。幼稚園周辺の立地から起こり得る災害インシデントを知るには、現在の地形の成り立ちについて知る必要があり、昔の地図や文献などから地形や地盤の状況について知ることができた。また、科学的な見地から予想される液状化や津波についても知ることができた。 ・今まで考慮していなかったが、津波や液状化以上に、地形から起こり得る最大の災害インシデントは、南方に点在している複数のため池決壊ということが分かった。大地震に加え、昨今の大雨によるため池決壊も考慮した災害対策の必要性が分かった。様々な危険因子の分析により、あらゆる災害に対応し得る情報を得ることができたので、危機管理マニュアルの見直しに取り入れていきたい。 ・二次避難場所については、春日地区の地形から鑑みて、従来通りのヤマダ電機に加え、高松大学も適していることが分かった。避難経路は多ければ多いほど、災害対策の選択肢も広がるので、地域の防災会と連携しながら避難訓練に取り入れていきたい。
今後の課題	11月のシェイクアウト避難訓練で、今回の指導を受けて、避難訓練および引き渡し訓練を行う予定である。今回の話で出た地域の自主防災組織との連携も行えるよう、取り組んでいきたい。

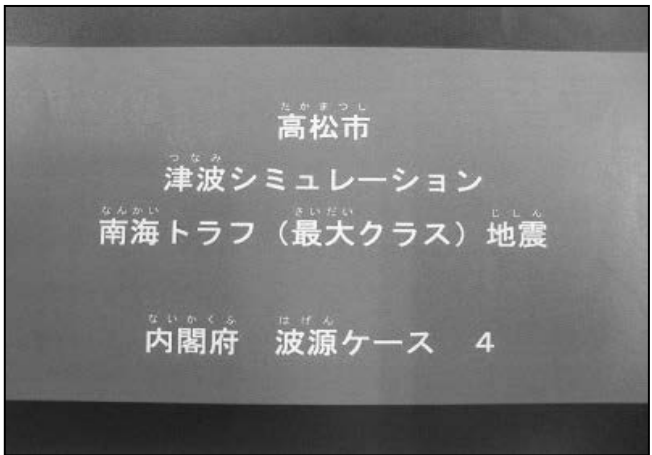
【危機管理マニュアルの見直し】



【専門家が作成した本園のハザードとリスク対応について】



【協議で用いられた『内閣府のシミュレーション』の説明より】



2019年度 学校防災アドバイザー派遣事業報告書

学校（園）等の名称	坂出市立坂出中央幼稚園
派遣内容	地域を歩いて、園周辺の危険箇所を確認する
日時	令和元年8月29日（木）14：30～16：00
場所	坂出市立坂出中央幼稚園とその周辺
対象者 参加人数	教職員 12名 ・ PTA会長 1名 学校関係者評価委員 3名
外部より当日参加した 防災関係者	0名
内容・日程等	14：30 あいさつ・趣旨説明 14：40 園周辺を歩く 15：20 園周辺の災害環境や通園路の危険箇所、安全な引き渡し方法等、課題についてのご指導
取組における成果	○ 第1避難場所である隣接小学校の4階教室について、実際に足を運び、安全面や留意点などについて話し合った。学校関係者評価委員である小学校校長先生も交えて話し合えたことで、避難時に小学校からも配慮いただけることとなった。 ○ 第2避難場所について、相談に乗っていただいた。候補地数ヶ所について、防災マップと照らし合わせながら、地域を歩いて検討したことで、これまで視野になかった避難場所を提案していただけた。派遣事業後、連絡をとり、第2避難場所として連携をとることができた。
今後の課題	非常時の行動について園内での共通理解を深めていくこととともに、園の対応や考えを保護者に知らせて理解を得るように努めていかなければならない。地域の防災組織との日頃から連携を図っていくことも課題であると考えます。



地域を歩いて、危険箇所を確認



避難場所について検討



園内で共通理解

2019年度 学校防災アドバイザー派遣事業報告書

学校（園）等の名称	高松市立国分寺北部幼稚園
派遣内容	避難訓練の指導
日時	令和元年9月6日（金） 10:00～10:30
場所	高松市立国分寺北部幼稚園 各保育室・園庭
対象者 参加人数	幼児児童生徒 約 100名 教職員 約 9名 クラス数 4クラス（特別支援学級 クラス）
外部より当日参加した 防災関係者	参加者合計 名 隣接する学校（園） 名 保護者 名 自主防災組織 名 消防署 名 その他（ ） 名
内容・日程等	大地震が起こった場合の子どもの避難の仕方や教師の誘導の仕方、また、教師間の連携などについて、より安全で効果的な方法について指導していただく。 10:00 緊急地震速報を聞く 10:02 地震発生（震度4） 避難の放送・一次避難（各保育室） 10:05 火災発生 避難の放送・二次避難開始（園庭） 点呼・残留確認・非常持ち出し等 10:15 評価 園長先生の話・防災士の話 10:23～10:30 職員への指導
取組における成果	<ul style="list-style-type: none"> ・実際の避難訓練を見ていただいたことで、客観的な意見を聞くことができた。中でも、教師自身の動きや放送機器の破損、初期消火の確認など、実際に起きてみないと気付かないことも、具体例を出して、危険さやよりよい方法について指導していただいたことで、次の避難訓練に生かすことができた。 ・職員への指導をいただいたことで、職員の非常時に対する意識の向上にもつながった。
今後の課題	河川（本津川）の氾濫により保護者のお迎えが遅れることも想定される、というアドバイスをいただいた。子どもを長時間預かることを想定した、非常持ち出しの準備や子どもや保護者の不安感を受け止めた対応などについて考えておく必要がある。

地震・火災避難訓練計画実施記録

実施日時	令和元年9月6日(金) 10:00~10:30	
地震・火災想定 各学年の想定	震度4・受室電気の配線から出火 各保育室で活動中	
参加人員	園児 100名 職員 9名	
訓練の種類	地震発生後、火災発生の避難訓練	
避難時間	15分	
H30の 反省から	<ul style="list-style-type: none"> ・2階非常口の鍵番号を分かりやすい場所に明記しておく。 ・普段の生活の中での教師との信頼関係が、大切な時に話を聞く力につながる。 	
訓練の概要		
各学級・担任の動き・指導内容		
<p><事前指導></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地震の時の注意点や「おかしもち」について紙芝居等で知る。 		<p>ねらい (3歳児)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○放送や教師の指示に従って安全に避難しようとする。 ・「おかしもち」の約束の意味や避難時の約束事を確認し、落ち着いて避難する。 ・防災士の話を聞き、避難訓練の大切さを知る。
<p>10:00 緊急地震速報を聞く。</p> <p>10:02 地震発生 園内放送で避難指示(一次避難)(園長) 点呼、残留確認</p> <p>10:05 火災発生 園長発見、事務に連絡 初期消火(事務) (通報するなら、事務?) 揺れが収まるのを待ち、 園内放送で避難指示(二次避難)(園長)</p> <p>10:06 園庭へ避難開始 レンガ下階段 (できるだけ東寄り、ウサギ小屋から離れて)</p>  <p>点呼、必要に応じて残留確認 安全を確保し、非常持ち出し</p> <p>10:15 評価 (園長先生、防災士の話を聞く)</p> <p>10:23~10:30 防災士より、職員向けの指導 <各クラスにて事後指導></p>		
教師の動き・指導内容		
<p><事前の準備・使用教材>「おかしもち」紙芝居 【訓練前の事前指導・確認事項・準備物】</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆ 訓練の前日に避難の際に、気を付けることについて話し、子どもたちと確認する。 ☆ 紙芝居等で、実際に大きな地震が起きた場合に起こりうることについて知らせたり、緊急地震速報を聞き、その役割について説明したりする。 <p>※教師間で声を掛け合う</p> <ol style="list-style-type: none"> 地震発生(放送) <ul style="list-style-type: none"> ・分かりやすく簡潔に子どもへ指示(木下) ・出口の確保、電気を消す(平田) ・いちご組残留確認(平田) 1階() 2階() 火災発生(放送) <ul style="list-style-type: none"> ・分かりやすく簡潔に子どもへ指示(木下) ・出口の確保 ・保育室の窓・出入り口窓を閉める(平田) 園庭へ避難 <ul style="list-style-type: none"> ・準備ができた子どもの先頭で避難を誘導、E児(木下) ・M児の手をつなぎ列の最後から避難(平田) 点呼(レンガ階段下東寄) <ul style="list-style-type: none"> ・子どもに2列で並ぶように指示、複数で人数確認 →園長に報告 ・静かに座って待つよう指示 事後指導 <ul style="list-style-type: none"> ・本時の訓練の振り返り、反省 		
評価 成果◎ 課題※	<p>幼児</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「怖かった」「そら組さんが手をつないでくれてうれしかった」5歳児と手をつなぐことで、遠い経路も、安心して避難できた。 ・モモ母、靴下で避難していた。 ・避難時、狭い経路に色々なクラスが押し寄せ、混雑し、移動がもたついた。 	<p>教師</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地震の後の火事だが、余震が予想されるので、窓や戸は開けたままにしておく。 ・2階の子どもは、非常階段を2列で歩けるように普段から指導して慣れさせておく。 ・避難する時は遊具や木が倒れる恐れがあるので、離れた所を歩く。

【防災士からの指導】

- ・避難経路を考える時、「どこが危険」ということを考えなくてよい。その時に確認して安全なら、スロープ、レンガ階段も活用する。
- ・Tの子どもへの安心できる言葉掛けがよかった。
- ・5歳児と3歳児が手をつなぐ場所は、狭い保育室の前ではなく、少し先の広い場所でもよかったのではないかな。
- ・T間の連携、よかった。・4歳児、机の脚を持っていなかった。
- ・Tが動きすぎないように、Tも必ず避難し、子どもたちのモデルになる。
- ・放送機器が壊れることもある。叫んで伝える訓練も取り入れる。(午後からやってみた)
- ・初期消火はしているものの、初期消火成功という情報がないのに、火元に近づいて避難していたのはなぜ? 火元の確認をすること。
- ・非常持ち出しの方法。「誰か来てください」ではなく、必ず名指しし、複数で行うこと。
- ・避難誘導する際、『絶対しなければならない事』と『できればした方がよい事』をよく話し合っておくことが大切。

2019年度 学校防災アドバイザー派遣事業報告書

学校（園）等の名称	高松市立大野小学校
派遣内容	避難訓練についての指導及び校内環境についての指導
日時	令和元年9月2日（月） 10:00～11:20
場所	高松市立大野小学校
対象者 参加人数	幼児児童生徒 約 420名 教職員 約 25名 クラス数 17クラス（うち特別支援学級 3クラス）
外部より当日参加した 防災関係者	参加者合計6名 隣接する学校（園）名 保護者 名 自主防災組織 5名 消防署 名 その他（香川大学） 1名
内容・日程等	休み時間を想定した避難訓練 ・事前にいつ訓練するか知らせずに行った。 児童への指導 教職員の動きや校内環境について助言を得る。
取組における成果	<ul style="list-style-type: none"> ・訓練法が実際に即したものになっていた。 ・数年前と比較すると、児童の移動が静かにスムーズにできていた。 ・教職員の動きも以前よりスムーズになっていた。ヘルメットをかぶるなど、意識の高まりも見られた。 ・不明者がいると想定し、教職員が捜索に行くことや危険で通れないところがある、等工夫をすることができた。 ・地域と連携することができた。 ・訓練時刻を知らせないことで、児童も実際に即して、主体的に判断しての避難を行う訓練ができた。
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ライフラインが止まったことを想定した訓練を今後行いたい。 安全確認を周知する方法を考えたい。 <ul style="list-style-type: none"> ・病气やけがをしている児童がいることも想定して行いたい。



安全確認について知らせる教員



初期行動をする児童

【事業当日の参考資料】

第3回 避難訓練実施計画（案）

令和元年8月29日
企画委員会 危機管理担当

1. 目的

- ・ 地震による理科室からの出火を想定し、**第一次避難所への避難のしかたを身につける。**
- ・ 「おさない、かけない、しゃべらない、もどらない」の基本行動を身につける。

2. 実施日、時間

令和元年9月2日（月）リフレッシュタイム（2校時終了から5分後地震発生）

3. 実施要領

(1) **訓練時の想定** 震度5の地震発生。避難経路を考えながら、第一次避難場所へ避難行動。校庭南側に集まり点呼。

(2) 訓練の事前指導内容（児童）

○訓練の事前指導内容

①地震や火災など、予想される災害について知る。

②災害時の避難の仕方、経路を覚える。

休み時間における第一次避難方法・経路。

(避難方法)

⇒・各教室 : 机の下に入る。

・階段・廊下 : 窓ガラスから離れ、小さくなる。近くに教室がある場合は入り、机の下へ。

・トイレ : その場に小さくなる。(個室は、出て小さくなる)

・校庭・体育館 : 中央に集まる。

(経路)

⇒放送をよく聞き、危険箇所、火災現場を避けて運動場へ。

③避難時の「おさない、はしらない、しゃべらない、もどらない」の基本行動。

④たたメット、ハンカチの避難時の使い方と必要性。

⑤校舎から外に出た時、**足早**に避難場所へ行く。

(3) 共通理解・行動（職員）

☆災害発生時、児童の安全を最優先で避難させる。

【授業時間外の地震】

○各教室にいる職員

⇒①教室内の児童を机の下へ。

近くの廊下にいる児童を入れる。または、窓ガラスから離れて小さくなる指示を出す。

②（揺れがおさまる）教室内及び周辺の児童を集め、安全を確かめながら避難させる。

③（避難しながら）周囲の児童に落ち着いて避難する指示を出しながら、誘導・避難させる。

○教室外にいる職員

⇒①近くの児童に安全行動の指示を出す。

②（揺れがおさまる）児童が安全に避難できるように、危険箇所・火災現場を考慮し指示を出しながら誘導する。

③避難できていない児童がいないか確認しながら避難する。

【児童を避難場所に誘導後】

○学級担任

⇒①避難場所にて、児童の整列・確認。

②遅れて避難してくる児童を並ばせる。確認。

○学級担任以外

⇒①校舎内の残留児童の確認。声を掛けながら避難を知らせる。

②逃げ遅れた児童とともに避難する。

【児童の確認が取れなかった場合】

○不明児童を共通理解した後（学年主任は残る）

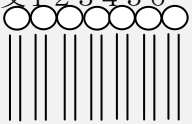
☆笛を吹く回数で、階数を示す。

※児童の確認が取れなかった場合の残留児童検索

※児童検索担当 ※見つけた場合…笛を吹いて、避難。

中庭（その後連絡役）：教務 南校舎1階：4年担任 2階：1年担任 3階：6年担任
 学級園、体育館周辺：級外職員2人 北校舎1階：支援学級担任 2階：2年担任 3階：5年担任
 その後、教務から教頭へ報告。

(4) 訓練内容

訓練の流れ	教師の行動	児童の行動
<p>10:05</p> <p>10:15 地震発生（リフレッシュタイム）</p> <p>地震終了 火災発生</p> <p>周囲の安全確認</p> <p>避難開始</p>	<p>○事前準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セコムに訓練の連絡。（教頭） ・訓練終了後の上がり口に上履きを拭く雑巾を用意。（各担任） <p>☆教頭（♪連絡チャイムを鳴らす）</p> <p>「訓練。訓練。間もなく、避難訓練を行います。サイレンの鳴っている間は地震により揺れているとします。※もう一度繰り返す。」</p> <p>○サイレンを鳴らす。（教頭）（少し間をとってから、サイレンを鳴らす。）</p> <p>☆教頭</p> <p>「静かに、机の下にもぐり、机をしっかり持ちなさい。机が近くに無い人は、安全な場所で頭を守りなさい。」（10秒間サイレンを鳴らす）</p> <p>○職員は避難用の窓・扉を一カ所開き、安全を確認して避難する。</p> <p>☆教頭</p> <p>「地震が止まりました。静かに運動場に避難しなさい。※もう一度繰り返す。」</p> <p>○全職員は周囲の教室、廊下、階段の安全を確認しながら近くの児童を誘導しながら避難する。</p> <p>[各教室にいる職員]</p> <p>⇒教室にいる児童に対し、たたメット着用（可能な者のみ）廊下に並ぶことを指示し、避難。階段を下りるときは低学年優先し、最大4列で下りる。</p> <p>[教室外にいる職員]</p> <p>⇒危険箇所、使用不可場所を考慮しながら、児童の誘導にあたる。</p> <p>[教頭・職員室内職員]</p> <p>⇒ヘルメット着用し、マイク・出席簿を持ち出して避難。</p> <p>☆避難途中で使用不可場所があった場合は、他ルートを探して避難する。</p> <p>[学級担任]</p> <p>⇒運動場（第一次避難場所）にて、児童の確認。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人員報告 （担任→学級主任→教頭→校長 ※担任欠勤時、教頭の指示で級外職員） 「●年●組 在籍●名（中出席●名）全員確認」 <p>☆児童の確認が取れなかった場合、残留児童検索（表面表記）</p> <p>○全体の反省</p> <p>①目的の確認、避難指示から全学級報告終了までの避難時間（危機管理担当）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・口を閉じて聞く。 <p>○放送、担任の指示を静かに聞く。</p> <p>○各自の場所ごとに避難行動をとる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たたメットをかぶる。 ・ハンカチを口にあてる。 ・「お・か・し・も」を守り、避難する。 <p>○安全なルートを選んで運動場へ避難する。</p> <p>・校庭へ避難。南側を向いて静かに待つ。</p> <p>○並び順</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin: 5px;">南側</div> <p>支 1 2 3 4 5 6</p> 

避難完了	②避難時の様子について（自主防災会長 二川様） ③避難訓練終了を伝え、戻る指示。（危機管理担当）	<ul style="list-style-type: none"> ・うわばきの土をとってから校舎に入る。 ・ふりかえり
全体反省	○戻り口、足ふき雑巾設置 北校舎西側：3年 児童クラブ側：2年 くつ箱：5年 まめ1側：1年 職員玄関：6年 南校舎運動場出入口：4年	
訓練終了	○各学級でふりかえり（学級担任）	

R1、9、2

（今回の訓練について）

■児童への事前指導

○訓練の事前指導内容

①地震や火災など、予想される災害について知る。

②災害時の避難の仕方、経路を覚える。

休み時間における第一次避難方法・経路。

（避難方法）例

⇒・各教室 : 机の下に入る。

・階段・廊下 : 窓ガラスから離れ、小さくなる。近くに教室がある場合は入り、机の下へ。

・トイレ : その場に小さくなる。（個室は、出て小さくなる）

・校庭・体育館 : 中央に集まる。

（経路）

⇒放送をよく聞き、危険箇所、火災現場を避けて運動場へ。

☆今回使用不可の場所あり

③避難時の「おさない、はしらない、しゃべらない、もどらない」の基本行動。

④たたメット、ハンカチの避難時の使い方と必要性。

☆たたメットがない場合の、近くにある物で、守ることも可能。

⑤校舎から外に出た時、足早に避難場所へ行く。

■残留児童検索の実施

○不明児童が2名いた場合を設定。

学年主任は残る

※児童の確認が取れなかった場合の残留児童検索

※児童検索担当 ※見つけた場合・笛を吹いて、避難。

中庭（その後連絡役）：教務 南校舎1階：4年担任 2階：1年担任 3階：6年担任

学級園、体育館周辺：級外職員2人 北校舎1階：支援学級担任 2階：2年担任 3階：5年担任

その後、教務から教頭へ報告。

☆見つけた場合・・・笛を吹いて知らせる。（吹く回数で階数をしめす）

■児童の様子を写真に撮る。

☆可能な方だけでいいです。児童が身を隠している様子や、避難している姿など。

2019年度 学校防災アドバイザー派遣事業報告書

学校（園）等の名称	香川大学教育学部附属坂出中学校
派遣内容	地震・津波避難訓練
日時	2019年8月29日（木） 11:25～12:10
場所	香川大学教育学部附属坂出中学校
対象者 参加人数	幼児児童生徒 約 329名 教職員 約 25名 クラス数 9クラス（特別支援学級 クラス）
外部より当日参加した 防災関係者	参加予定合計 0名 隣接する学校（園） 0名 保護者 0名 自主防災組織 0名 消防署 0名 その他（ ） 0名
内容・日程等	いつ起こるか予測できない大地震や津波（南海トラフ大地震など）について、そのとき自分がとるべき行動を予め考えさせることを通して、日頃からの防災意識を高める。
取組における成果	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が避難している様子を見ていただき、事後指導の場で、全校生に向けてアドバイスをいただいた。防災アドバイザーという専門家の方からの話を聞くことができ、生徒は真剣に聞いている様子であった。「一番大事なことは、命を守ること。無言で逃げることだけが大事なわけではない。」という話や「机の下に身を隠すときは、脚を対角線上に持つ。」というアドバイスが強く印象に残ったようであり、生徒の事後の振り返りから多く見られた。 教師も、いかに災害時を想定して訓練に取り組むかということについて見直した。「実際に担架に人を乗せて運ぶ」、「避難の際に、火災が発生していないかなど校舎を確認する」、「状況に応じて必要な教師の声かけ」など、細かな部分まで助言していただいた。次回の訓練時に活かしたい。
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> 災害に備えた職員間の組織づくり 地域の避難所としての役割



（地震を想定し頭を守っている様子）



（地震を想定し運動場に避難している様子）



（津波を想定し上の階に避難している様子）

【事業当日の参考資料】

○ 避難訓練の計画

時 間	内 容
開始 1分後	緊急地震速報（事務室から） 「訓練。訓練。ただいま大きな地震が発生しました。それぞれの場所で安全を確保してください。」 授業者：周囲の状況に応じて生徒に指示。動かず、揺れのおさまりをまつ。 （教室）身を低くさせたり、落下物を避けるために机の下にもぐらせたりする。 → 火気 出入り口のチェック（開けておく）、机の脚を持つ！ （外）身を低くさせたり、落下物の無い場所に避難させたりする。
3分後	避難合図放送（教頭先生による放送） 「揺れがおさまりました。速やかに運動場に避難してください。」 授業者：避難指示（あわてさせない！私語させない！）、経路確認、出席簿持ち出し <u>経路</u> それぞれの場所から最短ルート「 <u>2階の生徒は階段の外側、3階は階段の内側</u> 」を <u>通って上履きのまま運動場へ</u> ※早く到着した教員が隊形指示（全校朝礼の隊形） <u>人員報告「在籍〇名、欠席者〇名、現在〇名」</u> <u>点呼</u> 協議委員→担任→学年主任→教頭へ報告
7分後	生徒は運動場に集合完了
10分後	津波対策の避難訓練説明（安全担当より） ・運動場に一旦避難する機会が多いこと ・経路および津波避難場所の確認 ・津波到達の時間・・・約1時間 ・高さ【坂出市は4m】 ・備蓄食料が必要なこと
14分後	津波避難訓練開始（その場で） 教頭先生 「津波がくるという情報が入りました。速やかに担任の先生の指示にしたがって、備蓄食料をもって校舎3～4階に避難してください。」 2組担任の指示に従い1-3・2-1・3-1から移動 各場所の雑巾で上靴をきれいに拭く。 1年：自転車置き場側→教室→東非常階段→3F：2年兄弟学級へ 2年：西非常階段→教室 教室移動後点呼：協議→教室担当→主任→教頭 3年：下駄箱→教室→中央階段→4F：美【3組、2男】音【2女、1組】
21分後	避難完了確認（教頭先生による放送） 「体育館に集合してください」の指示で、備蓄食料をもったまま、体育館に集合する。
30分後～	体育館で、学校防災アドバイザーの方からの助言

【事業当日の参考資料】

○ 役割分担

- (1) 総指揮・・・・・・・・副校長
- (2) 生徒全体指導・・・・・・・・教頭, 生徒指導
- (3) 実施計画・・・・・・・・教頭, 安全主任
- (4) 緊急放送(避難合図), 近隣への訓練事前連絡・・・教頭
- (5) 生徒の避難誘導・・・・・・・・授業者
- (6) 避難時の指導・・・・・・・・全教員

【地震避難時】

避難誘導および計時(教頭)・・・指揮台の前あたりで運動場全体の状況把握, 声かけ
(授業空き教員)・・・車回し付近で誘導

安否確認・救助(授業空き教員)・・・生徒の状況把握, けが人の救助

*保健室から担架を持って運動場へ(授業空き教員)

救急医療(養護教諭)・・・・・・・・けが人の応急処置

保護者連絡(教頭)・・・・・・・・連絡網(電話, メール), けが人の保護者への連絡

点検と消火(授業空き教員)・・・出火していないか確認, 消火活動

応急復旧(授業空き教員)・・・救急車等, 車両が入れる通路の確保


【津波避難時】

発電機の移動・確認


ぞうきん用意

○ 生徒の振り返り


今日の訓練では、静かに、すばやく、落ちついて、行動
することができました。アドバイザーの方のお話にもありま
した。机の下にかくれた時に、まちんと肘を対角で
持つことができました。また、「意味のない訓練は、
本番に通用しない」とおっしゃっていたので、
訓練があっても、これから真面目に
とりくみたいと思います。



今日の訓練で改めて真剣に訓練し、地震にやむを得
ないことが大切なんだなと感じました。南海トラフ
大地震などの大きな災害が起こる時がいつになる
か分かりませんが、地震や津波を止めることはでき
ないため、私たちができる最善のやむを得
ないことなと思いました。学校に限らず、
家でも防災対策をしたいです。



今日の訓練は、指示されたとおりに移動・避難することができ
たと思います。しゃべらずに素早くできて、良かったです。でも、実
際には今日みたいに落ち着いてほしいと思います。訓練
を思い出してできるだけ落ち着いて行動したいです。アドバイ
ザーの方、机のあとに対角線になおりに持つと教え
てくれて、今までには知らなかったの。これからの訓練
や本番では、そうするようになりたいと思います。



2019年度 学校防災アドバイザー派遣事業報告書

学校（園）等の名称	香川県立飯山高等学校
派遣内容	第2回避難訓練における防災講演
日時	令和元年12月18日（水）12:10～13:00
場所	新体育館等
対象者	幼児児童生徒 約 580名 教職員 約 60名
参加人数	クラス数 19クラス（特別支援学級 クラス）
外部より当日参加した 防災関係者	参加者合計 4名 隣接する学校（園） 名 保護者 名 自主防災組織 名 消防署 名 その他（ ） 名
内容・日程等	12:10 クラス担任による指導 12:11 地震発生、シェイクアウトの実施（12:12 火災発生、緊急放送） 12:13 119番通報訓練 12:20 集合点呼完了、教頭講評 12:25～13:00 防災アドバイザー講演 13:10～13:40 意見交換会
取組における成果	<p>避難訓練：生徒・職員ともに各教室・準備室などでシェイクアウトを実施し、緊急放送後は事前に説明していた「押さない（お）、走らない（は）、しゃべらない（し）、戻らない（も）、近づかない（ち）」を守り、速やかに避難できていた。また、避難後も整列し、速やかに報告できていた。今回の火災発生は、ボイラー室という二次災害が考えられる場所を設定していたので、さらに普段の避難経路を変更する必要があることを生徒に意識づけるように教員も誘導を行なった。また、1階教室はベランダ側から70cmほどの段差を降りての避難も体験させたが、その際にも9月に行った防災LHRの内容を想起させ、怪我をして避難できない状態にならないように、また、怪我をして動けなくなった人がいた場合はどうするかなどを考えながら避難するように促した。教員等も危険場所やポイント場所で誘導するだけでなく、それぞれが避難する中で、少しでも混雑が回避できるルートへの誘導・声掛けを行っていた。その結果、生徒達は複数の避難経路や避難パターンを考える機会を持つことができた。</p> <p>講演：南海トラフ巨大地震が発生した際の本校周辺の状況、被害状況、地域防災の拠点としての機能を担う本校生徒にできる自助・共助・公助、連携などについて、具体的にご説明頂いた。最後に、本校の校訓になぞらえて、「真実にももの（防災）を考える。真実にももの（人）を愛する。真実にももの（地域）をつくる喜びに力と汗を惜しまない」とご提言頂いた。生徒・職員ともに災害を自分のこととして捉え、自分の行動や役割についての認識を高めることができた。</p> <p>意見交換会：今回の防災訓練や今後の方向性について、ご意見を頂いた。ま</p>

	<p>た、他の学校や地域での避難訓練等の様子や成果についても情報提供して頂いた。</p>
<p>今 後 の 課 題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今回は、防災訓練の実施日、時間、避難経路などをあらかじめ周知していたが、今後は時間を知らせない、傷病者や障害物を設定する、詳細は一部の職員しか知らせないという状況で実施してみてもどうか。 ・担任ではなく、教科担当の授業時間中に訓練を実施することで、どの教員がどの教室で授業をしても対応できるように訓練することも効果的である。また、生徒と職員が避難方法や避難後の対応などについて、共通理解しておくことが大切である。 ・生徒一人ひとりが判断できる力を育成することが重要である。引き続きあらゆる機会に生徒に防災について考える機会を提供していくことが必要である。 ・避難訓練を計画する際には、広く意見を求めるなど、職員全体を巻き込んで行う。 ・引き続き学校防災アドバイザーの方々等にご指導・ご助言を頂き、地域の防災関係者と連携をとるなど、改善を目指していくことが大切である。



避難の様子



防災講演

2019年度 学校防災アドバイザー派遣事業報告書

学校（園）等の名称	香川県立多度津高等学校
派遣内容	防災講話
日時	令和元年9月13日（金）8：50～9：40
場所	本校体育館
対象者 参加人数	幼児児童生徒 約600名 教職員 約80名 クラス数 21 クラス（特別支援学級 クラス）
外部より当日参加した 防災関係者	参加者合計 名 隣接する学校（園） 名 保護者 名 自主防災組織 名 消防署 名 その他（近隣自治会住民）約30名
内容・日程等	体育館にて、講師による避難と避難生活をテーマに講話を実施した。香川大学より2名、香川県防災士会より2名の方が参加された。
取組における成果	最近の大きな災害（岡山豪雨災害など）を事例にあげ、非常時の情報収集、ハザードマップ等を活用した避難、自助のための家庭での備えなど防災、減災の視点から生徒・職員ともに収穫のあった講演内容でした。
今後の課題	訓練には机上訓練と模擬訓練があり、机上訓練は今回のような講話でも可能であるが、模擬訓練として、被災した時を想定した在宅避難や避難所等での生活環境を短期間でも実体験する訓練が有効であると考えます。しかしながら、全校生を対象にするのは不可能であり、少人数でも実施できれば、特に教員が体験することも必要である。



（ 防災講話 ）



（ 防災講話 ）

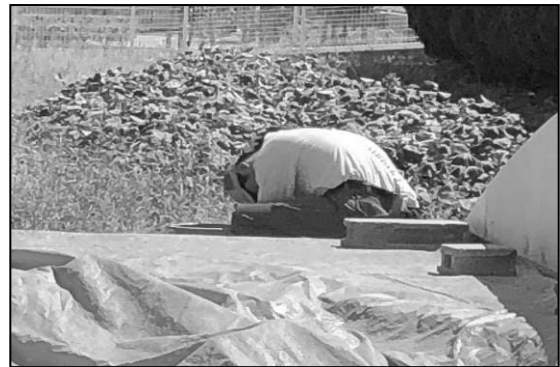
2019年度 学校防災アドバイザー派遣事業報告書

学校（園）等の名称	香川県立香川中部養護学校
派遣内容	地震・火災の防災訓練についてご助言及びご指導
日時	2019年9月6日（金）10：45～12：30
場所	香川県立香川中部養護学校校舎内，運動場
対象者	幼児児童生徒 348名 教職員 188名
参加人数	クラス数 57クラス 計 536名
外部より当日参加した防災関係者	参加者合計 6名 高松市南消防署 6名
内容・日程等	<p>○震度6弱の地震発生後、調理室より火災が発生した想定での防災訓練における問題点と改善への指導助言。</p> <p>10：45 消防署員、防災アドバイザー到着、概要説明・打ち合わせ 校内の様子、防災設備・避難経路等のチェック</p> <p>11：00 防災訓練開始</p> <p>11：30 防災訓練終了</p> <p>11：40 協議・指導助言</p> <p>12：30 終了</p>
取組における成果	<ul style="list-style-type: none"> ・震度6以上の地震・火災発生時には消防署の出動は困難になる場合を想定し、消火器の初期消火に加え、校内の全職員が消火栓の使い方を知り、有事にそなえる必要があるとの助言があった。今後の訓練のあり方を検討する必要があると感じた。 ・地震発生後、火災が発生した場合でも、放送等の指示待ちの様子が見られたことから、想定訓練のウイークポイントが分かった。地震の規模や状況により、一人一人の教職員が判断して避難するために必要なポイントを再考し、伝えることで自助の意識を高めることに努めなければならないと感じた。 ・大地震を想定して校内を点検すると、避難経路付近に固定されていないロッカーがあり、避難の妨げになるという指摘を受けた。校内設備の設置状況を見直し、できる箇所から固定化を図る必要性を感じた。
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・校内消火栓の使用方法研修の実施及び消火栓設備での消火可能範囲を示した図を各消火栓に設置。 ・放送機器が使えない場合の伝達方法及び災害発生時に教職員各自の判断により避難する防災訓練のあり方の検討。 ・校内設備設置状況の確認と見直し及び固定化の推進。

【防災訓練の様子】



【頭を守ってシェイクアウト】



【頭を守る工夫】：調理室にて



【防災本部】：災害状況把握

クロノロジー



【アドバイザーからの指導助言】：高松市南消防署と合同で




令和元年度 第2回防災訓練実施計画

- 1 日 時 令和元年 9月 6日 (金) 時間を知らせない訓練
- 2 目 的 (1) 地震発生やそれに伴う火災を想定して安全確保、安全行動を行う。(教職員・幼児児童生徒)
 (2) 放送をよく聞き、指導者の指示に従って避難行動をとる。(幼児児童生徒)
 (3) 避難訓練の体験を通して、災害時に落ち着いて行動する態度を養う。(幼児児童生徒)
- 3 想 定 (1) 災害種別 震度6弱程度の地震
 (2) 災害状況 ・地震に伴い調理室から火災の発生
 ・2号棟と3号棟の連絡通路の落下
 (3) 避難経路 倒壊物や出火場所を避けて避難する。
 (4) 救出活動 小・中・高各学部1名の負傷者有(救護所への搬送訓練)
 ※事前に負傷内容と負傷者を決めておく。本人への周知は個に合わせで行う。(担架、車いすが必要な負傷等)
- 4 避難場所 初期消火活動(雨天時体育館)
 避難場所：運動場南側(雨天時体育館)
 防災本部・救護所(運動場南側舗装部分の北側・雨天時体育館内入口付近)
- 5 準備物 訓練関連：ハンドマイク(教頭) おはしもカード 倒壊場所表示看板 緊急避難速報のCD PAパック
- 6 使用設備品等：定期的に緊急時、すぐに使用できるよう点検をしておく。
 救護関連：救護所用テント AED 救急セット 担架・車いす 座薬
 本部関連：ホワイトボード 防災本部持ち出しセット
 避難関連：ヘルメット 幼児児童生徒引渡し・緊急時連絡カード綴り
 各自必要なものを入れてきたリュック等を状況に応じて使用する。(職員、幼児児童生徒)
 ※幼小小学部低学年は、職員が中心に幼児児童の物の持ち出しを行う。小高学年、中高生は個に応じて持ち出し指導を行う。

7 日 程

時間の流れ	幼児児童生徒の活動	担当職員の動向及び搬送訓練	防災本部・学年主任等の動き
00:00	<p>緊急地震速報</p> <ul style="list-style-type: none"> 速報を聞き落ち着いて指導者の指示に従う。 安全確保行動(シェイクアウト) <p>「まず低く頭を守り動かない」 ガラス窓、転倒しそうな物から離れて机などの下に身を隠し、頭部を落下物から守る(ダングラムシのポーズ、サルのポーズ)</p>	<p>【防災の係】</p> <ul style="list-style-type: none"> 損傷個所の表示(事前) <p>【教頭】</p> <ul style="list-style-type: none"> 緊急地震速報(CD)を流す。 <p>【各担任】</p> <ul style="list-style-type: none"> 幼児児童生徒の把握及び全員の安全確保。 机から頭部がはみ出ないように注意する。 避難出口確保(出入り口の戸を開ける) 	<p>※地震が発生するまでに、以下のうち可能なことから行う。発生後は揺れが収まるまで安全確保行動をとり、各自の身を守る。</p> <p>【本部長】</p> <ul style="list-style-type: none"> 防災本部設置発令 本部職員を召集 災害状況把握(震源地、震度等) <p>【防災本部職員】</p> <ul style="list-style-type: none"> 防災本部へ集合

00. 20	<p>地震発生</p> <ul style="list-style-type: none"> ・揺れが収まるまで動かない。 ・安全確保行動をとる。 <p>地震放送</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放送を落ち着いて聞く。 ・安全確保行動を続ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ガラスの飛散防止（カーテンを引く） <p>【事務室】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地震継続音を流す。 <p>【全職員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全確保行動をとり、各自の身を守る。 <p>【教頭】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地震放送（揺れが収まるまで継続） 「訓練放送です。ただ今、強い地震が起きています。揺れが収まるまで、安全を確保してください。」 	<ul style="list-style-type: none"> ・クローロジ準備 <p>※揺れが収まり次第各自の業務を開始・継続する。</p>
01. 40	<p>待機放送</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放送を落ち着いて聞く。 ・ヘルメットの着用 ・持ち出し品の準備 	<p>【教頭】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・待機放送「待機放送。揺れが収まっています。幼児児童生徒の皆さんは先生の指示に従って、避難の準備をしてください。学年主任は、幼児児童生徒及び職員の安否状況と、避難路の状況を確認して防災本部に報告してください。繰り返しします。」（避難開始または中止決定まで継続。） <p>【各担任】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・待機中の幼児児童生徒の状況を掌握し避難準備をする。 ・トイレ等普通教室以外の場所にいる幼児児童生徒の所在の有無を確認する。避難準備。 <p>【保健室職員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者の安全確認及び避難準備（又は応援依頼） 	<p>【防災本部職員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害対策方針・職員の役割分担を協議・決定・周知する。 <ol style="list-style-type: none"> ① 待機放送の継続実施 ② クローロジにより校内の被災状況（幼児児童生徒職員の安否・施設の損害・火災等）を確認し、情報を可視化及び共有。（報告者は防災本部全体に聞こえるように報告。教頭はホワイトボードに時刻と内容を記入） ③ 災害状況（震源地、震度等）把握のため情報収集（テレビ、ラジオ、インタナーネット等により） <p>【学年主任】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担当区域の安否確認、災害状況確認を行い部主事へ報告する。校内の状況を再確認しながら持ち場に戻り避難支援実施する。 <p>【部主事】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内の災害状況の報告を受け教頭に連絡する。

02. 30	<p>非常ベル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・非常ベルを聞いて火災の発生を知る。指導者の指示を聞いて落ち着いて行動する。 	<p>【幼稚部職員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・火災に気付き非常ベルを押す。 <p>【事務室職員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・非常ベルにより火災の発生を知る。 ・防災本部に連絡する。 <p>【幼稚部職員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1号棟1階の職員に火災発生を知らせ、火災避難のマニュアルに添って幼児の避難誘導を開始する。 <p>通報訓練</p> <p>【教頭】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消防署へ火災の発生を通報する。 	<p>【教頭】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地震の被害や火災の状況の確認 ・校内図設置・避難場所の決定 ・火災発生を受け、マニュアルに沿って対応 ・消防署へ通報
03. 00	<p>避難放送</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放送を落ち着いて聞く。 	<p>【教頭】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出火場所、倒壊等の危険な場所、避難場所を知らせる放送を行う。 「避難開始の放送です。揺れは収まりました。1号棟1階の調理室より火事が発生しています。また2号棟と3号棟の間の連絡通路が落下して通れません。火事や危険な場所や物を避けて、安全に留意し先生の指示に従って、落ち着いて運動場南側に避難してください。」(3回繰り返し返す。) <p>初期消火</p> <ul style="list-style-type: none"> ・舎職員は消火器を持って火災現場に行き初期消火に当たる。 <p>【舎職員のリーダー】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初期消火不可能の連絡を本部に入れる。 	<p>【搬出担当】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・持ち出し品準備する。 <p>【防災本部職員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災本部を避難場所(救護テント横)へ移す。 ・避難状況等全体を把握する。
03. 30	<p>避難</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全に気をつけて避難する。 ・ヘルメットの着用 <p>「おさない・はしらない・しゃべらない・もどらない」</p>	<p>【各担任】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出火場所や倒壊している建物等避け、避難経路の安全を確認しながら避難する。 ・ヘルメットの着用を指導する。 ・ハンカチ・タオルなどで煙を防ぎ避難する。 	

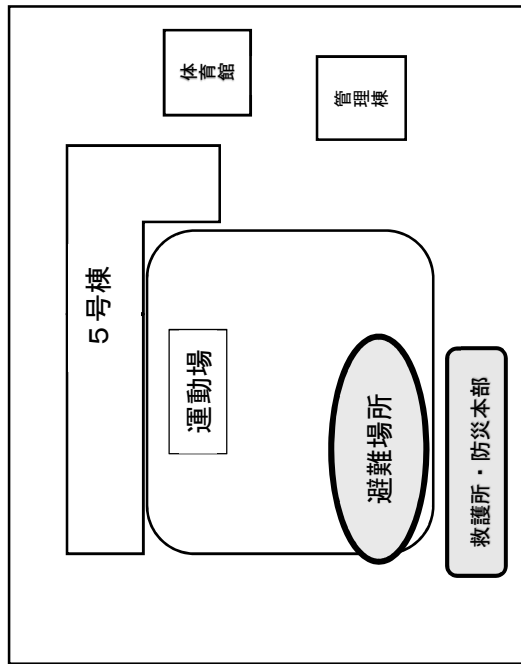
	<p>整列・人員点呼</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動場南西付近に南向きに整列する。(東から幼・小・中・高で集合) ・中・高等部生徒は学年ごとに2～3列で並ぶ。 <p>避難完了</p>	<p>【各担任・舎職員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各担任→主任(不在の時は1組担任)→部主事→教頭の順に人数を確認する。 ・寄宿舎指導員長は舎職員の安否を教頭に報告する。 ・人数確認時にけが人等の把握に努める。 ・救護所に行くときは必ず最寄りの職員に知らせる。 <p>救護テント設置〈児童生徒避難後に〉</p> <p>【負傷者担任・担当】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・救護所へ搬送(負傷者：小・中・高各学部1名) ① 後から救助に向かう方法：負傷者と担任1人は残り、他の職員は近隣の職員と連携を取って避難を行う。 ② 避難と同時に救助を行う方法：近隣の職員と連携を取って、負傷者以外の者の避難及び担架等を用意して負傷者の搬送を行う。 <p>【養護教諭・テント搬送職員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・救護所開設 ・負傷者の搬送援助及び手当 ・手当終了後、学年主任に負傷者の状況報告 <p>※避難完了後、児童生徒から離れられる職員は避難援助に回る。</p>	<p>【学年主任】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担任に各学年2～3列で整列するよう伝える。 <p>【部主事】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難状況の報告により避難状況把握する。 ・負傷者の救助要請をする。 ・教頭に避難及び負傷者の状況報告をする。 <p>【防災本部職員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難状況把握し記録する。 ・対策を協議する。
	<p>講評</p> <ul style="list-style-type: none"> ・整列の隊形のまま、講評を聞く。 <p>訓練終了・解散</p> <ul style="list-style-type: none"> ・靴の土を拭いて棟内に戻る。 	<p>1 消防署職員よりの講評 2 校長の謝辞</p>	

8 事前確認事項：避難訓練について，学年やグループで話し合いをしておく。

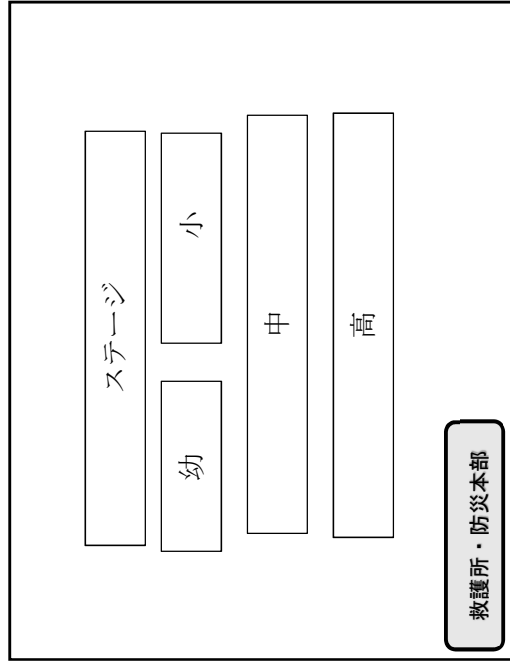
- (1) ヘルメットのかぶり方指導。
- (2) 「おはしも」の約束の指導。
- (3) 渡り廊下の下を通らない避難経路を各時間帯について考える。
- (4) 傷病者搬送訓練に向けて，担架の設置場所や使い方を確認する。
- (5) 幼児児童生徒及び教員用の持ち出し袋についての指導及び確認をする。(出席簿の持ち出しは不要)
- (6) シェイクアウト及びダンゴムシ・サルのポーズについての指導。
- (7) アクシヨンカード作成による職員の動きの確認を行う。

参考資料

(1) 避難場所 1 運動場



(2) 避難場所 2 〈雨天時〉 体育館



※地震火災の想定のため西寄りに避難する。

防災一口メモ 2

防災訓練に関する内容

シェイクアウトとは

安全確保行動1-2-3「まず低く、頭を守り、動かない」のことで。(図)



室内にいる時に地震が発生したら、その場で、

安全確保行動1-2-3「まず低く、頭を守り、動かない」を行います。

- ・まず体制を低くして地面に近づく(強い揺れで倒れる前に行く)
- ・固定されたテーブルや机の下に入り、頭を守る。頭を守るものがない場合、荷物など近くにあるもので頭を守る。
- ・そして揺れが止まるまでじっとして動かない。

クロノロジーとは

政府や自治体の災害対策本部運営の図上訓練の中で使われる「クロノロジー」は、災害対策本部の活動に記録に関して使われる言葉です。デジタル大辞泉によればクロノロジー(chronology)とは、「過去の出来事を年代順に並べたもの年表。または年代記。」のこととあります。「時系列活動記録」といった方がわかりやすいと思います。

アクションカードとは

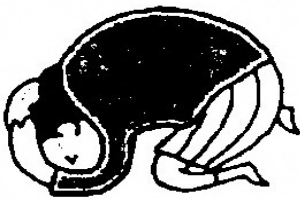
緊急時の各スタッフの「行動指針」で、できるだけ効率よく緊急活動を行うことを目的に作られたものです。医療現場で考案されたことが始まりです。カードには、学校安全マニュアルに準じて、個々の役割を具体的に書き込みます。本校では、有事における自分自身の行動の確認や他の職員との協力体制、意識の共有などのために使用しています。その役割について人がカードを読めば必要な行動が分かるように作成します。一度作ったら完成ではなく、学年団等でのシミュレーションを通して繰り返し作り直し修正を行うことが必要です。

防災一口メモ 1

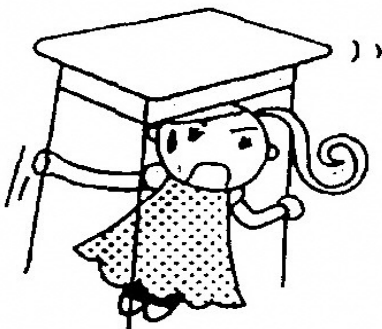
防災訓練に関する内容

●身を守る姿勢です

子どもたちに必ず教えましょう



- ① だんごむし
(机がないとき)
- ✓ 両膝を地面につける
 - ✓ 両手で頭を守る



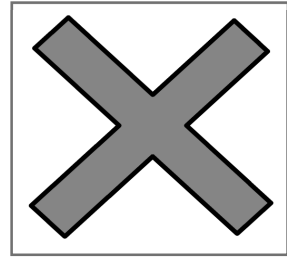
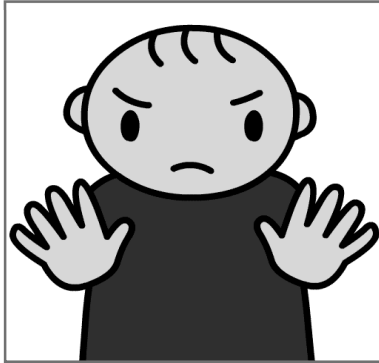
- ② サル (机があるとき)
- ✓ 脚の真ん中か上の方をつかむ
 - ✓ 4本脚の場合は斜めに
 - ✓ 両膝を地面に



- ③ あらいぐま
(火災のとき)
- ✓ ハンカチで鼻と口をおおう
 - ✓ ティッシュはダメ
 - ✓ 袖や裾・襟ぐりでもOK

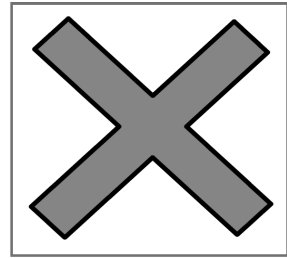
ひなんのやくそく

お



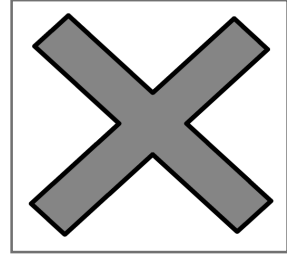
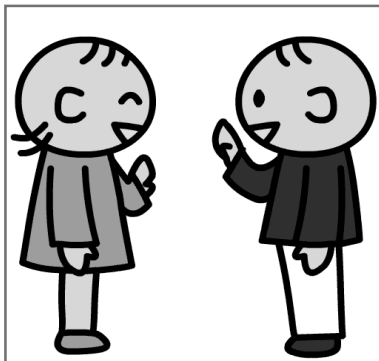
おさない

は



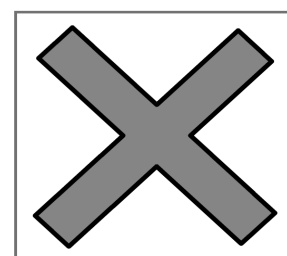
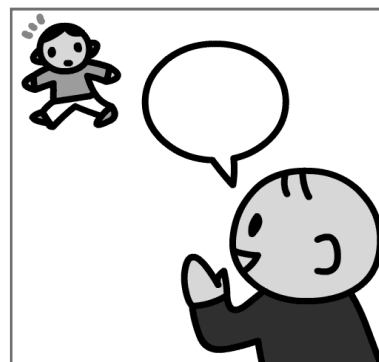
はしらない

し



しゃべらない

も



もどらない

せんせいはなしをよくきいてひなんする

(参考) 高校生を対象とした
災害時ボランティアリーダー養成講習会

高校生を対象とした災害時ボランティアリーダー養成講習会実施要項

1. 趣 旨

東日本大震災を受け、児童生徒等が自らの安全を確保する行動（自助）ができるようにするとともに、自他の生命を尊重し、学校、地域社会等の安全活動に進んで参加・協力（共助）し、災害時の支援活動に貢献できるようにするための防災教育が必要とされている。

そこで、本講習会は、県内公立高校生に対して、災害時のボランティア活動に関する基本的な理解を深めるとともに、防災体験や救護体験等を通して、災害ボランティアリーダーの養成を図ろうとするものである。

- 2. 主 催 文部科学省、香川県教育委員会
- 3. 共 催 香川大学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構
- 4. 日 時 令和元年7月22日（月）13：00～16：30
- 5. 会 場 香川大学創造工学部6号館（総合研究棟）2階 6202教室 他
〒761-0396 香川県高松市林町2217-20 TEL：087-864-2544
- 6. 対 象 県内公立高校生
- 7. 服装・持参物 体操服等活動しやすい服装、筆記用具
- 8. 内 容

12：30～13：00 受付

※香川大学創造工学部6号館（総合研究棟）2階 6202教室に集合

13：00～13：05 開講式

13：05～13：35 講義「災害時のボランティア活動について」

愛媛県立野村高等学校 富田 慎子 氏

13：50～15：40 実習Ⅰ「訓練システムの体験（地震発生時の避難行動）」

【1号館11階訓練システム室】

香川大学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構 井面 仁志 氏

高橋 亨輔 氏

高橋 真里 氏

実習Ⅱ「地震だ！生き残れた！その次に待っていることは…」

【1号館11階ラウンジ】

香川大学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構 松本 秀應 氏

※ 実習Ⅰ・Ⅱを2グループに分けてローテーションで実施

16：00～16：30 情報交換「災害時に自分たちにできるボランティア活動について」

【6号館2階6202教室】

9. お知らせ

- 本講習を受講した生徒を対象に、修了書の発行を予定しています。
- 希望者には、各学校から会場までの往復の交通手段についてバスの配車を予定しています。

当日の様子

(県内公立高17校45名参加)

講義「災害時ボランティア活動について」



実習Ⅰ「訓練システムの体験
(地震発生時の避難行動)」



実習Ⅱ「地震だ！生き残れた！
その次に待っていることは・・・」



情報交換



アンケート集計結果（参加生徒へのアンケートから一部抜粋）

1 講義「災害時のボランティア活動について」

- ・ 実際に被災した同世代の学生の声をきいて、災害がより身近なものだと実感した。
- ・ 体育館の中や家の中にまで水が入ってきていてびっくりした。実際に目で見ないと実感することができないという怖さ。自分の身を守るためには、防災意識、知識を高める。
- ・ 野村町がとても大きな豪雨の影響を受けていたことに驚いた。もしも私の地元が豪雨にあった時は、どう動けばいいのか理解できた。
- ・ 他人事と受け取ってはいけないと、身をもって感じた。
- ・ 災害はテレビの出来事ではなく、実際に起りうるものだと改めて実感した。地域の役に立てる様に正しい知識を持って行動できる人になりたいと思った。
- ・ 自分が支援者となり、できることを積極的に行うことが大切。
- ・ 実際に画像を見て自分と同じ高校生がここまで行っているので取り組んでみようと思う。
- ・ 高校全体でボランティアに参加していたり、自分達が被害にあっているときこそ、協力し合ったりして、高校生の力は必要とされていることがわかった。

2 実習の感想

○実習Ⅰ：訓練システム体験（地震発生時の避難行動）

- ・ その場で何をすべきか選択するのが難しかった。毎度同じことをすればいいというわけではないので、その場で最善のことを自分で考えて行動しなければならない。
- ・ 練習通りにいかないことも多く、最悪の時のことを想定して、行動するというのは、とても難しいことだと思った。もし災害が起これば、臨機応変に対応できるようにしたい。
- ・ 地域と学校の密接な関係性がその地域の復興に大切になってくるのだと思った。自分の意見を持ち、大人が大勢いるなかでも積極的に発言できるような行動力の高さを身に付けたい。
- ・ 時と場所、場合によって避難の仕方が全く変わるので、難しかった。避難経路の確認が大切だと思った。想定外のことがおこっても冷静に、臨機応変に対応する力は、簡単に身につくものではないなと思った。
- ・ 先生は改めて大変な職業だと思った。自分の命も考えなければならないし、子ども達の命も考えなければならないくて、かつ周りの状況、何がどこにあるかなど日々気を付けておかなければならないなと思った。
- ・ 頭でわかっているけど行動に移すことは難しいと思った。

○実習Ⅱ：地震だ！生き残れた！その次に待っていることは…

- ・ 地震が起きた時、私たちがどうするのかなどについて学べた。「備えていることしか役に立たない、本気で考えていることしか役に立たない」という言葉を聞いてこれからはしっかり備えようかなと思った。
- ・ 本気で家族と話し合っ、家族全員が生き残れる策を考えていきたい。生き残れたあとも、支援者として弱者の言葉に耳を傾けて主体的に動ける人になりたいと思った。
- ・ 避難所では、一人ひとりがお客様ではなく、まわりの人のために、行動することが大切だとわかった。また、それらをまとめるための組織も必要だとわかった。
- ・ 避難所にはさまざまな人が集まるのでルール等は「弱者の目線」で考えなければならぬと分かった。
- ・ 弱者（お年寄り、子ども、妊婦）の人たちには優しく寄り添って、自分たちでできることは考えて行動するという意識を今後にかしたいと思った。

3 これから、学校や地域などで生かしてみたいと思うこと

- ・ 今日のことは学校に伝えたい。（まとめてプリントをつくるなど）
- ・ 学校のHRの時間にはなかなか発表できないので、今日学んだことをポスターに書いて展示したい。部活のみんなに広めたい。
- ・ 学校で防災マップをつくる。学校で防災クイズなどをつくる。この2つを学校でやってみようと思いました。
- ・ 家族、地域の人々、友人などとの情報共有。防災マップを細かいところまで書く。→その確認。心のケア、地域の人との交流（地域で災害時協力を繋がる）。新聞スリッパの作成、伝える。
- ・ 避難経路や避難場所を地域の子や家族と確認をして、実際に災害にあった時のための備えをしようと思った。今日受けた体験や講義の内容を友達や家族に伝えて災害の意識を高めたい。
- ・ 地域に英語表記の看板を設置するなど、地域に広める。地域の避難訓練に参加。友達に教える。新聞のスリッパなど、他に日常生活のもので作れるものを調べて作ってみる。
- ・ 普段から自治会に参加するなどして、地域とのコミュニケーションをとっておく。

4 まとめ

本講習会は、本事業推進委員会の提言等をもとに、生徒が自らの安全を確保する行動（自助）がとれるとともに、自他の生命を尊重し、学校、地域社会等の安全活動に進んで参加・協力（共助）し、災害時の支援活動に貢献できるようにすることを趣旨として実施しており、今年で5年目となる。本年度、愛媛県立野村高等学校の活動報告は、自分自身と置きかえやすかったのか、県内で発災した場合どうするかなど、今後学校や日常生活等でどのように生かすのか実践的に考える姿が見られた。生徒や教職員がより、自らが考えて判断し行動できる能力や態度を育成できるよう、更に本講習会を充実・発展させていきたい。

